

厳冬の阿弥陀岳（八ヶ岳） 武田 誠司

世界の山旅

辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

白樺のハイキングのベスト10コースを厳選! 美しいブナの原生林とマウントクックの山麓を歩く ニューゼaland唯一のスカイライン・トレッキング

ニュージーランド・アルプス トップ10満喫ハイキング 12日間

日程 大阪・東京

- 1/5発 ¥526,000
- 2/16発 ¥532,000
- 3/16発 ¥520,000

ミルフォード・トラックと マウントクック 10・11日間

日程 大阪・名古屋・東京・福岡

- 2/8発(11日間) ¥516,000
- 2/18発(11日間) ¥598,000
- 3/6発(10日間) ¥513,000

ルートバーン・トラックと マウントクック 8・10日間

日程 大阪・名古屋・東京・福岡

- 2/8発(8日間) ¥443,000
- 3/23発(10日間) ¥569,000

カナダでのスノーハイイクと人気のロッジ滞在!

白銀のアシノポイントと ロッキー・スノーシュー ハイキング 7日間

日程 大阪・東京

- 2/7発 ¥348,000
- 3/29発 ¥386,000

ユーカリの大草原とオーストラリア最高峰に登頂!

世界遺産・ブルーマウンテンズと Mt.コジオスコ登頂 7日間

日程 大阪・名古屋・東京

- 1/14発 ¥430,000
- 2/11発 ¥456,000
- 3/4発 ¥422,000

世界で最も水と空気の美しい湖を歩く

タスマニア島 満喫ハイキング 8日間

日程 大阪・名古屋・東京

- 1/24発 ¥506,000
- 2/21発 ¥532,000
- 4/18発 ¥452,000

世界最高峰を望む好望岬地タンボシュエ!

エベレスト・パノラマ トレッキング 13日間

日程 大阪・名古屋・東京・福岡

- 3/9●3/23発 ¥360,000
- 4/6●4/27発 ¥360,000

南アフリカのハイライト・ハイキング

南アフリカ・テーブルマウンテン 縦走と喜望峯、ビクトリアの滝 9日間

日程 大阪・名古屋・東京・福岡

- 1/21●2/18●3/18発 ¥498,000
- 4/15発 ¥532,000

パタゴニアの山脈の決定版!

地の果ての大自然 パタゴニア・ハイキング 15日間

日程 東京

- 1/6●1/27発 ¥813,000
- 2/10●3/10発 ¥813,000

ゆったり登山、ウミガメの島、オランウータンの島

Mt.キナバルゆったり登頂と ボルネオ島ワイルドライフ 8日間

日程 大阪・名古屋・東京

- 1/24発 ¥218,000
- 2/11発 ¥230,000
- 3/14発 ¥224,000

ニューギニア航空道行便利。秘境の島へ!

バブアニューギニア最高峰 ウィルヘルム山登頂とロロアタ島 8日間

日程 東京

- 1/8発 ¥332,000
- 2/10●3/17発 ¥338,000
- 4/28発 ¥418,000

快適なLHJオランダ航空利用とアフリカ最高峰に登頂

キリマンジャロゆったり登頂と たっぷりサファリ 13日間

日程 大阪・東京

- 1/24●2/9●2/25発 ¥698,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>


ALPINE ツアー サービス 株式会社
国土交通大臣登録旅行業第400号 / 北海道旅行業協会正会員 / 日本山岳会正会員
 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京 / ☎03(3503)1911 大阪 / ☎06(6444)3033
 名古屋 / ☎052(581)3211 福岡 / ☎092(715)1557
 札幌 / ☎011(711)7106 仙台 / ☎022(265)4611(転送)
 (狭りんゆう観光) 広島 / ☎082(542)1650(転送)
 e-mail: osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか?
 山岳会、ハイキングクラブで企画
 ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
 山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
 キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き
 をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
 らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
 ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します



白梅（追分梅林）

春告草 清純 気品 馥郁たる香
「飛梅伝説」

東風吹かばにおいおこせよ梅の花
あるじなしとて春なわずれそ
都を離れる時 自宅の梅を詠んだ
梅花を愛された天神さまを慕い
一夜のうちに太宰府に飛んで来た
「鶯宿梅」

動なればいともしかし
鶯の宿はと問はばいかか答へむ
時は天曆 村上天皇の御代のこと
清涼殿の御前の梅の木が枯れた
新たな梅の枝に結び付けられた文
西の京 紀貫之の娘・紀内侍
鶯宿梅と名付けて元に戻された

月ヶ瀬梅林

Photo essay

梅香



題字 中田 蘭 石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一

梅林（奈良市追分）





楚々と流れる

季節の



冬木を廻って

実景

冬の流れ (朽木)

新春

撮影 武市通治



二筋の流れ

水の廻廊



民家を巡り





霧氷の林（台高・明神岳） 中川 光郎

霧氷の尾根を行く（鈴鹿・綿向山） 一芝 義雄



斐科山に向けて輝く朝日（美ヶ原） 高岡 富美子

幻想の森（京都北山・雲ヶ畑） 山中 茂





樹氷の神域を行く



雪の中にたたずむ不動明王



凍る老杉のたもとの道標

別冊 関西の山
新作 07 1・2月 新春 第92号

●目次

表紙：松田敏男「冬晴れの塩見岳、左隅は農鳥岳」(南アルプス)
●作者プロフィール ●1949年、京都生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌「山岳」の編集多数担当。(京都平安堂、南アルプス山小屋、東京モーラー百号、他)山の雑誌「光る山」発行(東京新聞社)。京山と對に親しみ会代表、日本山岳会会員

グラビア	梅香……………撮影 由井 収 文 松永 恵一 (口絵) 武田誠司 高岡富美子 山中 茂 中川光郎 一芝義雄 奥田英一郎 比良のアッシュキ……………武市 通治 古里松阪の山を歩く……………芝義雄 奥田英一郎 恥ずかしい山登り……………
紀行	丹次山(丹沢)……………田中 明 御池岳(鈴鹿)……………長谷川 雅俊 比叡山から大津京(比叡)……………木村 太郎 権現山北西尾根登高(比叡)……………小山 誠次 連載 標高による山の紹介シリーズ 32 △△92 日の山 三周ヶ岳・イチゴ谷山・大黒山・池口岳……………松田 敏男 夕春山(若狭)……………高島 伸浩 見当山・大日ヶ岳・水後山(奥美濃)……………鷺見 守康 恩賀高岩(妙高)……………山形 明 運載 三角点を訪ねて④……………純 湖南の山、阿星山へ(湖南)……………
エリヤ別荘研究	京都北山を歩く・ミニガイド(第一回) ①要諦から杖敷ヶ岳 ②亀岡から明智越え ③大原の金狸山・翠黛山 ④越畑から地蔵山 ⑤鞍馬から天ヶ岳……………村田 智俊 ⑥鞍馬から天ヶ岳……………柴田 昭彦 ⑦文学歴史探訪ハイク⑧……………50 44
ガイド	①三内山・天間山(若狭)……………松永 恵一 ②鼓ヶ岳(南勢)……………西尾 寿一 ③若岳(奥美濃)……………今井 淑雄 ……………金谷 昭……………76 73 70
その他	せせらぎ……………78 新ハイサイビステーション……………82 新ハイ関西山行計画……………88 新ハイ関西山行報告……………112 ホームページ・リーダー紹介……………110 編集後記・広告案内……………97

巻頭言

新しい年、読者の皆様には今年も益々ご健勝にて、活力あるハイキングを続けられますよう願っております。
少子高齢化社会の現状では、我々中高年者は病に冒されず、「元気が一番」の毎日が求められ、職場や家庭においてもまだまだ頼りにされています。医療・介護保険、および治療費の自己負担なども増大し、年金だけの生活も厳しくなっています。何れともあれ、病気に罹らないことが一番です。
そのためには、足腰を鍛え筋力をつけ、強靱な身体能力と明晰でやわらかい頭脳を維持し、いつまでも社会に貢献できる気力を充実させることです。手前味噌ですが、ハイキングは、これらの全てを維持増進させ、中高年齢には一押し健康スポーツだと言っております。
ハイキングすることで病を遠ざけ、患者にならぬ中高年者が増えれば、国の医療費負担は減少します。治療の救済だけでなく、その予防に配慮する施策が必要と考えます。
寒い日も暑い日も、今年も山を歩いて「元気が一番」で生きていきましょう。
新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



比良のアシウスギ

綱本 逸雄

ローブウエイなど比良索道施設が2004年3月に廃止され、八雲ヶ原湿原の植生も復元されると聞いていたので、どんな様子かと、久々に2006年初秋、ダケ道(大山)を登った。

廃材撤去でヘリコプターが上空を頻りに往復するなか、八雲ヶ原に着いた。ここ40年ほど何度も往來した所だが、周りを見渡すときれいに整地され、コヤマノ岳山腹の巨大な伏条台杉の群落が目に見えなくなった。最近まであったヒュッテに遮られて、今まで気がつかなかった光景だ。

この伏条台杉は、従来、天然のアシウスギといわれてきた。一般に常緑針葉高木のスギは日本特産で、青森県以南の日本各

地に分布する。東北地方の太平洋側から四国・九州にかけて分布するスギをオモテスギ、日本海側から北陸・山陰にかけて分布するスギをウラスギという。太平洋側のスギは葉が大きく開いて、触ると痛いくらいだが、枝に雪がついて折れてしまうことがある。しかし、日本海側のスギはオモテスギより葉の角度が狭く、内側に鎌状に丸く曲がっており、雪がついても枝が折れにくい。

アシウスギはウラスギの変種で、京都大学の芦生演習林(南丹市美山町芦生)で採取された天然スギが標準標本とされ、アシウ(芦生)の名が付いた。天然のアシウスギは青森から山陰地方まで分布する。また、枝が長くのびて毎年の雪で垂れ下がって地面に着くと、発根して枝が成長してゆく。これを伏条更新という。「条」は細長い枝の意である。

伏条台杉というのは、室町時代以降、天然杉を人工的に台杉仕立てに利用したことから、その名が付いたとされる。一本の杉台木(台杉=株木)から数本のまっすぐな細い支幹を育て、この細木を磨いて茶室や書院の垂木として利用した。台杉丸太、磨丸太とも称された。

比良のアシウスギについては、植物分類学の泰斗、北村四郎京都大学名誉教授著「北村四郎選集1落葉」(保育社、1982)に「だいいすぎ 北比良の八雲ヶ原にはずいぶん多い」「滋賀県では、花折峠より北にはアシウスギ、界(南限)は花折峠あたりである」とあり、掲載写真は「ダイスギ(アシウスギ) 滋賀県比良山、昭和三十六年五月七日 村田源撮影」とある。

村田源元京大講師「日本の種子植物を考える スギ(一)」(山梨植物研究 No.6・1995所収)に「スギの天然林が残って



随想 (山のエッセイ)

いるところは数少ないが、滋賀県の比良山八雲ヶ原の湿原はとり、特にコヤマノ岳の斜面中腹から下は野生のスギが多い。その中の大きいものに近寄ってみると、基部は二〇年以上も経たと思われる老幹があり、その枝が数本立ち上がって五〇―六〇年生の円錐形を示し、台杉型の樹形をした天然スギである。このような天然スギは比良山系では六〇―九〇m付近の花崗岩地に多い」とある。

京都滋賀自然観察会編「比良山系の自然」(京都新聞社1993)も「八雲ヶ原は、アシウスギの林も発達しています。こうしたアシウスギ林は、比良山系の冷温帯を代表する自然植生です」と紹介している。

ところが、私が八雲ヶ原の伏条台杉の葉を見たら、明らかに葉を広げたオモテスギである。樹齢400年前後とみられるスギの株はかつて主幹が切り取ら

れ、台杉仕立てになった人工林である。

『新ハイキング』(関西版81号(2005年3・4月))で随想「北山杉」という言葉を書いた。ここ数年、京都女子大学が所有する左京区大原尾越の里山「京女の森」(24区)の自然・人文調査チームに加わり、北山杉に関する通説について種々疑問が出てきた。北山で冬季、日本海要素のスギといわれた北山杉が毎年のように、積雪で倒れ多額の損害を出しているが、オモテスギだからである。

伏条台杉という用語も、台杉そのものが人工的に台杉仕立てに改良して支幹を育てた株杉に付された名称なので、伏条更新して自然成長した天然のアシウスギに形態が似ているからといって、同様に呼称するのは疑問である。

比良山系武奈ヶ岳、釣瓶ヶ岳、コヤマノ岳(鈴ヶ岳)は、近世、

近江国滋賀郡北比良村に属した。明治初期の山岳の景観を、同村誌(1882)は「比良山、最も高きを毛庵ヶ嶽といふ。険阻にして樹木稀少なり」「前山、一名大山といふ。金養ヶ嶽に面し、北は鈴ヶ嶽駒ヶ嶽に延亘す、全峰榮草なり」「駒ヶ嶽、樹木疎なり」「鈴ヶ嶽、西は毛庵ヶ嶽に連なり、樹木なし」、また地勢は「風光佳麗新翠之し」とあり、山岳一帯は草山だった。この「はげ山」に近い景観は、尾越の里山調査から、少なくとも近世中期まで測れる(参照、水本邦彦著「草山の語る近世」山川出版社)。

みるように、コヤマノ岳山腹の伏条台杉は、自然植生でなく明治以後に植林されたスギ林といえる。台杉の推定樹齢からも近世に測れるものもある。武奈ヶ岳から金養峠にかけては、「炭薪の山」として村人が頻りに開伐し、切り口付近から萌芽



を育て更新させた萌芽林（薪炭林）地だったことがわかる。炭焼きは、戦前までは日常に見られる光景だった。角倉太郎著『比良展望』（1942）に「（山系の）東側は石切の『植道』が多い。次は炭焼、樵夫、芝刈の通る細い道が至るところにある。彼らは、窯やコバを根拠としてそこから四方八方に道を存へ木を伐り、なくなるとまた職場を変わる」。角倉太郎著『比良連嶺』（1939）「コヤマノ岳 南面」は官行造林施行中で、杉などが綺麗に植林されている。「ヤクモガ原と金屎峠間の道 ヤクモガ原一帯から、ヨキトウゲの川と主流との合流点付近までは、山道も、近年官行造林の道を加えて非常に多くなっている。途中いたるところ南斜面が切拓かれて、一尺ほどの杉の苗木が簇立している」。

住友山岳会著『近畿の山と谷』（1941）に「八雲ヶ原（武奈ヶ岳めざし）沼を過ぎると暗い森林帯に入り、炭焼籠がある。炭焼道を伝って……最近炭焼のため、全部が伐採された」。

「ショウメン谷 最近、湖辺の部落から奥ノ深谷へ炭焼が入込むようになり、焼いた炭は金屎峠に架橋場を設け、山麓までケーブルを渡して運んでいる」と載る。

「琵琶湖研究所報」（1986）の解説記事「滋賀県における植生の現況と保護」がある。「滋賀県での自然植生タイプの分布特性」で旧志賀町（現大津市）のブナ・アサキワキ群落をあげているが、分布図を見ると生育地は八雲ヶ原である。

これまでみてきたように自然植生でないので、保護するにしても湿原内の野草などの原植生と周辺の樹林帯とは区別して慎重に復元することが求められよう。

古里松阪の山を歩く

藪木 伸人

上さんの従兄弟が、同じ松阪市内の山寄りに住んでいる。8月末に遊びに行った折、彼に裏山にある三角点のことを尋ねたら、早速、案内してくれた。点名北矢津4等である。地元では浅間山と呼ばれている。三角点に至る途中、社日さん（窪土神の社）があり、さらに、大岩に不動明王、役行者が祀られている。堀坂山頂にもある丈高い青竹も、毎年奉納される。三角点から北には伊勢平野の展望が開け、対称的に南は、白猪山まで谷と稜線が重なり続いている。標高わずか150m程とは思えない景観だった。西に仰ぐ三つの峰。左奥は堀坂山頂、右手前に一段低く女権現、さらに低い右端の峰はソブシ山と言



随想 (山のエッセイ)

うそうだ。女権現は、男権現Ⅱ堀坂山に対しての呼称らしいが、ソブシ山の謂れはわからない。稜線上のピークだが、一般道からは外れていて登る人もあまり無いようである。

ソブシ山（点名矢津）は、点の記の所在地欄にも「ソブシ」と片仮名表記されている。彼は、「武士」に因むのではないかと言う。家で辞典を見ると、「そぶし」Ⅱ「添い臥し」Ⅲ「添い寝」と判明。だが、山名と関連があるのかどうかはわからない。

ただ、ソブシ谷・石ヶ谷・ショブ谷（昌蒲谷か？）を支谷に持つ矢津の谷の奥にはガイコツ峠があり、戦国の世に北島氏が織田勢と戦った時の、戦死者の遺骨が散乱していたことに由来する地名とのことだから、「ソブシ」の名も何やら合戦に関係ありそうである。

堀坂山を越えて北端に位置す

る樹形山には阿坂城跡があり、ここの攻防戦では、木下藤吉郎（秀吉）が生涯で只一度、戦で負傷したと伝えられている。また、南端の大河内城は、茶臼山に陣取った信長率いる5万の大軍が、ついに落とせず、和議を申し入れた難攻不落の砦であったという。

その北隣に当たる矢津浅間山をくだり、稲荷社に参ると、姥玉虫に出会った。同じ甲虫でも、兜虫や鍬形と違い、派手でないところに風情がある。大将を支える老臣といった趣で何とも渋い。

さて、彼は、大河内にと二つの浅間山があると教えてくれた。そこで3日後、根本峠から大河内浅間山に登ってみた。青竹は見当たらなかったが、石仏の祠と三角点があった。こちらの山には、俗に道教えという斑猫がたぐさんいた。色鮮やかでとても美しいが、よく見ようと

近づく、少し先に行ってしまう。大広浅間山は未踏。

この山域で見たいと思っっている花が熊谷草である。堀坂から美杉や飯南の谷にかけて点在しているのを見たい。今年咲いているのを見たという彼に、来年連れて行ってほしいと頼んだのだが、再びその場所がわかるのか、また、行った時にちょうど咲いているのか気にかかる。

参考文獻・横山高治著『北島太平記』（八六年初版、創元社刊）

統 「ソブシ山」という、山名由来不詳の山が気になっていたので、9月24日、踏査に出かけた。

西野町山口から林道西野支線に入ると、釣舟草の群落が、今を盛に咲き乱れていた。さらに進むと、今度は黄釣舟が満開で、また、足止を食ってしまった。



随想 (山のエッセイ)

とつきの昔に廃道となった登山道に登るといふ大失態をやってしまった。

向かった先は乗鞍岳。当日新ハイ例会で鷺見さんが豊平から剣ヶ峰に登るので、私は平湯から登って頂上で合流の手はずであった。

5時、安房トンネル料金所前に駐車し、標高差1740mを気合を入れて歩き出す。平湯大滝前の橋を渡ると、「登山届けを出して……」の看板があるがポストが無いので無視。流石まで歩いてみるが取付点が見つからない。

尾根先端のやぶをかき分け少し行くと道が出てきてほっとする。滝の上に出ると、左にトラバースする道になり、左の沢と

恥ずかしい山登り

山形 明

ぶつかった所で道が途絶えた。丸い金属板に「乗鞍平湯」と横書きの表示板が木の高い所に打ち付けてある。

沢を渡って激やぶの先を探すと道が出てきた。右手の尾根は消えて谷沿いの急斜面をトラバースする道になるが、その道も崩れている所がある。やぶで先が見えないので足元を探りながら、やがて池のほとりに出た。やぶ斜面が池の三方を取り囲んでいたが歩き廻り、右手の奥にようやく丸い表示板を見つけた。

そこから先V字状に大きく崩れた急斜面を二度渡り、三度目の崩れ地に出た所には二本つなぎの縄梯子が垂直にぶら下がっている。これを伝って下りると、何と地面に届いていないのだ。ここはぶら下がって飛び下りた。反対側のロープをよじり、やぶを行くと今度はかなり大きな崩れ地で傾斜も急だ。

先には金山尾根の稜線が明る

く見えた。ここを渡って対面のやぶを登れば稜線まで30分。ガンバルぞ、とザラ目状の石で固まった斜面を鞋底で削って一歩踏み出し四点確保になるが、三点確保に移れない。手はつかまる所が無く斜面を押えているだけなので、実に不安定。

鷺見さんに電話をすると、「その道は廃道になっていない。危ないので戻ったほうがよい」とのこと、初めてこの道が廃道であることを知ったのだ。電話が私を救ってくれた。

この時は、迷いながらもどうにか登山口へ戻れたが、私のように書店に居残っている古い本を読んで山に入る愚か者もいる。登山口の「登山届けを出して……」の文字を消して、「廃道につき入山禁止」と書くことぐらいのことはやるべきだろう。



自宅からこんなに近くの山で、これ程の花々に出会えようとは思ってもみなかったことだ。

秋分草・水玉草・松風草など、小さな花や実に挨拶しながら、林道終点まで歩く。しかし、途中、目指す山への取り付きは見当たらず、やぶ漕ぎの直登は避けて、西に続く袖道登って行った。

小沢の源頭をたどり、植林の急斜面を強引に登って、尾根にのる。林道終点から45分、そこから5分で最高所に着いた。

三角点は無く、明らかにソブシではない。立木に「大平山西峰」の札があった。2万5千の地形図の462号標高点だった。

10月10日、再度、ソブシ山探訪。釣舟草は、まだ満開だった。今度は道なりに進まず、コンパスで南を確認し、いきなり山に入る。道無き急斜面を尾根まで登り、確信をもって尾根伝いに

進むと、約30分で頂に着くことができた。

435・6号の3等三角点確認。四つもある札には「草山」と書かれ、内一つに「そぶしやま」と併記されていた。ルビのようにも見えたが、草を「そぶし」と読むとは、方言にしても聞かない。

脇路は、尾根にのった所を過ぎ、直進してみたが、尾根は広がり、道も無いやぶで、往路まで戻り下山した。「点の記」に記された路は、今の林道で断たれ、そのため登り口がわからなくなつたようだ。

市立図書館で地誌を調べてみた。明治十七年の「地誌取調書飯高郡矢津村」によると、「ソブシ 本村子ノ方ニアリ。北八本郡西野村地及雷川村地ニ界ス。」云々とあり、地名としての記載はあったが、山名としては無かった。曰く「掘坂ノ山脈、本郡勢津村及西野村ヨリ米リ峰層層重

連亘リ、村中ニ積集ス。渾テ公称ナク、脈中僅ニ私称アルモノ太平山」「此他脈中間巒起伏スト雖モ皆名称ナシ。」ソブシの由来は、依然不明である。

「大漢和」で調べると、一番近い言葉は「草止(サウシ)」だった。「野宿」の意という。これが「ソブシ」に転訛したのだろうか。

話は変わるが、地誌を見ていて、旧松阪市内に、初めて聞く山名が、まだまだあることを知った(黒米山・茅山・狼山・雷吹山・にんぼう・つかわき等、二十にも及ぶ)。訪れる楽しみが、また増えた。

本居宣長が、西野で詠んだ歌も見出すことができた。

名も似たるよし野のおくの面影に 見渡す峯の花の山口

今では植林の山も、往時は、宣長大人の愛した山桜が朝日に匂っていたことだろう。

お正月の富士山を拝む

丹沢山

田中 明

丹沢

富士山には登るつもりは毛頭ないが、周辺の山から近くに眺めてみたい想いがようやくかなえられた。
昨年の正月、丹沢山系の入門者コースといわれている表尾根から塔ノ岳へ登り、丹沢山、そして鍋割山から大倉へくだった。

小田急の野駅からヤビツ峠行きのバスは、峠付近が凍結しているので糞毛までしか上がらないという。最初から計画がくずれてしまい、先が案じられた。ならば、糞毛からヤビツ峠まで歩こうと決めて出発した。

バスが走るくらしいの山、そんなにきつに無敵にある。これは80数年前の関東大震災時の崩壊で、今に至るも植物は復旧せず、地肌を出して今日までできていると、案内板が説明している。

丸樺コンクリートの階段でガレ場を上ったのち、小広いベンチのある場所でヤシチャブシなどを見て、振り返ると秀麗な大山が目に見え込んだ。『あそこからも富士の眺めがいいよ』と追いついた人が言う。

今日は行けなかったが、「次にはあそ

い登りには感じられない。ほとんど自然林の登山道で気持ちよくて歩きやすい。樹木を見ながら1時間30分もかけて峠までのんびりと行く。

水場は糞毛を少し過ぎた所のみで、後は塔ノ岳の山荘まで無い。ヤビツ峠へ来ると、バスが入れないはず、車道はすごい凍結である。ここから登山口の富士見橋まで凍結した車道歩きが続く。アイゼンを着けるのも面倒だ。轍や道路端の雪の上を避けて30分かけて富士見橋へ何とかたどり着いた。橋のたもと山荘は休業中のような。見たところあまり繁盛しているとは思えない。道なりに山道に入れば、いたるところ

こも計画に入れたほうがいいよ』とも教えてくれた。どんどん高度を上げて行くと、後方には陽光に煌めく相模湾が弧を描くように見えてすばらしい。

そろそろ雪が現れたなと思うころ、急に明るくなつて広場にたどり着いた。「あっ、富士だ」と大きな声に思わず顔を上げると、大きな真っ白い雪の富士山が飛び込んできた。「ここが三ノ塔か」「いや、ここは二ノ塔だ」と書いてあるよ、このポールに」と休んでいた人が言う。

三ノ塔は展望が最高だとネットで調べていたので、三ノ塔ばかりが頭にあった。だが、この二ノ塔からでもすばらしい眺めである。

顔を上げると三ノ塔が高い所に見えている。「そこまで行かなくてもここで富士を眺めながらお昼をしよう」とすぐさま変更である。

足元の雪を楽しむかのように踏みならし、ベンチで熱いラーメンの準備が始めるが、富士を見ながらの手元は狂いがちである。

三ノ塔からの富士山



に指導標があり、アルプス並みに行き届いている。初めての者でもけつして迷うことのないコースである。
低山や里山で道標の無い山歩きに慣れっこになってる身には、地図や磁石など取り出す必要などない。何か物足りないくらいに思える。

登って行くうちに大きく地肌を見せるガレが出てくる。ガレた場所は丹沢山系

美しく冠雪した富士山の間近かにいることが嘘のような気がし、興奮味のひとときとなった。これが感動なのだろうか。自らの足で富士をこんな近くに見る所まで来たことがうれし。他の登山者は初めてではなさそうで、一言だけ「きれいだな」と冷めた言葉。

今回の山歩きで富士山と最初に出会えた場所がここ二ノ塔だったため、私の興奮度が相当高くなってしまった。それにひきかえ、追いついてくる他の登山者は何こともなかったように二ノ塔を通過して行く。やはり初めて来る者との違いなのだろう。温かいラーメンがいつもより何倍も美味であったのはいうまでもない。

追いつく人達に急かされて次の三ノ塔へ向かうと、見晴らしがさらに良い広場に10分到着。避難小屋はあまりきれいでなかったが、展望は富士山ばかりか、太平洋、丹沢の山々が脈々と連なり重畳たる風景が堪能できた。

後は下りが初めて出てきて鳥尾山だ。ここにも山荘があるが閉まっているようだ。このコースには山荘が多いが、これだけ必要だろうか疑問を抱かずにはお





丹沢山からの富士山

られない。やはり首都圏の人気の丹沢山系だけに、目立ったお花畑は無いにもかかわらず、登山者の多いのが要因だろうか。



塔ノ岳からの富士夕景

銀の世界が広がっていた。木の間からは時間的にやや薄暗くなったとはいえ、これまたすばらしい富士が控えているではないか。
ひと息いれて富士を見ながら広場を歩き廻った。広場には誰もいなく、そばの山荘の中の話声が聞こえるほどに静かであった。

1時間ほどで塔ノ岳に引き返し、尊仏

次のピークの行者岳からも下りとなつた。ネット仲間からも事前情報として聞いている、このコース唯一の難所、クサリ場の通過である。凍結もして、太いクサリが重い。だが慎重に足場をさぐりながら20分もいない岩場をくだってからは、順調に尾根歩きを続けた。

一つ二つの小屋をやり過ごした後、枯れ木のなかから可愛い鳴き声が出て、鹿がこちらを覗き見ている。あっこれは「塔太郎くん」ではないかと一瞬ひらめいて手招きすると、人懐っこくゆっくり寄ってくるではないか。カメラを取り出そうとザックを開けると、鹿はてっきり何か餌をくれるのだろうと鼻先をザックの蓋にまで近づけてくる。

とりあえず写真を一枚一枚撮った後にパンの残り物を差し出すと素早く口に入れ、さらに首を振っておねだりする始末である。

ネット上では、塔ノ岳山頂で塔太郎くんが登山者から餌をもらって首を上げ下げして愛嬌をふりまいているとのことだったが、今日は塔ノ岳山頂でなく、木ノ又小屋下での出来事であった。童心に戻った後、すぐに前方が開け、

山荘に飛び込んだ。この時期だからだろうか、客は15名ほどで、それは静かであった。

きれいな夕日の富士や夜景を眺めるが、外の寒さは半端ではなかった。小屋内でも寒くてぐっすりとは寝られず、もう一枚厚手を用意すべきたった。寒さと寝不足のため十分に疲れはとれなかった。

翌日は一変してガスのなか、視界は無く富士も見られなかったが、きのうの絶好の富士日和だけでよしとしよう。

稜線をなだらかにくだりながらブナ林を抜けて、1時間半で鍋割山、もちろんここでも富士は顔を見せない。前もって聞いていた、鍋割山荘名物の鍋焼きうどんをいただけこうとドアに手をかけるも閉まっている。残念、休業中のようなのだ。

そばには立派なトイレも設置されている。下山の細い道中には、刺々しいメギの枝がばらばらと赤い実を残して広がっており、果実を付けたウツギも方々に枯れ枝を立てている。

くだり出して20分もしないうち、大きな荷物が上がってきた。見ると、どうやら鍋割山荘のご主人のようだ。ポッカは

塔ノ岳にやってきた。さすがに聞きしに勝る大展望が広がっている。主峰が並ぶ南アルプスを右手に、左方向には愛鷹連峰や神山、駒ヶ岳の箱根の嶺が連なる。山頂は平坦地が多く、カメラアングルはどこからでも構わない。

ここでひと息入れ、これから丹沢山へ向かうため六本爪アイゼンを装着した。これまでの表尾根も上部もそれなりに残雪が凍結状態であったが、この程度ならとノアイゼンで通してきた。

展望の良い塔ノ岳山頂であるが、北側は、今晩世話になる尊仏山荘の建物が丹沢山を隠している。

丹沢山へは北に向かってくだって行く。歩きやすい尾根道を上り下りを繰り返しながら進み、日高を過ぎてブナなどの樹林帯を抜けると、明るく開けた電マ馬場に出た。大山が左右に裾野を広げて美しく坐っている。

ここでひと息いれた後は、木道があったり足にやさしい小道を踏んだりで、ササ原を抜けると再び樹林帯に入り、少し歩けば日本百名山の真新しい看板のある丹沢山である。さすがに塔ノ岳から北側は雪が途切れることなく残っており、白

50分はあるのだろうか。後でネット仲間から聞いたところによると、あの主人は100分も担いで上がるとのこと、まさに強力だ。

急な下りを一気に後沢乗越から谷筋まで下りると、待望の水場で顔も洗え喉も潤せた。最後の二俣から長い西山林道は、樹木を観察しながらのんびりと歩き、最終地点の大倉レストハウスでは、たらくく食べた。すぐ前のバス停から小田急液沢駅まで出て、JRで帰京した。

丹沢デビューだったが、これを機会に今後は時季を変えコースを変えて丹沢を歩いてみたいと思っている。

(平成17年1月4日〜6日歩く)

Aコースタイム

- (1日目) 小田急奈野駅(バス20分) 雲毛(1時間30分) ヤビツ峠(30分) 富士見橋(1時間) ニノ塔(10分) 三ノ塔(2時間30分) 塔ノ岳(1時間) 丹沢山(1時間) 塔ノ岳・尊仏山荘(泊)
 - (2日目) 小屋(1時間20分) 鍋割山(40分) 後沢乗越(30分) 二俣(1時間30分) 大倉(バス10分) 小田急液沢駅
- △地図▽昭文社「丹沢」

2年振りの青空を見た

御池岳

長谷川 雅俊

鈴鹿

正月に木和田尾から御池岳・奥ノ平を目指したが、あまりの雪の多さとパウダーズノーに白船峠手前の尾根で時間切れ、撤退した。藤原パーキングを4時45分出発。国道をヘッドライトを点けて歩き出したが、歩道は雪に埋まって歩けないので、車道を歩くが、車が来るたびに歩道へ逃げなければならぬ。坂本谷合に出る9時38分。白船までの冷川谷源頭部のトラバースでは雪崩が恐ろしく、途中の尾根を稜線まで直登したのだが、10時58分、9800円で時間切れ(本当は根性切れ)、がっくりと肩を落として下山した。

今回、最初は丸尾尾根を考えたのだ

が、昼間でもわかりづらく、ましてや暗闇のなかでは寒山から続く尾根を見つめるのが難しい(いくらコンパスで地形図をチェックしても水平偏差はわからない)。もし寒山で明るくなるのを待っていたら、たぶん途中で時間切れ間違いない。諦めて、オーソドックスに国道を歩くことにする。

3時23分、ゲートを出発。この1週間暖かく、雪が腐って凍っているのが最初からアイゼンを履く。半月や星が美しく、路面も雪で覆われているのでかなり明るい、ヘッドライトを消して歩く。ゲート右手で鹿が鳴いたが、それ以外は風も無く静かな夜であった。

青のドリーネより朝日を見る



そこらちゅうに動物の足跡が残っており、所どころ鹿のメインストリートのようになっている。これでは猟師においでをしようで、鹿さんもおいでをしようと思わないと、命がいくらあっても足りないと思うのだが……

3時47分、下の旧道出合、4時23分、上の旧道出合を過ぎ、4時41分、犬帰シ谷の赤い橋に到着。ここで半月と寒山を

バックに大返し橋の写真を撮る。ISO 1600に設定して撮るが、モニターをチェックすると真っ黒! 次にストロボをたいたが、欄干まで雪に覆われた橋が

写っただけでバックはやはり真っ黒! よく考えれば遠くにある寒山やお月さんにストロボの光が届くことはありえないのに、我ながらアホとしか言いようがない

い……

5時11分、ようやく犬帰シ谷の左岸尾根の取付に到着。すぐにヘッドライトを点けて急斜面をよじ登る。植林帯がしばらく続くが、下草がきれいに刈り払われているのと、雪が積まれているのでとても歩きやすい。ガンガン登ると言いたいところだが、小生の場合、残念ながら根性無しなので、ガン

ガン……ですぐに息切れして小

休止。

6050位で斜面の雪が無くなるが、6500位で植林帯を抜けて二次林になると、また雪が深くなる。このあたりは秋に来ると黄葉がなかなかすばらしい。5時49分、高度計が7200位を指す所で台地状になり、左手植林右手雑木林となる。このあたりは、コグルミ谷の右岸尾根からの登りと合流する所だと思いが、暗くてよくわからない。

ここで何とカンジキの跡を発見する。ひょっとすると、1週間程前にホームベージュの掲示板に、マヨネコさんが丸山からの下山に犬帰シ谷左岸尾根を降りたと書き込んでいたので、その跡かも知れない。これで正直、ホッとす。暗闇のなかを一人で歩くのは結構心細いが、少しでも人の通った痕跡を見つけると安心するのも事実だ。

いかにも冬という感じの、ドドドドッという音がして風が吹きつける。振り返ると、員弁・桑名・名古屋の夜景がすばらしい。鞍掛峠の方も月明かりでうっすらと見える。

6時15分、8400位でほんのりと明るくなってきたのでライトを消す。東の方



の地平線(水平線も)が明かるくなってきて、星が一つだけ明かるく輝いている。水屋か金星かはわからないがそのどちらかだろう。

6時40分、天ガ平(カタクリ峠)に到着。やはりここは春以外は、天ガ平のほうがふさわしいと思うがいかがなものでしょうか? 高度計は985mを指していたので945mに修正する。

そのまま法楽の小径に入り、コグルミ谷源頭部を通り過ぎるが、このドリリーネは雪に隠れてわからない。6時59分七合目プレート、7時16分泉境稜線に到着。幻ノ池に寄るとやはり雪に埋まっていたが、池の真ん中にある枯れ木をよく見ると、鳥の巣の穴が貫通していて向こうが見えるのでビックリ! もちろん、キツキのあけた巣穴がたくさんあるのは知っていたが、下の二つの巣穴が反対側まで空いているのを見るのは今回が初めてだ。池が雪で埋まって木に近づけたからだが、冬に来なければ永遠にわからなかっただろう(どうでもよいことだけだ……)。

池から登山道へ降り、丸山への登山道の谷の右岸を斜めにトラバースして、い



よいよ奥ノ平を目指す。

8時8分、奥ノ平と丸山の鞍部に到着。テールランドにたどり着いたことでホッとすると共に、ついにヤックと喜びが湧き上がる。空は真ッ青で2年振りの青空に気分爽快! 昨年は一度も青空を拝めなかったのがウソのよう……、ここからは、もうルンルン気分で天狗の鼻、ポタンブチと歩く。本当は必要なかったのだが、やはり冬のテールランド徘徊はカンジキを履かなくちゃと、アイゼンの上に輪カンジキを取り付ける。最近スノーシューとかいう洋物を使用する登山者が多いのだが、日本のやぶ山はやはりカンジキだと行ったらまた皆さんからお叱りを受けるかな?

この後、幸助の池にも寄るがやはり雪に埋もれて風情も何も無い。池は水が無ければドリリーネにも及ばないと言ったら言い過ぎかなあ。8時58分、今期待望の最終目標である青のドリリーネに到着。青空の下、青のドリリーネ……うん、感無量!

とりあえずRAWで写真を撮るたくさん撮る。この青のドリリーネが青く輝くときがある。と御池植人氏からお聞きしたことが

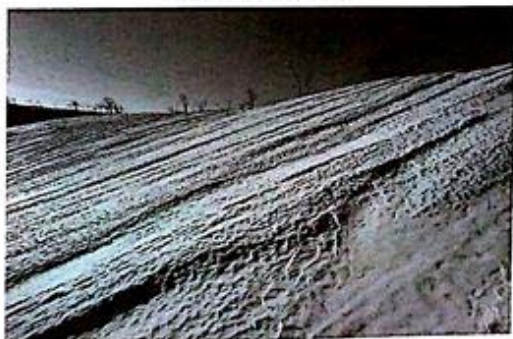
西方は雲が空を覆いつくしている。

もう帰ることにして、奥ノ平南峰を目指して歩いてみると、周りがガストってきた。南峰からそのまま北西に進路をとり、9時57分、奥ノ平ピーク

ネに到着。雪も降り一だしたが、ホワイリトアウトには程遠いので気楽に歩き、10時2分、丸山と青の間にある鞍部に到着。40度の方角へ谷を降りると、

は言っても、この積雪では雪崩が怖いので右手の尾根を降りることにする。30分程で真の谷に着き、そのまま泉境稜線へ登り返し、朝来た道で

奥ノ平と丸山の鞍部



あるが、小生はまだ一度もお目にかかっていない。天気の良い2月の14時頃に見られるらしいが、ゲートが封鎖された今では、下山時に暗くなってしまいう危険がある。もっとも、滋賀県側から登れば大丈夫かも知れないが、小生には経験が無いので何とも言えない。

しばらくすると、太陽が雲に隠れだす。最初は出たり入ったりしていたのだが、

10時54分、天ガ平に到着。ここからは下山路として丸尾尾根を目指す。

荷ヶ岳(冷川岳)までは疲れも加わり、近いようで結構遠い。ニセピークが三つ程あって、ようやくたどり着いたと思ったらまだ先に次のピークがあるという感じ。小生のようなナマクラには気が遠くなるような所である。ガスっているとわかりづらく、ニセピークで間違えて降りると、危険な犬猫シ谷へ降りてしまうので気をつけねばならない。11時51分、荷ヶ岳(1054m)に到着。高度計は1090mを指していたので修正する。

ここからはコンパスを43度に合わせてくだる。青空も出てきて問題なさそうだが、そういう時に限って小生は道を間違えるので気を引き締める。広い斜面を降りながら尾根を探していると、左手にそれらしき尾根が見えたので、そちらへ行くと間違いない丸尾尾根だった。次に906mピークを目指してコンパスを22度に合わせ、49度、28度、48度と降りたのだが、一本尾根なのでもう大丈夫と油断をしたのがいけなかった。

地図上ではまっすぐ降りればよさそうに見えるのだが、左に直角に曲がって寒

新冬号

パンフレット完成
冬の増刊号！
暖かい南の島から北海道まで、豊富なツアー設定。初心者の方からの雪山基礎講座も開催。海外ツアーも満載！

お電話
おはがき
FAX・HP
にて！

送料・本体無料
ご請求ください！

弊社カタログ
ラインナップ



総合カタログ



山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログ。それ以外にも、世界遺産を歩くやバードウォッチングのツアーもあります！

大好きな山の中で働いてみませんか！ 山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

AMUSE TRAVEL アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ホンダ保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

山歩き
15周年記念
特別増刊号

[07年12月号] アミューズの山旅を楽しもう！
アミューズ国内海外山旅 特別講座開催

12/29

山へ行く所でまっすぐに降りてしまった。どうもおかしいと思って高度計を確認すると、寒山(650m)の高度を下回っているではないか！ ようやく自分のアホに気づいてコンパスをチェックする。知らないうちに98度へ降りている……トホホ……よくやるんですね、わたしは。このまま冷川谷へ降りてもよいのだが、ゲートまでの長い下界歩きのつまらなさを見ると、どんなに苦しくとも登り返したほうがよいと判断し、泣きそうなお気持ちで(心の中では泣いていました)歩を進める。やっとのことで寒山への分岐にたどり着き、27度へ右折する。見覚えのある尾根をくだり、また登り返すと左手に鞍掛峠と犬返し橋を見た。ホッと13時33分、寒山に到着。本当は64度へまっすぐ降りて、520mのゲイトから20度の尾根をくだり、旧道へ行きたかったのだが、この深い雪のなか、左膝が痛くなってきたので、諦めておりこうさんに登山道をくだることにする。80度にコンパスを合わせるが実際にはもっと右手に進み、それから80度へ下降する。明瞭な登山道を進めばよいのだから問題ないのだが、そのままでは冷

川谷へ降りるので390m位のゲートへの分岐を見失わないように気をつけていなければならぬ。かなり疲れてきて膝も涙が出そうなくらい痛みだしたので、14時05分、400mでアイゼンを外す。アイゼンを着けていると、足が滑らないかわりに、衝撃や負荷がまともにかかるので、どうしても膝が痛みやすい。いつ外すかの判断が重要なのだが、小生にはまだわからない。14時19分、それらしき場所に着いたので、高度計をチェックするとちょうど390mを指している。ここからは冷川谷への151度ではなく、ゲートへ向かって、とりあえず80度のピークへ進む。が、もうすぐ下山できるという安心感から、またまたコンパスをさしてかしてしまいました。本来はピークを越え、132度、48度へ行く予定が、ピークの左の尾根へ入り、間違いに気づいた時には、時すでに遅しで、そのまま降りる。尾根は急傾斜になり、両側の谷もだんだん深くなってきた所で尾根が切れてしまった。どちらの谷に降りるか思案していったところ、左の谷に大きな雌鹿を発見。カモシカの通る所を人は歩けないが、

鹿の通る所は大丈夫と何かの本で読んだことがあった。で、左の谷へ急斜面を滑り降りる。腐れ雪で時々腰まで雪に埋まりながら、14時42分、国道に出た。ちょうど、ゲートの抜け道との出合にある谷で以前に入ったことのある谷だった。ゲートに14時56分着。左膝を痛めてしまったが、充実した1日であった。(平成18年1月22日歩く)

▲参考タイム▼
ゲート3・23―犬帰シ谷4・41―犬帰シ谷左岸尾根取付5・11―台地5・49―天ガ平6・40―七合目プレート6・59―幻ノ池の上(県境稜線)7・16―奥ノ平・丸山鞍部8・08―ボクタンブチ8・31―幸助の池8・36―青のドリ―ネ8・58―奥ノ平南峰9・49―奥ノ平9・57―奥ノ平・丸山鞍部10・02―県境稜線10・40―天ガ平10・54―荷ヶ岳11・51―寒山13・33―ゲート14・56
△地形図▽2万5千Ⅱ標立

『万葉集』歌枕紀行

比叡山から大津京

比叡

木村 太郎

大比叡を仰ぐ



比叡山が、わが国の文獻に最初に出てくるのは、大山昨神（スサノオの孫神）が近江の国日枝山（比叡山）に鎮座したと書かれた『古事記』上巻である。

また、大和の国三輪山の大己貴神が、天智天皇元年に比叡山に顕現したと、『扶桑明月集』は伝えている。

後に地主神の大山昨神は小比叡（八王子山）の神となり、勧請された大己貴神は大比叡の神として崇められるようになったという。

白村江の戦いで敗れた中大兄皇子（天智天皇）は、東海道・東山道・北陸道の要にあたる大津に新しい宮都を造った。志賀の湖（琵琶湖）と比叡山に挟まれた

要害の地を選び、他国からの侵略に備えたのであろう。

畿内の外に宮都を造るにあたり、人心の結束を計るために大和の神を招いたのであろうか。都富士とも称えられる比叡山だが、京都よりも先に大津京がなつた。比叡山は近江との結び付きがより深いのである。

JR比叡山坂本駅から小雪のなかを比叡山に向かう。大己貴神を日吉大社へ道案内した奥津嶋姫神をまつる石占井神社を過ぎる。日吉馬場と早尾地蔵を通り、東塔本坂への石段を上る。ケーブル軌道を左手に見て山道にかかる。神話に伝わる比叡山だが、天台宗の最

澄（伝教大師）が開山してのちは巡拝の山となった。表の大津側からは本坂、裏の京都側からは雲母坂の道が登られてきた。垢離坂の別名がある本坂を進むが、冷え込みで汗は出てこない。山道に雪が現れだし、清浄な気分になって花摘堂跡の急坂に廻り道をした。

うとしている。

花摘堂跡からやせた尾根道をたどる。

本坂と出合うあたりで雪が深まり、雪道は固くなってきた。亀堂を過ぎて水結した道に二、三度足を滑らせた。法然堂の軒下を借り、軽アイゼンを装着する。

荘厳なる東塔の一乗止観院（根本中堂）が近づいた。延暦寺の御堂に参りに来た巡拝者の群れが通り過ぎる。戒壇院前

を上り、法華総持院の朱塗りの大伽藍へ進む。出発が遅かったので、阿弥陀堂に着いたのは正午を過ぎていた。休憩所のテーブルの雪を払い、大比叡を仰ぎつつの昼飯時、薄日が差してきた。

法華総持院東塔と阿弥陀堂を結んだ回廊の下を抜け、大比叡を目指した。山腹道を進んで尾根に出ると、「智證大師御廟從是東半丁」の石

碑を目にする。突き立てるストックが中間部まで雪に埋まる。年始めからの登山者が入ったようでトレースがあり、歩行に難渋することはない。

尾根を通り抜けた風が、谷間から雪煙を吹き上げる。新琵琶湖八景に「煙雨比叡樹林」といわれるが、「煙雪比叡樹林」に変化している。山の高みを目指せば、テレビ局中継塔や防火用水槽を通り過ぎた地点に、比叡山最高地が盛り上がりつつある。1等三角点の大比叡（848.3m）山頂である。

風に吹かれて、樹林に付着した雪が山上に乱舞している。長居できそうになく、早々に尾根を引き返す。先程の「智證大師御廟」石碑から、山腹道に入らずに尾根をつき進んだ。御廟を通り過ぎたあたりから、トレースが無くなり歩行が難しくなった。

比叡山ドライブウェイを歩き、弁天堂の鳥居を潜り、展望台のあるケーブル延暦寺駅にくだる。天気が良ければ白山まで見えるという眺めも、湖北のはるかかなたは曇り空で何も見えない。それでも、湖東は早春のような明光色に包まれている。穏やかで優しい景色に、琵琶湖は溶



比叡山・大津京付近略図

のように無事を折り続けた。その姿を見て弟子の円珍（智證大師）は、開祖の母堂の心情に心をうたれ、女人堂を立てた。花祭りの日に最澄が母と会ったのが花摘堂だったという。

花摘堂跡への道は廃れている。堂跡への石段は落ち葉に埋まり、最澄母堂ゆかりの遺跡と思えないほどだ。女人禁制の解かれた現在、花摘堂は、忘れ去られよ



大比叡山頂

け込んでいる。

近江の海夕波千鳥汝が鳴けば
心もしのに古思ほゆ

(巻三二一三六)

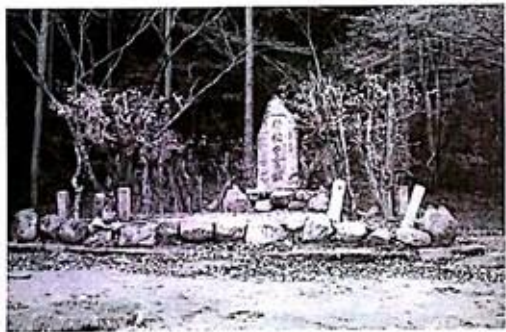
持統天皇の時代、滅び去った天智天皇
の大津京をしのんで、柿本人麻呂が詠
んだ歌である。近江の海辺で華やかだっ
た宮都が、荒地と化した光景を嘆いてい
る。

楽波の国つ御神のうらさびて

荒れたる京見れば悲しも

(巻一三三三)

大津京に思いを寄せて詠んだ高市古人



崇福寺跡

近江遷都の翌年、天智天皇の勅願によ
り、崇福寺は大津宮の守護寺として建て
られた。延暦寺と園城寺との抗争のあ
りで、崇福寺は灰燼に帰した。礎石の
残る寺院跡を後に、歴史の無情をかみし
め志賀里にくだる。志賀から京の白川へ
歩かれた山中越えの道筋に、志賀大仏の
御姿を見る。時の移ろいを見守り続けた
仏様に手を合わせた。

の歌である。近江の宮都が荒れ果てたの
は、国御神の怒りに触れたためだと、比
叡山への祈りが足らなかったことを嘆い
ている。

延暦寺駅からケーブル軌道に沿う袋立
山への道は見送った。比叡山三塔十六谷
をめぐる回峰行、その出峰地の無動寺を
経て、東海自然歩道をたどって大津京
址へくだることにした。弁天堂で粕汁の
炊き出しをいただき、身体を温めて出発
した。北面の山腹道は雪が深く、柳茶屋
まで遠くに感じた。

階段くぐり滑りそうになり、階段の
登り返しで音をあげそうになり、谷底か
ら夢見ヶ丘へ上りつめた。難所が終わり、
アイゼンを外した。夢見ヶ丘からくだり
だすと視界が開け、湖南の山並、大津京
あたりの風景が目に見え込んできた。

際川沿いを歩いて林道に出て、金仙流
のそばで崇福寺跡への道標を見た。北尾
根の弥勒堂跡は素通りしたが、中尾根の
寺塔跡と南尾根の金堂跡に立ち寄った。
天智時代に出来た崇福寺は、「志賀山寺」
の名で「万葉集」に詠まれている。大津
京ゆかりの寺である。
後れるて恋ひつつあらずは追ひ及かむ

通り過ぎる史跡公園の南志賀町廃寺跡
は、ある時期まで大津京址とする仮説が
あった。近江大津宮の「西北の山」に崇
福寺があったと伝えた『扶桑略記』の記
述を根拠にしている。私は、その根拠の
逆方向、志賀の山寺から「東南の里」に
向かって歩いて来た。南志賀町廃寺跡か
らは、チラチラと灯の点り始めた大津の
町が見える。

ここにして家やもいづく白雲の
たなびく山を越えて来にけり

(巻三二一八七)

志賀に行幸した時に、石上卿が作っ
た歌と詞書にある。白雲のたなびく山
を越えて来て、大津京に着いた時の歌で
あろう。ここからだ和我が家はどの方向
になるのだろうか、長かった旅路を振
り返っている。

大津京の正殿跡であるという、「志賀
宮址碑」の立つ、錦織の御所ノ内遺跡を
訪ねたかったが、暗くなり始めていた。
車道の高架下を抜け、夜店が軒を並べた
近江神宮の境内に入る。ここからJR西
大津駅までもうひと息だ。湖西線の高架
を目当てに歩けば迷うこともないだろ
う。

道の隈廻に標結へ我が夫
(巻二二一五)

穂積皇子が勅命で志賀山寺に遣わされ
た時に、但馬皇女の作った歌である。後
に残って恋慕しているより、あなたを
追いかけていたので、道の曲がり角に目印
をつけておいてくださいと哀願している。
恋人と離れたくないと願う、切ない恋心
が詠まれている。
人言を繁み言痛み己が世に
いまだ波らぬ朝川渡る

(巻二二一六)

ひそかに穂積皇子と密会したことが露
見した時の、但馬皇女の歌である。人の
時に痛みをおぼえるので、まだ渡ったこ
ともない未知の川を渡ってでも、あなた
の許に行きたいと訴えている。但馬皇女
の激しく燃え上がる情熱が詠まられてい
る。

穂積皇子と但馬皇女は、天武天皇を父
にもつ異母兄弟であった。そのふたりが
恋愛事件を起こしたため、穂積皇子は崇
福寺の僧にさせられたという説がある。
引用している一連の歌は、逢引を禁じら
れた但馬皇女が、穂積皇子を思って詠ん
だ歌とされている。

『日本書紀』には、大津京に関する役
所名が記されているが、全容については
詳らかではない。湖西線の開設工事の時、
西大津駅前広場の大溝跡から、大津京の
ものと想定される木簡が発掘されている。
条坊制の宮都であったかは断定できない
ものの、相当の規模と見るべきであろう。
神楽波の大山守は誰がためか
山に標結ふ君もあらなくに

(巻二二一五四)

天智天皇の時世の終わりに、捧げられ
た挽歌である。近江の大山(比叡山)を
守っていた大君が亡くなり、この先大山
を誰が守るのかと問うている。山に支配
の標を結んでいた君主を失い、深い悲し
みを歌にしている。

(平成18年1月3日歩く)

▲コースタイム▼
JR比叡山坂本駅(25分) 早尾地藏(40
分) 花摘堂跡(45分) 法然堂前(20分)
阿弥陀堂(30分) 大比叡(35分) 比叡山
鉄道延暦寺駅(20分) 弁天堂(45分) 桜
茶屋(40分) 夢見ヶ丘(40分) 崇福寺跡
(40分) 近江神宮(20分) JR西大津駅
△地形図V2万5千II京都東北部

平からアラキ峠を経ないコース

権現山北西尾根登高

比良

小山 誠次

平成17年12月10日、折立山南方尾根を雪中登高したことは前回(本誌91号)報告した。その際、アラキ峠からドン谷に向かってスボツボツと下山し、人の踏み跡を見たものの、上方には向かっていないことも確認し、深雪のため引き返したのかと考えたりもした。そこで改めて後日、平からアラキ峠を経由せずに権現山に達するルートはないのかと、地図で検討したことが、今回の山行にいたる経緯である。

平成18年4月9日、滋賀県北部・南部共降水確率は午前0%・午後10%で、京都府南部ではいずれも10%であった。7時45分出町柳発村井行き京都バスに乗っ

た。

なぜ村井行きなのか、実は3月6日、村井より北の国道367号線で土砂崩れがあったため、旧朽木村へは人も車も不通になっていたためである。目下、仮設橋が急がれているとのことで、4月10日より歩行者の通行は可となり、今月末頃からは普通車ならば通れるようになるだろう。高島市宮バスも土砂崩れ以後、朽木学校から雲洞谷を経由する逆ルートで生杉から小川終点となっているが、復旧するであろう。しかし、大型バスの通行は見込みが立たないらしい。

本日の天候は一応晴れであるが、黄砂現象による春霞がかかっている。昨日よ



者のほかに降車した4人の登山客は、花折峠の旧道に向かって南方に足に向けたが、筆者はここから北方に向かう。地図上では約270歩歩いた所に権現山北西尾根の下端があり、おそらく国道建設時に一部削られた跡として残っているのが

よくわかる。すぐ北に接するサカサマ谷は豊富な水量を湛えている。また、サカサマ谷を挟んだ右岸中腹には、平塚石所が一見大きなガレ場となっている。ここで高度計を標高450mにセットした。準備を整えて8時51分、尾根の下端部に取り付いた。比良山系のあまり人の歩かないルートの本誌に投稿してきたが、国道のすぐ横から取り付いたのは初めてである。下端部はやせ尾根であり、かつ先端が削られているので、平坦地からいきなり5m程度の急斜面を登って尾根上に達した。ここからしばらくは磁北123度の頂上をたどる。このあたりは杉の植林地帯なので、背の低い自然林は生えていず、かえって歩きやすい。

進行方向が磁北150度が変わって間もなく、標高600mに達した。ここからは対岸の採石所の大きなガレ場が目前に迫っている。振り返ると、はるか遠方に牛の鼻トンネルの入口が視界に入った。ちょうど、一台の車がトンネルに入っていくところである。

(写真1) クマザザの密生する登路



りはましのようだ。予想に反してまだ空席のある京都バスは、桜が満開の川端通りを楽しませてくれ、今冬の厳寒・積雪の時期がようやく過去のものになったと実感した。しかし、大原では桜の蕾もまだ固く、樹木によってはピンク色さえも全く濃い隠されたままである。外気温は7度。ここはまだ冬なのである。筆さて、8時34分に平バス停に到着。筆

本日は風が強い。登路はほぼ南東を向いているので、北東からの風が横から吹いて顔に叩きつける。標高640mに達した所で、初めての平坦地に到った。このあたりの自然林は越冬した葉を付けたアセビだけが緑色を呈している。

進行方向左手の前上方、磁北126度に権現山からすく北のピークが眺められるようになった。権現山そのものは、前方の尾根の陰でまだ姿は見えない。また、右手には樹間よりピーク812とピーク762が、ここからは双耳峰のような形で見える。残念ながら木々に邪魔されて良い写真を撮ることができない。

8日前の4月1日、京都バス三角点トレックの花折峠・ナッチョコースに妻といっしょに参加した。その前日と前々日は久しぶりに降雪し、コースはナッチョをくだり始めるまでずっと積雪面上を歩いた。妻に軽アイゼンを装着させて転倒防止に努めたが、先行者の足跡を見れば、もう1人軽アイゼンを着用している人があった。筆者としては、花折峠からピーク762、ピーク812、ミクニ峠、ナッチョと、大変楽しい雪面歩きであったが、滑って転倒している人もそこそこ多かった。

た。昨年12月10日の折立山南方尾根雪中登高中、ピーク812を遠望し、一度歩きたいと思っていたが、早々と実現したことになる。

さて、標高700㍎に達する頃、北東の風と共に小雪が舞ってきた。しばらく迷ったすえ、ゴアテックスのレインウェアとザックカバーを装着した。そのまま西方を望むと、樹間より皆子山を正面に見るが、山頂は雲に覆われている。一方、今の時期はまだ花に出会うのは無理かな。なにか諦めていたら、意外にもタンコウバイのポテッとした鮮黄色の花を目にし、いささか感激した。まさに荒地に咲く一輪の花の如く、である。

少し歩いて標高720㍎に達すると、境界を示す標石が埋設され、ここから進行方向右手に杉の植林、左手は自然林が続く。何と標石は頂稜上に一定の間隔で埋設され、正確に標石の右側だけに植林されている。

標高820㍎に達して小雪もやんだのでザックカバーを外し、飲水休憩をとる。周囲の自然林を見廻すとクロモジが混在するようになったので、枝をちぎり、噛みしめて懐かしい味を思い出した。



(写真2) 権現山山頂近くの残雪

筆者は山中で清水を見つけては咽を潤すことが多いが、天命水は直上の建造物を考えれば飲む気はおこらない。クロトノハゲまでの打見山東側斜面は、今までより一層深く積雪が残っている。

クロトノハゲに到着し、いつもの馴染の岩の上で足を投げ出して休憩。比良岳・鳥谷山・賞満岳・カラ岳・釈迦岳・ヤケオ山・牛山・見張山もよく見渡せる。気

標高870㍎に達する頃になると、例によってまだ背の低いクマザサが登路上に密生するようになってきた(写真1)。山頂に近い証である。大臈部までの高さなので、それほど苦にもならない。しかし、このあたりからは雪が所どころに残っている。山頂に近づくとつれて残雪の面積が広くなり、一面を覆うようになってきた(写真2)。

10時43分、アラキ峠からの権現山ルートに出合った。見れば、ルート上を5、6人の団体が頑張って登高している。後はこちらから3分間、クマザサが生い茂ってほとんどコースを覆い隠しているなかとどろき、10時46分に権現山(996㍎)山頂到着。実は権現山山頂付近のクマザサのやぶは背が高く濃密なので、このなかを真正面に突っ切るのを避けるため、先のルートに合流しよう計画し、コース取りを設定していたが、無事大したやぶ漕ぎもせずに済んだ。ここでまた、小雪が舞ってきた。

6分間の休憩後、北方に向けて出発。間もなくホッケ谷道入口を通過した。予定では、権現山北西尾根を登高した後、何年振りかでホッケ谷道を下山するつもり

分は至上。

後はキタダカ道をくだるだけである。ここからしばらくの間は今までと同様、雪の上を歩くことになる。時々ズボット足を捕られるが、これも楽しみの一つ。本日の山行で、ホッケ山から小女郎峠に到るまでの間で、一回深く足を捕られ、引き抜くのに多少苦労したのも今の時期ならではのこと。ミンサイの鳴き声が山中によく響いている。

天狗杉に到着し、軽く抱擁した。実は大木に出会ったときに抱擁するのは、筆者の山行グループ「比良疎水会」の酒見祥子さんに教えてもらった挨拶で、以後筆者も実践している。

天狗杉から第一堰堤を経て35分後、脇山橋を左手に見て、ここで道を折れる。本日は脇山橋を渡るルートを選択した。しばらく行くと第二堰堤の横を通り、そのまま湖西道路に突き当たった。大川は第一堰堤のあたりでは全く水溜れ状態だったが、いつの間にか水音と共に立派な流れとなっている。

15時6分樹下神社の側を通ったが、ここでもタンコウバイは満開だった。同15分志賀駅に到着し、25分発の京都市行き普

りだった。しかし、現在は11時4分。このままホッケ谷道をくだってしまつたら、昼食は腹で食べることになる。それは佻しい。そこで、予定を変更し、久し振りに蓬萊山を目指すこととした。

9分後ホッケ山到着。ここでアウターウェアを脱ぐ。尾根上はまだいたる所に雪が残り、登山路は雪解け水が流れ、さながらちよっとした小川である。まだ当分の間続く風景だろう。

12時15分、蓬萊山到着。何とまたスキー場が営業されている。派手な音楽をバックに、小女郎池を眺めながらの昼食休憩を楽しんだ。やはり、山頂は朝からの風がまだ強い。食事中にゴアテックスのレインウェアを防風用に着用した。眺望はかろうじて比叡山とわかる程度で、デジタルカメラでの撮影では一層判然としない。また、武奈ヶ岳はまだまだ雪が深そうだ。昼食後は打見山を目指す。ホーライバノラマゲレンデの東端を雪のなか、ザックとくたたくて行く。水を多く含んだ質の悪い雪だ。このゲレンデではスキーもスノーボードも共用できるらしい。

16分後、クロトノハゲに到る分岐点に到着。天命水を横目に見てなおもくだる。

通電車で帰途についた。

平からアラキ峠を経由しない権現山ルートが、昨年12月10日以来驛裡から離れなかった。平成18年度の昭文社「比良山系」地図を購入して眺めてみると、ふと今回の権現山北西尾根を登高してみると、ふとういう気になり、無事に実現できた。喜びと共に報告する次第である。

(平成18年4月9日歩く)

△コースタイム▽

平バス停(4分) 権現山北西尾根下端(16分) 標高600㍎(16分) 標高700㍎(6分) 境界を示す標石(20分) 標高870㍎(15分) 平からのルート出合(3分) 権現山(12分) ホッケ谷道入口通過(9分) ホッケ山(20分) 小女郎峠(24分) 蓬萊山(16分) クロトノハゲへの分岐点(23分) クロトノハゲ(22分) 天狗杉(35分) 脇山橋(23分) 樹下神社(9分) J.R志賀駅

△地図▽昭文社「比良山系」

新ハイ関西92号	
標高△△92mの山	
三周ヶ岳	(1292m) 奥美濃
イチゴ谷山	(892m) 京都北山
大黒山	(892m) 湖北
池口岳	(2392m) 南アルプス

三周ヶ岳

自然が多く残っている奥美濃の山々のなかで、最も人気の高い山の一つが三周ヶ岳だ。主稜線から少し外れていて、谷が東西の両方から流れ出しているの、山頂は行き止まりの感がある、山頂に立てば最奥の山に達したといった達成感の味わえる山だ。

途中には有名な夜叉ヶ池があり、福井県側と岐阜県側の両方からしっかりとした登山道が付いている。私は、岐阜県側からの樹林が谷を覆う風情、見上げる夜叉壁の悪魔的な姿、草付きの岩盤に懸か

る滑流の美しさにより魅力を感じる。関西からの前夜発日帰り、または山中1泊の山のなかでは、第一級に分類される山だと思っている。

(平成3年11月23日歩く)

△コースタイム▽
池ノ又谷林道終点(2時間) 夜叉ヶ池(1時間30分) 三周ヶ岳(2時間30分) 車止

△地形図▽2万5千ニ広野

イチゴ谷山

京都北山の三國岳(山城・丹波・近江国境)から滋賀県との境に南東に続く稜線

を経てイチゴ谷山(1時間40分) 車止
△地形図▽2万5千ニ久多

大黒山

これもまた自然林がたくさん残っている波い山だ。湖北のなかでも最も雪深い余呉町の中河内の山だから美しい山であることが予想できる。地形図を見ても一帯はほとんど広葉樹マークで埋め尽くされている。登山口は国道が通っていて、近くにスキー場があるから雪の多い季節でも手軽に行けるのがある。そのうえ歩行距離は短かいので、短時間で奥深い山の風情が味わえるのである。

会山行で3月の残雪期と2月の厳冬期に登っている。3月は権坂峠から西南尾根を往復した。2月のときは権坂峠より国道365号線を2ヶ程北へくだった地点から北西尾根を往復した。

どちらも存分に雑木の美しさとそのなかをラッセルする楽しさを堪能したのだった。(平成13年2月12日歩く)

△コースタイム▽
国道365号線標高4400付近(4時間) 大黒山(2時間) 車止

がある。三國岳の次が経ヶ岳、その次がイチゴ谷山だ。

道の無い山だから積雪期に登る山だ。会山行の3人で登ったが、この山も自然が多く残る山だった。

久多の最奥の家で雪の壁となり、車は行き止まりだった。テントを張って明日に備えた。交代でラッセルをして登ると、距離は短かいので難なく山頂に達した。

支尾根からは、三國岳が久多川の谷の奥にとっしりとした姿で望め、その左には高度をあまり落とさないまま稜線が長く続いており、その一角には最も奥深い天狗岳の一端も見えていたと思われた。右には木立越しに経ヶ岳が大きく迫って見えた。全ての景色が自然林だけの眺めは、近郊の山ではめずらしいと思われる。

支尾根を登り切って、山頂とほぼ同じ高さの府県境の主稜線に立ち、あとは少し南へ振るように入東進すれば山頂だった。自然の森のいちばん高い所といった風情の、とても平凡なところが、まさに貴重な山頂だった。

(平成8年2月25日歩く)

△コースタイム▽
久多最奥の民家(2時間40分)・685

△地形図▽2万5千ニ中河内

池口岳

この山も波い魅力に満ちている山だ。南アルプスの光岳より南の山々のなかでは比較的登りやすい山で、この山も会山行で二度登っている。

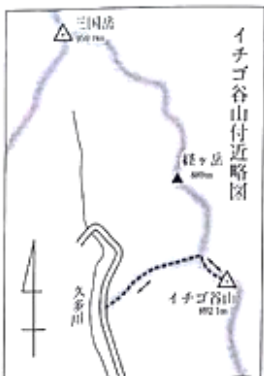
一度目は池口という名の集落から往復したが、行程が長いので途中のザラナギ平でテント泊をした。広葉樹と針葉樹、そしてササ原とが美しくブレンドされていて、大自然いっぱい美しい山だった。10月上旬に登ったので、上に行くにつれ紅葉が美しかった。紅色主体の紅葉でササとのコントラストが地味だがコクのある色合いだった。

二度目は光岳からの縦走で池口岳を越えてやはりザラナギ平でテント泊をした。池口岳をバックに初秋の花々が美しかった。(平成8年10月5日・6日歩く)

△コースタイム▽
池口(5時間30分) ザラナギ平(4時間30分) 池口岳往復(4時間30分) 池口
△地形図▽
2万5千ニ上町・光岳・池口岳



イチゴ谷山登山道より三國岳を望む



敦賀市の雪山

夕暮山

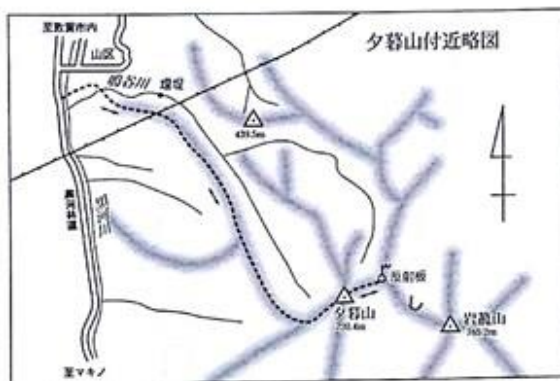
暖冬と言われたわりには、大雪となった。出かけには雨であった。この大雪と雨では来る人は少ないだろうなと思いつながら山区へ向かった。山区手前、黒河地区の活性化に、電信柱と同じ位の高さのハリポテおばちゃん両手が広げて「いらっしやうい」とポーズをしている。山区を抜けた奥に格好の登山用駐車場がある。今日のリーダーNさんもSさんも自分も駐車場の除雪がしてあるかと心配で下見に来たものである。雨は軽いアラレとなって、支度をする我々に容赦なく降りそそぐ。雪山フル装備に身を固める。出発前に皆で「エイエイオー」と天にこぶしを突き上げる。雪

高島 伸浩

若 狹

に負けないぞー。駐車場を出てすぐにカンジキを履く。朝食を食べたばかりなのでうつつぶいてカンジキを履くのはエライ。散策園地に入り、鳴谷川に沿って歩く。推茸ドロボウ避けに立てられた数体の案山子の形相がまた不気味。鹿さんの足跡が深々と横切っている。鹿さんもカンジキ履くとこんなにダワらんのに……。細かい橋を渡り松林のなかを進む。柔らかい雪に蹴つまずき前へバタッ。後ろから「誰やろと思ったら高島さんやー」の声。高島さんでもこけるのです。まだ足が眠っているのです。鉄塔の下を滑って間もなく、我々と

よく似た団体さんが堰堤から上がってき
た。思わぬ出現にびびり、「福井くろ
ゆりクラブ」の15名だった。
服脱ぎタイムと称して我々は小休憩し、
先頭のラッセルを代わってもらった。合
流しなかつたら、どちらかの一方的なラッ
セルになるころであった。その後「く
るゆり」さんとは休憩ごとに前後する。
今日は覚悟していたと言うNさん、「良
かったー 助かったー」と思わず本音。
「エイエイオー」が効を奏して青空が
出てきた。振り返ると、関峠越しに若狹
湾が覗く。敦賀市街も雪を被って、エー
ゲ海ミコノス島のように白く浮かんでいる。
我らの「野坂岳」も霧氷越しに間近に
横たわっている。三國山から折戸谷乗越、
野坂岳への稜線が長くのびている。乗鞍
岳のとんがりも目立つ。
夏道が隠れてわからない。新雪、未踏
の尾根を這い上がる。だんだん雪は深く
なり、さらさらのパウダースノーとなっ
てきた。サラサラだから踏み固まらない。
先頭はもがいている。後ろを歩いてい
てもカンジキは沈み、足をとられる。あ
ちこちで雪に顔を突っ込んでいる。真っ
白い肩、口髭、あご髭を付けて、にわか



サンタさんの出来上がり。「キャーキャー」と歓声。
裸の樹木たちは小枝の先まで霧水を付けて装っている。なんてきれいなんだらう。雪の精が山に入った者のみを見せてくれた神秘の世界である。エビのシッポも高さが増すにつれ長くなっていく。日本海の方から雪雲が迫ってきてまたまた

雪の精のお出ました。
「日本庭園」に着いた。綿帽子を被ったクロマツのなかをぬうように進む。山のなかでクロマツが群生しているのは珍しいそうだ。大雪原が広がっていて、目がまぶしい。
ちょうど12時に夕暮山(720m)の反射板の下に着いた。岩籠山へ行くつもりだった「くるゆり」さんもここまでと決め、昼食となった。
風を避けて雪の上に乗る。美浜からのグループは、持ってきたスコップで穴を掘って坐り込む。
ガスで餅入りうどんを炊く。鍋に粉雪が舞い落ちる。ツルツル、モチモチ、アツツツ。コーヒーや焼酎もいただき身体ポッカポカ。しきりに降る雪に、写真も歌もドネーション発表もせず、「くるゆり」さんに「お先に」とあいさつして下山を急ぐ。
往きの足跡をたどって戻る。吹雪で足跡が消えたら雪原では進路がわからない。中間の広場で「シッコ、猶予タイム」。雪に黄色く溶けた痕が幾条も……。うさぎもびびり。
上りにはラッセルの番がこなかったの

で、下りに少し先頭を歩いた。高度が変わると、雪の質も代わる。新沼謙治の歌じゃないが、「よつるがには、七つの雪が降るといふ。粉雪、粒雪、綿雪、さらめ雪、みぞれ雪、固雪、春待つ氷雪」。山では撮れなかった記念写真は、下山後ハリポテおばちゃんの前へ移動して撮った。(平成17年2月6日歩く)

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!

・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

新ハイ例会スノーハイク

見当山・大日ヶ岳・水後山

奥美濃

鷺見守康

みたい。

スノーハイクの楽しさは、天候によって大きく左右される。晴天に恵まれれば、真っ青な空と白い大地、神々しいばかりの銀嶺に囲まれて別天地に遊ぶ気分になれるが、ひとたび天候が崩れると、身の危険さえ感じる厳しい世界となる。

昨年2月の北八ツ・天狗岳では、厳寒のなか強風をつけて登ったが、気温はおそらくマイナス20度を下回っていた。また、天候により中止に追い込まれることも多く、昨冬の日帰りスノーハイクは、天候悪化のため全部中止となった次第である。

今回は、昨冬実施できたスノーハイクの中で、天候に恵まれた山行を報告して

奥美濃にはスノーハイクに適した山がいくつもある。多くは山腹から裾野にかけてスキー場があり、豊富な雪量を誇っている。スキー場があるから、車でのアプローチも便利で、現地にはトイレ等の設備も揃い、行動中に天候が悪化した場合にも対応が比較的容易だ。

しかし、新ハイ例会山行としての実施を考えたとき、これらの奥美濃の山々には決定的な難点がある。多数のスキー客の集中による激しい交通渋滞である。特に休日の混雑はひどく、岐阜への帰路に交通渋滞に巻き込まれてしまえば、関西

大日ヶ岳山頂直下にて



からの参加者はその日のうちに帰宅できない事態が生じる。

そんなわけで長らく奥美濃スノーハイクは断念していたが、やがて、正月休み明けの次の休日にあたる「成人の日」を含む連休には、ひどい混雑は無く、例会山行の狙い目であるということがわかってきた。

見当山

2泊3日の奥美濃スノーハイクの初日は、郡上高原スキー場の奥に位置する見当山である。

登り口までの道は、スキー場の入口まで除雪されているのだが、この冬の積雪



量は半端ではない。道の両側には見事な雪壁ができています。20センチにも達するという有名な立山・大谷の雪壁には及ばないものの、私たちの背丈を超える雪の壁が続く光景は見事である。頭上には青空が広がっている。

重機による除雪終了地点から、雪壁に登るポイントを探し、雪原の上に出た。雪原を見渡しながら、見当山山頂まで登るのはちよっと無理だなと考えたが、とりあえず出発する。スキー場関係者以外の足跡は見当たらない。誰も登っていないのだ。

雪が多過ぎて、予定の登り口がわからない。歩く予定の尾根の方向はわかっているのですが、適当に支尾根に取り付いてみた。雪の締まりはなく、ラッセルがきつくない。空腹を抱えたままでは余計にきついたので、1時間ほど登り、疎林のなかで昼食休憩とした。

昼食後に再びラッセルを続けるのはつらく、山頂はなお遠い。パーティメンバーも「こゝまでで満足」と言ってくれるので、深く撤退し

た。

大日ヶ岳

2日目は、本例会のメインである大日ヶ岳だ。9時過ぎにスキー場の高野スノーパークに到着。風はあるものの晴天だ。スキーヤーに混じってゴンドラに乗船。ゴンドラの山頂駅から大日ヶ岳を目指す。ラッセルを心配をしたが、すでに山スキーのパーティのトレースがあり、雪質も締まっていて助かった。

大日ヶ岳は、奥美濃では山スキーのメッカとして名を馳せているが、この日もスノーシュー隊は私たちがいるので、山頂を目指すパーティは、山スキーヤーやボーダーであった。

スノーシューは、もともと山岳スノーボーダーが登りに使用していたものだから、ボードを背にスノーシューで登っている姿は珍しくはないものの、驚いたのは二つに分割できるアイテムだ。2人組パーティの1人が使用していたが、私は初めて見た。

「えー！ 分割できるんですか？」と目を丸くする私たちに、ボーダーは笑顔で説明する。斜面を登るときには二つに



水後山へのルートを見守る

セルで進む仕快感は、スノーシューなら
ではである。1時間ほど進んで水後尾根
にのり、御嶽・乗鞍・白山、そして奥美
濃や越前の雪嶺の壮大なパノラマを堪能
した。

真っ青な空と真っ白な台地。絵画のこ
とき世界に佇む幸福感は、筆舌につくせ
ない。ここからさらに水後山への雪のルー
トが続いており、登高意欲をそそられる。
けれど、本日の行動予定時間では余裕が
なく、米冬の再訪を期して、本日はゆっ
くりコーヒータイトムをとった。

復路は、めいめいわれわれ、まぶしく
輝く雪原に自分自身のトレースを描きな
がらゆるやかにくっついて行く。あまりに
雪が深いせいか、動物の足跡さえ見当た
らない。

ゴンドラの終点広場へ雪の壁をくだっ
ていると、私たちの存在に気づいたスキ
ヤーが不思議そうに見上げてくる。とん
でもない所から、突然、人間が姿を見せ
たからだ。

やがて、1人の若い娘さんが話しかけ
てきた。その娘さんの父親も山を歩くよ
うで、そんなことから私たちに親近感を
抱いたようだ。「危険はないか、山の土
はどんなふうか」と興味深げに質問して
くるのを、Mさんが親切に答えている。
「ゲレンデから少し上に登って見るとい
い、そこには別の世界があるから」と盛
んに勧めている。

任雪され、整備されたゲレンデの世界
から、神々の住むような清々しい雪原に
立ったとき、若い娘さんは果たして何を

想うのだろうか。
(平成18年1月7日〜9日歩く)

▲参考タイム▼
 (7日) くもり一時雪(集合) JR 岐
 阜駅 9・15 (レンタカー) 郡上高原ホテ
 ル 12・00 | 05 | 見当山への尾根(昼食)
 | 郡上高原ホテル 14・30 (車) 牧歌の里
 (車) カルピライとしろ 16・20 (泊)
 (8日) くもりのち晴れ 宿 8・30 (車)
 高鷲スノーパーク(スキー場) 駐車場 10・
 05 | 15 (ゴンドラ) 山頂駅 10・40 | 大日
 ヶ岳 11・35 | 12・30 | 山頂駅 13・10 (ゴ
 ンドラ) スキー場駐車場 13・30 (車) そ
 ば処源助 14・00 (昼食) 14・30 (車) 郡
 上市観光(車) 宿 16・20 (泊)
 (9日) 晴れ 宿 8・30 (車) ウィング
 ヒルズ白鳥(スキー場) 駐車場 8・50
 (ゴンドラ) 山頂駅 9・15 | 25 | 水後尾
 根 10・25 | 50 | 山頂駅 11・25 (ゴンドラ)
 スキー場駐車場 11・35 (車) そば処源助
 13・30 (昼食) 14・00 (車) 岐阜駅 15・
 50 (解散)
 ▲地形図▼
 2万5千11那留・大鷲・石俣白・ニノ峰・
 新瀬

分割し、裏にシールを装着する。急斜面
では専用のアイゼンを用いることもある
ようだ。そして、滑走のときには一つの
ボード板として使う。なかなかの優れた
のだが、高価なうえにおいそれとは見
つからないようである。

前大日ヶ岳を越えると本峰だ。いずれ
も真っ白な丸い頂上となり、雪のほかは
何もない。例年なら、雪の中から標識な
どが頭を出しているはずだが、今日は見
事に雪だけの世界である。やはり今冬の
積雪量は半端ではない。

四方にはガスがかかり、山頂からの見
晴らしはいまいちだ。けれど、西に続く
尾根には、アルプスをしのげる雪嶺の
鎌ヶ峰が神々しい容姿でそびえている。
さらにその西は水後山だ。

風は強く、じっとしていれば身体が芯
から冷えてくる。あまりにもすばらしい
雪世界だから立ち去りがたく、コーヒ
ータイトムをとって頑張る。

数パーティの山スキーヤーやスノーボー
ダーと交歓しながら、せっかくだから、
彼らの滑走を見たいとおねだりする。
予期せぬギャラリーの出現に彼らはとま
どいを見せながらも、やはり悪い気はし

ないようで、次々と谷に滑り込んで行っ
た。単独のスキーヤーはベテランらしく、
さっそうとした滑りで、まもなく私たち
の視界から姿を消した。

山頂到着から1時間後、私たちも、誰
もいなくなった山頂を後にした。

水後山
3日目は、穏やかによく晴れ上がっ
た。

宿からウィングヒルズ白鳥リゾートス
キー場へ車で20分ほど走る。ここでもス
キーヤーに混じってゴンドラに乗船する。
ゴンドラの終点地でスノーシューを装着
すると、若者たちが珍しそうに眺めてい
る。「あの、おばさんやおじさんたち、
何してんだろ?」という表情である。

ゴンドラ終点地は広場として除雪して
あるが、そこから水後山へのルートの案
内も踏み跡も特にはなく、大きな雪の壁
となっている。その壁をトラバース意味
に一気に登る。

壁を登りつめると平坦な広い尾根に飛
び出した。人間の足跡のない清々しい雪
原である。汚れない雪原を独り占めに
し、パウダースノーのなかに軽快なラッ

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

◆新製品紹介◆
◆ウォーキングW◆
2気室切替式短期縦走モデル

☆32/☆
*カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重量 1550g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥15,750

☆28/☆
*カラー ミントグリーン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
*重量 1400g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥13,650

・両室内ジッパー付き小ポケット
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を
変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付片側は
内ポケット、もう一方は内部への
アクセス用
・フロントポケットはメッシュと
ゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉に
より1~2気室に切り替えて
使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし
疲労感を軽減します。

イモック山遊行くらぶ
7月初登り
1月21日 比良山系
笠谷ヶ峰 (902m)
2月18日 瑞州北部
白鳥山 (1047m)

イモック山遊行くらぶ
OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBÉ
〒653-0039 神戸市長田区日本町丁1番30号
カジノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間 10:00~20:00 日曜日不営業

岩峰群に隠れて忘れられた二つの鋭峰をもつ山

おんがたかいわ 恩賀高岩

入山川を挟んで妙義山と対峙する恩賀高岩は雄岳と雌岳の二つの岩峰をもつ山である。この周辺を友人と2人で車で通過した時、この山が目に入った瞬間、友人は「ドロミテのようだ」と言った。そう言われると登りたくなるのが人情だ。彼は山嫌いの男なので1人で行ってき

た。山の名から恩賀の地名に関係があるのだろうと、恩賀集落内を車でぐるぐる廻ってみると登山口があり、どうにか一台駐められるスペースがあった。

杉林のなかを20分ほど登ると林道に出た。横切って沢沿いを登ると両峰のコルに登り着く。広葉樹のなかで暗い所だ。

トからロープが30㍍を残して干切れているのを見て、ロープが万全でないことを知る。

この岩峰は手掛かりがよく、わりと楽に登れたが、頂部は狭いので緊張して落ち着かない。長居は無用と慎重にコルまで戻る。

あとは登った道をのんびりくだる。振り向けば覆いかぶさるような岩峰が頭上にそびえている。

(平成18年8月30日歩く)

△コースタイム▽

登山口(1時間)コル(30分)雄岳(1時間)雌岳(1時間20分)登山口

△地形図▽2万5千Ⅱ南軽井沢



雌岳より雄岳を見る



雄岳より雌岳を見る

山形明

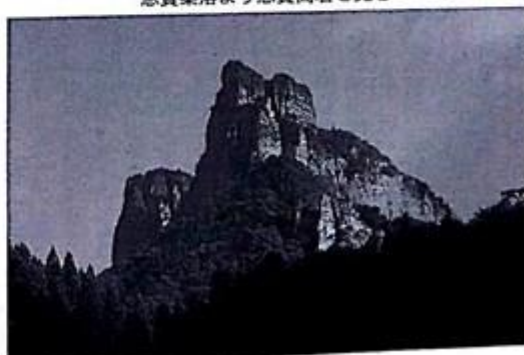
妙義

コルからまず雄岳に向かってしばらく登ると、垂直の岩峰に突き当たった。左に捲いてみるがハング状の壁で手も足も出ない。右に捲き、頭上から水がしたたり落ちる沢の源頭部を渡ると、岩の裂け目が垂直にそそり立っている。

この岩は玉石を巻岩が巻き込んで固まったような岩で、表面がゴツゴツしているので足掛かりになる。ここから気合を入れて空身で登る。高度30㍍ほどだろうか、裂け目の上には青空が見えている。岩の裂け目には身をいれずと恐怖感がなくなり、背中の岩に体重を預けながらよじ登った。

岩の上は高度感抜群、周りの風景はみ

恩賀集落より恩賀高岩を見る



な足の下で、妙義山、航空母艦のような荒船山、大きな山容の浅間山の姿が美しい。ここに坐って一服吸えばちよっとしてお山の大将の気分になれる。コルに戻り、雌岳へ向かう。樹林帯のなかの岩場を急登するが、これも足元がスッパリ切れ落ちていた所があって気が抜けない。

雌岳の岩峰には、岩に打ち込んだボル

京都北山を歩く ●ミニガイド (第1回)

エリア別徹底研究

冬、雪山を歩く5コース

■村田 智俊



ミニガイド掲載にあたって

京都北山の山々を四季を通じて歩いてみませんか。

今号より1年を通じてその季節ごとに歩いてみたいコースを厳選し、「ミニガイド」として紹介していきます。

毎号、五つのコースを紹介し、そのいくつかの山へは、村田が案内する山行例会に組み込んでいきます。ガイドを読まれ、興味を持たれた方はぜひご参加ください。都合で例会にご参加できない方も、また例会に取り上げていないコースも、このガイドを参照され、お友達やグループで歩いてみられたいかががでしょうか。

1・2月は、北山にもかなりの雪が積もり、北方への山には行けません。京都市の近郊で交通機関にも恵まれた山を選んでみました。写真は都合で掲載できませんが、現地で実際の風景に接してみてください。

コース① (一般コース) 薬師峠から棧敷ヶ岳

真っ白い雪原の棧敷ヶ岳(△895・897)山頂からは展望が広がり、雪山登山には最適である。最もポピュラーな薬師峠からのコースを往復してみよう。

京阪出町柳駅から雲ヶ畑岩屋橋行き京都バスに乗り、終点で下車。バス停の橋を渡り、右の雌鳥社と呼ばれる惟高神社を見てから、岩屋不動の志明院まで舗装の車道を30分行く。寺院正面の右手山側に薬師峠への登山道がのびている。

志明院の境内を左下に見ながら山に入ると谷に沿う道になる。やがて大岩のある所で谷が分岐するので、テープや道標を見て右の谷に入る。まっすぐ行く踏み跡は岩屋山へ行くので注意。右折してからしばらく石の多い谷の中を歩き、登りになると間もなく薬師峠に着く。

薬師峠には地藏が六体(96ページ)に写真並んでおり、北山らしい情緒のある峠で休憩によい。ここから北へ棧敷ヶ岳に向けての尾根歩きが続く。この尾根道は

「尾根敷」と呼ばれ、きつい登りは少なく、雪の道でも2時間30分も見ておけばよい。積雪量は通常なら20センチまでである。薬師峠から北へ、すぐに左手に墓所を見てやがて尾根の西側を歩いて行く。巻き道から城丹国境尾根が見えるだろう。

途中、右に西谷にくだる分岐が出てくる。ここからは尾根の東側をたどって行くようになる。ややくだって登り返し、尾根を乗り越えて反射板や岩茸山の東側を歩いて行く。尾根上を行くようになり、しばらく行くと送電線鉄塔の下に到着する。

手前に「都ながめの岩」があると聞くが、雪の下ではわからないだろう。右下へ祖父谷林道からの巡視路が分岐しているが、急坂なので積雪時の下山向きではない。鉄塔広場から棧敷ヶ岳がすぐ正面に見えていて、ここから近い。

いったんくんだり、山頂を目指して登りになるが、雪道でも15分もあれば十分である。



皇位継承で弟君に敗れた惟高親王が棧敷ヶ岳に登ったという、伝説のある山である。雪の山頂広場で展望を楽しみながらの弁当は楽しいだろう。

帰りは往路のトレースをたどってのんびり歩いても、岩屋橋バス停まで3時間もあれば十分である。バスの時間に合わせて山頂でゆっくりしたい。

Aコースタイム・雪道V

京阪出町柳駅(バス1時間) 岩屋橋バス停(30分) 岩屋不動志明院(15分) 谷分岐(15分) 薬師峠(2時間) 送電線鉄塔(15分) 棧敷ヶ岳(1時間50分) 薬師峠(30分) 志明院(20分) 岩屋橋バス停(バス1時間) 出町柳駅

△地図V昭文社「京都北山」
*京都バス ☎075(871)7521

コース② (一般コース) 亀岡から明智越え

本能寺で信長を討つ前、明智光秀は、亀岡の保津から山を越え、水尾を経て愛宕山に詣で、「時は今あめが下しる五月かな」と詠んだ。この折に光秀が越えた山道が、のちに「明智越え」と呼ばれるようになり、今では四季を通じてハイカーに歩かれている。

光秀が通ったのは初夏だが、私は、明智越えを歩くには冬の雪の積もった日がベストだと思っている。

JR亀岡駅から電車で来た方向へ戻り、京都寄りの踏切を越え、保津川に新しく架かった立派な新保津橋を渡る。県道から右へ保津集落の中の道に入って行き、文覚寺の先で右折して行くと、すぐに山側に明智越えの説明板があり、ここが登り口である。

竹やぶのなかの道を上って行き、すぐ左に登っていく登山道をたどる。稜線に峰の堂跡の説明板を見てゆるやかに登って行くが、やがて平坦になり、尾根上の

広い一本道になる。落ち葉敷く快適な道

で、積雪があれば、その上を歩くと一層気分がよく、これぞ雪山歩きの醍醐味である。さらに、太陽の差す日だまりハイクになれば最高の雰囲気を楽しめる。前日や夜中に雪の降った翌朝に出かけ、亀岡盆地が朝霧に包まれているなら、このような日になること請け合いです。

さて、土用水を越すと、尾根上を鉄塔に上る道と右下に水尾にくだる道との分岐が出る。そのまま尾根を上って行くと、すぐ送電鉄塔の下に着く。明るい広場で展望が良い。風が無ければここで昼食にしよう。

下りは、鉄塔の下に先ほど分岐した水尾への道が通っているので直接降りてもよいが、いったん分岐まで戻って水尾への道を確認するほうがよいだろう。鉄塔への分岐から30分くだって行くとまた分岐が出る。ここでは水尾への道標を確認し、左へ折れてくだる。

この分岐で尾根を△340・6分の方へまっすぐ行っても保津峡駅に出られるが、途中で分岐点も多く、下の方で崩壊箇所もあり、雪のときは特に危険なので絶対に行かないようにしたい。

それもわずかで車道に飛び出し、江文峠に着く。

北へしっかりした登山道がのびている。始めはゆるやかでも、山裾を登るようになりと急坂になる。坂道が終わりに曲がりながら行くと、平坦な広場に出て、休憩できる。少し登ると、江文神社の脇から登ってきた登山道と合流し、左へ折れる。むつみ地蔵を見て、すぐに琴平新宮社に着く。雪があればすばらしい景観の境内である。

いよいよ、社の裏から稜線にかけての急登が始まる。15分の辛抱で稜線に出て展望が開ける。岩のある道をたどって翠嵐山への分岐十字路に着く。左側へ入ると小さな祠の前から比較方面の展望が開ける。金毘羅山頂には三壺大神が祀られていて、その裏から西南尾根をたどると、△572・8分へ約30分で往復できる。

翠嵐山への分岐に戻って北へ向かう。ここから急な下りになり、足元が悪い箇所もあるので慎重にくだってほしい。鞍部を過ぎるとすぐ二分する。翠嵐山へは左の小道に入って登って行く。右へ行くのは大原へそのまま下山する道である。翠嵐山の山頂は小広場になっており、昼

保津峡から水尾への車道に出合い、車道歩き30分で保津峡駅に出る。

▲コースタイム・雪道▼
JR亀岡駅(35分) 保津町文覚寺(5分) 明智越え付口(20分) 峰の堂跡(50分) 鉄塔広場(30分) 水尾への分岐点(30分) 車道(30分) JR保津峡駅
△地図▼昭文社「北摂・京都西山」



食をとるのによい。

山頂から東へ5分ぐらいくだと、先ほど分岐した下山道に合流する。あとはよく踏まれた道をくだって行く。翠嵐山から約1時間で寂光院奥の林道に下り立つ。寂光院前でゆっくりとコーヒータムでもとり、大原バス停までのんびり歩こう。

▲コースタイム・雪道▼
戸寺バス停(30分) 江文神社(30分) 江文峠(40分) 琴平新宮社(15分) 稜線(10分) 翠嵐山分岐(15分) 三角点(15分) 翠嵐山分岐(40分) 翠嵐山(1時間) 寂光院前(15分) 大原バス停
△地図▼昭文社「京都北山」



コース③ (一般コース)

大原の金毘羅山・翠嵐山

金毘羅山は、大原の西にそびえる岩稜の山である。ロッククライミングのゲレンデがあり、冬でも登攀に汗を流すクライマーの姿が絶えない。登山道は江文峠からポピュラーで、雪の日に金毘羅山に登り、尾根を伝って翠嵐山に行き、寂光院にくだるコースを紹介する。

大原方面行きのバスに乗り、戸寺バス停で下車。コンピニの横から西に小道を伝い、高野川を渡って井出の集落を通過して江文神社の参道に入る。高野川の橋からは、金毘羅山が正面に、南に瓢箪山、北に翠嵐山から焼杉山までの大原背稜の山々を望む。

江文神社の手前で、左に江文峠への道標を見るが、初めての人はまず江文神社へ立ち寄り、参拝してから行くことしよう。珍しい絵馬がある。

分岐に戻って江文峠へ行く。小川を渡って杉植林のなかをゆるやかに登る。峠近くなると石コロが多く登りもきつくなる。

コース④ (中級コース) 越畑から地蔵山

愛宕山の北にそびえる1等三角点の地蔵山(947.6m)への雪山登山は、快晴の日をねらって行けば最高である。山頂からは、真っ白に冠雪した愛宕周辺の峰々が展望でき、樹木が霧水に輝くときもある。

JR八木駅からバスで越畑へ入る。バス停から北東へJAの前を通過して車道を少し行き、右手山側の集落に上る小道に入る。

高所にある集落内の坂道を行けば、展望も開けて清々しい。集落を過ぎると山道になり、左に谷が出てくる。その谷の橋を渡って廻り込むように上って行く。山腹をまっすぐに行くようになると、やがて芦見峠である。北山の雰囲気を残した静かな峠で、私の好きな所である。

地蔵山へは右手(南方)へ上って行く。左は三頭山から星峠への道、これも雪のときに歩きたい道の一つである。まっすぐ行けば芦見谷の林道へ出る。

コース⑤ (中級コース) 鞍馬から天ヶ岳

花背峠を越えようと一気に雪が深くなる。しかし、鞍馬・貴船までは温暖で積雪も少ないので、周辺の山は冬でもよく歩かれている。その中の一つ、天ヶ岳(788m)も雪山登山に快適で、天ヶ岳のすぐ北にある送電線の鉄塔からは展望が優れ、広々とした休憩広場を提供してくれる。晴れた日を選んで鞍馬から天ヶ岳への尾根を歩いてみよう。

京阪出町柳駅で乗り換え、叡山電車の鞍馬行きに乗ると、30分で到着する。鞍馬駅周辺は土産物屋が立ち並び、車道に出ると立派な鞍馬寺の山門を見る。車道に沿って右折して50分も行くと、栗王坂への東海自然歩道の道標があり、家並の間から右へ入る。鞍馬川の小橋を渡って山道に取り付く。掘れた石コロ道を登って行くと、汗をかくところに栗王坂の峠に到着する。まっすぐ峠を越えてくたて行けば静原へ抜けるが、天ヶ岳へは左(北方)へのびる尾根を伝うことになる。

地蔵山への登山道は登るにしたがって積雪も深くなり、雪をかぶった樹林の下を滑るようになる。急登する箇所もあるが雪に滑って登れないようなことはない。約1時間30分も登って行くと、反射板に出て見晴らしがきく。フェンスのそばを通り、すぐに西向地蔵が雪のなかに鎮座して、地蔵山に近いことを教えてくれる。ここから間もなくの上りで地蔵山の山頂広場に到着する。疎林のなかで好展望は期待できないが、1等点の標石を囲んでの昼食は楽しいだろう。

地蔵山から南へ進み、愛宕山を目指そう。また反射板が出てきて、ここからくだると広い鞍部に着く。風の強い日は山頂での寒風を避け、ここらでゆっくりするのよい。

雪はますます深くなり、やがて原からの幅広い裏愛宕の参道と合流する。それを伝って社務所へ行き、階段を上って参拝する。愛宕山への



登路はいろいろあってどの道を選ぼうかと迷うが、雪の深いときは確かな表参道をくだらう。

冬場でも愛宕山に登る人は案外多く、参道は踏み固められてツルツルに凍結している。必ずアイゼンを装着し、滑らないように注意しよう。転んで石段で頭でも打ったら大ことになる。清流バス停から帰路につく。京都駅まで約50分。

Aコースタイム・雪道V

JR八木駅(バス50分)越畑バス停(50分)芦見峠(1時間30分)西向地蔵(10分)地蔵山(1時間)裏愛宕道合流(30分)愛宕神社(2時間)清流バス停

△地図V昭文社「京都北山」

*京阪京都交通バス(八木駅→越畑) 0771(23) 8000

ゆるやかに上っている尾根で、雪の積もった日でも快適に歩ける。

時々左下に鞍馬の家並を見ながら樹林のなかを行く。1時間強で杉の林になり、右から水谷をつめてきた静原からの登山道と合う。疲れた大人、また雪が深い場合は、この道を里にくだってもよい。

ここから三又岳へはやや急登になり、積雪時はここから天ヶ岳まで1時間30分以上を覚悟したい。

分岐を過ぎすと、なおも尾根上を北へ進む。やがて急登になってくると三又岳は近い。三又岳山頂付近は伐採されて見晴らしがよい。

山頂から再び自然林のなかの道となり、気分よく歩ける。右手西側に展望が開ける所もあるので休憩しながらのんびり行こう。徐々に急坂になり、ベースを落として行くと西保コースに出合い、ひょっこりと天ヶ岳の小広場に到着する。

山頂は樹林のなかで展望は無い。少し休んだら、なお北へ向けて支尾根に上がる。尾根を下りると大原と百井峠を結ぶ登山道に出合う。百井峠へ右折して2、3分も行き、



左手に取付口を見つけ、支尾根に上がってみよう。鉄塔があって、その下は広い雪原である。比良方面を展望する絶好の広場で、ここまで辛抱したお弁当を広げよう。

下山は、その日の積雪状況によって大原にくだるもよし、百井峠から百井谷に沿って鞍馬にくだるもよい。トレースがしっかりとあるのは大原への道だろう。

Aコースタイム・雪道V

京阪・叡電出町柳駅(電車30分)鞍馬駅(30分)栗王坂(40分)西谷分岐(40分)三又岳(1時間)天ヶ岳(15分)鉄塔広場(2時間30分)大原バス停(2時間30分)百井谷経由鞍馬駅

△地図V昭文社「京都北山」

連載

旗振り通信の新研究 ②

愛知県内ルートⅡ

柴田 昭彦

【愛知県の旗振り場②】

〈岡崎市の旗振り場〉

平成18年7月29日、名古屋市鶴舞中央図書館で郷土資料を探して、鈴木重一「岡崎地方史話」(朝東海新聞社出版局岡崎地方史話刊行会、昭和51年)の「延米会所①―岡崎米穀取引所の話―」に次のような興味深い一文があることを見つけた。

「米穀取引所の相場をたてる本館の鬼瓦ぎわに、消防署の望楼みたいな物見櫓が取り付けられた当時としては変わった建物であった。これは米穀取引の中心がこのあたりでは桑名にあって、通信網としては、電信はあったが、電話がないの

で(電話開通は明治四十一年三月二十一日)旗信号で、リレーされる方式で、予め信号方法や信号時間を定めておいて、桑名から伊勢海をわたって知多郡半田の中継所で受け、最後に西尾の八ツ面山と桑谷山でキャッチして、それを岡崎のこの望楼に伝達をうける仕組みで、二人一組の旗振り師と望遠鏡をかざして解説する観測手が従事し、今日のように建物が高かったりスモッグのない時代だから、これを用を弁じたのであるが、天候不良のときは相場をたてることもお休みだったにちがいない。

悪徳もあったようだ(無論発覚すれば仲買人のクビはもとより、賠償制度も確立されていたようだ)。
この岡崎米穀取引所のことについて、明治二十八年六月二十五日付の新聞記事に、
「岡崎町大字康生の畑地へ、米穀取引所が新築され、本日チョウナ始め(起工式)が行なわれ、しゅん工の儀は年内たり」と報道された。
ここに示された旗振り通信ルートは、「桑名」(伊勢湾)―知多郡半田の中継所―八ツ面山・桑谷山―岡崎である。HP「小屋番の山日記」(西山秀夫)で、1等三角点の桑谷山は旗振り山の可能性があるとコメント(7月26日)をもらっていたので、ズバリ、的中したのは驚かされた。ところで、半田の中継所とは、一体どこなのであろうか。
平成18年8月4日、愛知県図書館で、「岡崎地方史話」の出版と見られる記述を「岡崎商工会議所五十年史」(岡崎商工会議所、昭和17年、奥付には「岡崎商工会議所五十年史」とある)の中で見つけた。
「創業時代の米穀取引の中心は桑名市場にあり、当時電信、電話の便がなかった

ので旗振りによるリレー通信方法が用ひられ、桑名より知多郡(半田附近)か、西尾八ツ面山、桑谷山などに中継所を設け、旗振り師と取引所の屋上に頑張る観測師が、遠メガネを通して桑名の建値をキャッチし、上天気の日には桑名、岡崎間を十分間内外で完全に連絡したと伝へらる、天候不良の際は観測困難のため休まねばならぬ不便もあり、また旗ぶり、メガネ師が、売手や買手から買収されて取引所に虚偽の報告をし、後暴露して全部クビになつたなどの、悲喜劇が語り草になつてゐる」

以上のように、「岡崎地方史話」に「知多郡半田の中継所」とあったものが、出典では「知多郡(半田附近か)」となっていたことがわかる。既に、昭和17年当

時、知多郡にあった中継所の場所が、岡崎の古老の間でも、よくわからなくなっていたことがわかる。
知多半島(知多郡)の半田付近に、旗振り伝承がないかどうかを、半田市文化財専門委員長で、知多半島の歴史に詳しい、河合克己氏に問い合わせてみたところ、半田市付近に旗振り伝承は残らないが、亀崎高根山(標高491、幕末の烽火台、亀崎北西)の可能性は考えられるとのことだった(平成18年8月7日付返信)。しかし、亀崎高根山は、桑名方面が標高50以上の山々で遮られるので、知多郡の中継所とは考えにくい。

(南知多町、128・51、幕末の烽火台)、富士ヶ峰(南知多町、124・91)が考えられるが、河合氏によれば、これらの山々を含めて、知多半島南部地域には、米相場の旗振り伝承は知られていないとのことだった。
知多郡は、現在の名古屋市長区大高町・有松町桶狭間および大府市から南の地域である。桑名や半田と直接、中継できる旗振り場として、大府市南端の最高峰の観音寺山がある。いろいろな状況証拠から、知多郡の中継所とは、観音寺山と考えることができよう。
以上をまとめると、通信ルートは「桑名」(伊勢湾)―観音寺山―(半田取引所)―八ツ面山―(桑谷山)―岡崎」と推定できる。観音寺山からは八ツ面山に送信で

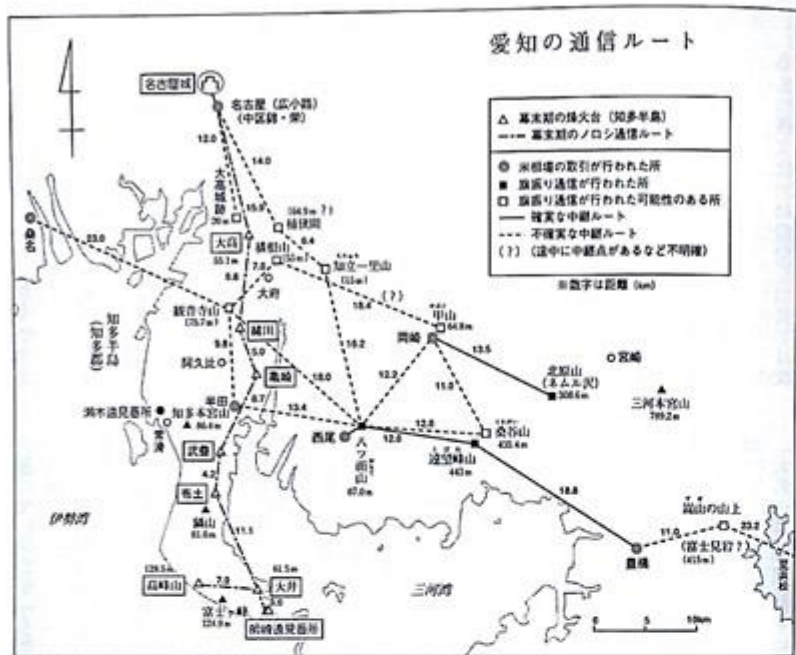
比叡山1000年の道を歩く

竹内康之著 A5判並製 一六八〇円
比叡山の諸堂へと続く古道や峠道は、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円
吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道「奥駈」を著者自身が探査して、摩・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

★表示の価格は5%税込です
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161



に米相場の旗信号の交換台であった地として、多度の愛宕山、高山、岡崎の甲山、犬山対岸の伊木山、岐阜の金華山を挙げる。電信が利用される前に旗信号で速報したものが、池田隆介氏の教示では大高城であった城山である地元の人が話しを由。同書には更に黒船来航以後の沿岸警備に於て知多半島南端の見張番所から旗信号もここで受持った

とある。」とある。さっそく、榊原氏に問い合わせると、『郷土の新しい史観』は戦前に出た冊子で入手困難との由で、複写をお願いしておいたところ、8月2日に届いた。あけて、びっくり。この文献は、『旗振り山』の217頁で紹介したように、川合隆治「旗振り通信について」(『三重の古文化第48号』昭和57年)に引用されているだけで、どこの図書館にも見当たらない。幻の「尾張の史跡と遺物」臨時号(名古屋郷土研究会、昭和15年7月)であった。雑誌本体の誌名は『尾張の遺跡と遺物』であり、少し異なる。元版はガリ版印刷なので、活字新組で復刻されているが、臨時号は含まれていない。この臨時号は、何と、活字印刷されたものであった(坂重吉印刷所)。臨時号のタイトルは「郷土の新しい史観」で、「木曾川流域の原始時代の鉄文化」を主要なテーマにした論考が収められた、計32頁の小冊子である。内題に「文化人類学・人文地理を背景として多度、愛宕、香取、桑名、掛斐川を語る」とあり、すべて、犬山出身の歌

き、八ツ面山からは岡崎に直接、送信することもできる。半田取所方面は分岐ルートであり、桑谷山は、送受信がしやすいように設置された中継所と思われる。桑谷山は、遠望峰山の旗振り場にくく近いので、なぜ、わざわざ設置したのか不思議に思えるが、桑谷山は岡崎方面、遠望峰山は豊橋方面への通信に用いられたいものと思われる。おそらく、情報を必要とする人たちのリクエストに応じて、業者の違いにより、いろいろな分岐ルートが用いられたのだろう。岡崎については、岡崎市立本宿小学校PTA郷土史クラブ編『本宿小史』(本宿小学校PTA、昭和52年)の「鶴巣町の小子の由来」に次のような記述があった。「ネムル沢(通称) 北原山と南原山の間を『ネムル沢』と呼ぶ、この地は江戸時代に、ここから岡崎の米相場を遠眼鏡で見得てそれを手旗で宮崎方面に知らせたといわれる。」『旗振り山』(230頁)で紹介しているように、『おかさき東海風土記』(昭和49年)にはほぼ同じ内容の記述があり、『本

宿小史』はこれに依ったものだろう。旗振り地点については、『鶴巣村風土記』の小子地図にある「ネムリ沢」の位置から、その源流の上の308・6の三角点であろうと推定していたが、その裏付けはとれていなかった。平成18年8月9日、HP「小屋番の山日記」における、筆者と西山氏との旗振り通信についてのやりとりをご覧になった方(HP「愛知アルプスの山日記」の管理人)から、岡崎市の新しい旗振り山について報告が届いた。4等三角点のある俗称北原山(308・6)の古い「点の記」に、旗振り伝承が記されていたのを思い出したという。その「点の記」をスキャンしたものが添えられていて、それを見ると、備考欄に「北原山は昔の旗振りした場所と伝へられる」との記載があった。この三角点の遺点は昭和42年であり、宮本功氏が選点する際に、土地の所有者である柴田芳夫氏が語った伝承を記録したものだ。『点の記』は平成14年に改訂されたので、新しいものには、旗振り伝承は記されていない。今回の報告によって、北原山が旗振り

場であったことが裏付けできたことになる。この山頂から東北・東南方向への通信は、山々に遮られて難しそうである。かろうじて、宮崎村(現岡崎市宮崎町)南東の三河本宮山への送信は可能だが、旗振り伝承は知られていない。宮崎村の集落への通信はできないので、具体的な通信方向は不明のままである。〈名古屋市・犬山市の旗振り場〉愛知県図書館での調査(平成18年7月23日)で、閉館直前になって、しかも偶然に見つけた旗振り場の記載は、榊原邦彦「緑区の史蹟」(鳴海土風会、平成12年)にあった。HP「小屋番の山日記」で、未知の旗振り場が緑区辺りにもあるかも知れないという西山氏のコメント(6月25日)があったのだが、この本に目を通して、旗振り場の記述はないらしいが、資料として使えそうな箇所のコピーをとっておくとして、さっとめくって、「旗信号」という文字が奇跡的に目に入った。次のような内容であった(100頁)。「大高旗信号場は『郷土の新しい史観』

人、齋藤富三郎氏の執筆したものである。

旗振り通信にふれた部分を紹介してみよう。

「愛宕山」旗信号「河川原始文化」においては、次のように述べている(8頁)。

「有名なる三本杉は、愛宕山の頂上より更に後峯十余丁の高所に鬱蒼として聳立して居る。

この絶好の展望を利用して、定期米市場は旗信号に依り通信する、謂はゞ交換台の役割を、徳川時代より明治末期まで約三百年間勤めて来た。即ち桑名の米相場を、同地よりこの愛宕山に写し、こゝより名古屋、大垣、とリレー式に移譲して、今日の電話、ラヂオと同一の機能を、發揮してゐたのである。」

多度山において、旗振りの行われたのは、三本杉である。齋藤氏は「愛宕山は、多度神宮に隣る峻峰」と表現し、三本杉と別の地点としているが、愛宕神社の背後の山が愛宕山であり、「旗振り場」多度山三本杉「愛宕山」とするのが妥当であろう。

「桑名の鉄文化」の附記(22頁)は次

絶好の展望台であるこの展望を利用して、旗信号が行はれたことがあったのである。

嘉永四年、突如米艦によつて放たれたる、浦賀湾頭一発の砲声に徳川三百年の泰平の夢、破られた江戸幕府は蒼皇各藩に命じて、沿岸の警備を厳にせしめた。尾州藩でも、篠島、師崎、内海などの、知多半島南端の海岸に見張番所を設けて、警戒おさく息りなく、若し黒船米らんか、直ちに旗信号に依つて、名古屋の奉行所に通報する仕組になつてゐたのであるが、その旗信号といふ大役を、この大高山が背負はされてゐたのである。」

以上のような記述から、大高山(標高55呎)において、旗信号が行われたと読み取れるが、一方で、齋藤氏は、「なほ大高山より西南約十丁に當つて、火上の地があり、こゝには熱田神宮の旗社として火上姉子神社が在る」(26頁)とも記し、これは大高城跡(標高20呎)を指していて、明らかに食い違ふ。

榎原氏が指摘しているように、地元には旗振り伝承が残るのは、緑区大高町本町の大高城跡である。一方、緑区大高町高根山(標高55・1呎)は、幕末期の烽火台

の通りで、これが「緑区の史蹟」の典故である。

「米相場の旗信号の交換台たりし地点は、未だ十分に探査して居らぬので確たることは云へぬが、仄聞せる所を左に掲げる。

愛宕山、大高山、本宮山(丹羽郡桑田)、八面山(西尾東)、甲山(岡崎)、伊木山(分野富士天山対岸)、金華山(岐阜)この中或は、二三の誤聞があるかも知れぬが、大体は間違ひないと信ずる。旗信号などは、天候の支配を受くことが多いのであるから自然信号に一の備考が附けられてあつたと云ふ。岡崎の古老に聞くに、八面山の旗信号は、天候不良の場合には不確実を条件として、米相場の精算勘定に入つたことである。これを霞付相場と称へたさうであるが、霞付とは海に面白い形容詞ではないが、今ならばハンデキャップ附きとでも云ふのであらう。旗信号は肉眼では、些か鮮明を欠くので、俗に云ふ円筒形の遠目鏡を以て、正確を期したことは云ふまでもない。」

愛宕山は、先に述べたように、旗振り場であつた多度山三本杉のことである。大高山は、名古屋市緑区大高町にあつ

が設置されたという歴史を持つてゐるだけである。

「尾張国知多郡誌」(明治26年)および河合克己「知多半島歴史読本」(新要館出版、平成18年)によると、嘉永6年(1853)の米艦浦賀来航に対する尾張藩の異国船対策(海防対策)として、半島先端に置かれた遠見番所から名古屋城へ非常警報を伝えるために設置された烽火台は、次の6カ所であつた。

- ①大井(南知多町大字大井字小海田、上苗代の峯、東海で唯一の烽火遺構、標高61・5呎)
- ②布土(美浜町大字布土字祭山、通称狼煙山、平田集落北西1、標高56呎、元61・1呎)
- ③長尾山(武豊町大字武豊字長尾山、標高12・4呎、元32・4呎、現在は武豊町役場で、煙突の高さが元の山頂を表す)
- ④亀崎(半田市亀崎高根町二丁目、亀崎中の東側、高根山、標高48・9呎、元49・4呎)
- ⑤緒川(東浦町大字緒川字西高根、高根山、元の標高は83・3呎、高根配水池に設置された73・8呎三角点の北25呎の地点に該当)
- ⑥大高(名古屋市長区大高町字高根山、標高55・1呎、元55・8呎)

以上の通りであり、知多半島南端の師

たが、詳細は後で述べよう。

本宮山は、犬山市桑田地区の尾張本宮山である。明治村の南西に位置している。犬山出身の齋藤氏が古老から聞いたものだろう。立地から考えると、名古屋の相場を犬山に伝えた中継所ではないだろうか。

八ッ面山での旗振り伝承は有名である。

甲山は、岡崎市街の北側の甲山公園で、標高65呎である。岡崎米穀取引所は標高20呎ぐらゐなので、通信が難しい場合に補助的に用いられた中継所と考えられる。

伊木山(岐阜県各務原市鶴沼)の伝承は、齋藤氏が犬山の古老から聞いたものだろう。立地から考えると、桑名の相場を岐阜経由で中継した可能性が考えられる。金華山については、次回に述べよう。

「大高と火上の地名考」には、次のような記述が見える(25頁)。

「大高山は標高五十五米突位であるが、四圍の丘陵よりも一際隆起して居るため眼界頗る広く、往時は鳴海灣愛知灣を脚下に俯瞰し、更に遠く知多半島の西浦、師崎、篠島等を一眸の中に収め得らる、

遠見番所(羽豆岬の付け根)で、異国船発見の際は、烽火で通報することになつており、齋藤氏の言う「旗信号」とは、実は「烽火」に他ならないことがわかる。知多半島南部には、今のところ、旗振り場は見つかっていない。

齋藤氏は「米相場の経済史観」(19頁)で妄想や仮定に没頭する一面を見せており、思い違いも散見するので、記述内容については、十分な検証が必要であるように思われる。

次回は、岐阜県内ルートを紹介する。(つづく)

(平成18年8月12日成稿)

湖南の山、阿星山へ

あ ぼし やま
湖南

磯部 純

「田舎から早く帰れたら参加する」と連絡しておいた、守山の彼の個人山行へ何とか早く帰れて参加できた。

登る山は、近江百山の一つに数えられている阿星山。この日、参加した3人の女性達は、近隣の有名な山ばかりでなく、アルプスや東北の山をも数多く登っているのに、阿星山は初めてと言うから驚くしかない。阿星山は、関西の三角点マニアにとって見逃すことのできない2等三角点の山であるが、三角点に関心のない3人には、林道が奥までのびていてハイキングコース化している阿星山など、登る気がしなかったのかも知れない。こんな山でも、コースを選べば十分楽しめる

のに。

阿星山は栗東市と石部・甲西・信楽町に跨がる山である。奈良時代にはこの山腹に阿星寺が山岳宗教の道場として建立され、甲賀路の仏教文化の中心地だったという。当初は二十四もの伽藍が立ち並んだとあるが、織田信長が天下をとった時代に、多くの伽藍が消失し、現在残っているのは常楽寺と長寿寺の二寺だけ。

JR京都駅8時59分発の快速電車で野洲駅へ。何輛目に乗るか打ち合わせていなかったたので、京都駅からいっしょに座ったのは向日市の彼女とその孫だけ。野洲駅では湖東の山歩きではいつもお世話になる守山の彼が待っていた。参加するの



阿星山三角点

は彼の山行のレギュラーメンバーである大宮・高槻市・向日市の彼女とその孫、それに私の計6名。いつも参加する吹田の彼女は、どうしても外せぬ用事ができたとかで姿を見せていない。山へ登るなら何とか都合をつけて参加するのに、珍しいこともあるものである。

野洲のスーパーで昼の食材を購入し、石部へ走り、常楽寺の駐車場へ車を置く。

常楽寺は湖南三山の一寺で、近江西国観音霊場の第一番の札所に当たっている。寺には南北朝時代の本堂と室町時代の三重塔が残っていて、国宝・重要文化財に指定されている。駐車場横の梅林には紅白の梅が咲いており、足元にはオオイヌノフグリが満開。

準備を整えると、10時35分の出発となった。守山の彼が町内の役に選ばれ、「18時から始まる役員会に出席するので、夕方16時にはここへ戻りたい」と言っているに任せては、遅すぎる出発であった。常楽寺門前から西教寺の前を通り、道

なりに東へ向かう。舗装路を15分も歩き、広野川を渡った所からグラウンドの脇を南へ向かうと長寿寺境内。鎌倉時代の本堂と室町時代の弁天堂を今に残している重要文化財の寺である。この長寿寺は、常楽寺が西寺と呼ばれるのに対し、東寺と呼ばれるという。この二寺いずれも僧良弁の開基といわれ、山岳宗教から天台宗に変わった寺である。境内には大きな石造りの宝塔が立っている。

長寿寺前の駐車場から南へのびる林道に入る。通常阿星山へ登るには、東へ舗装路を歩いて阿星山登山口に向かうが、



阿星山付近略図

この日は古い登山道を歩こうというものであった。300弱もゆるく登ると林道は二分するが、右の林道を登る。浅い谷を渡って低い尾根を越え、谷にそった林道を通る。あたりは杉や檜の林が続く。林道にはササが覆いかぶさっている。左からくる二つ目の谷を越えて、南にある尾根を捲いて登ると、谷の右下に二つ目の新しい堰堤を見る。尾根を左に捲くと、道下に軽自動車がかぶって落ちて落ちている。この林道をくぐって来て道幅の狭い所ですり落ちたに違いない。こんな林道を車でくだる人の気が知れない。その先で林道は二つ目の谷を通るが、溜め池を見るとやがては長寿寺からきた舗装路に合う。その道を150弱も歩き、林道が右に曲がる地点で左の地道へ入ると大きな溜め池。その池の南上の林道に駐車場がつくられている。ここが阿星山への登山口である。

右の林道を3分も歩くと阿星山への取付口。「山頂まで40分」の標識があり、ここから山道が始まる。このルートは石部町のハイキングコースになっていて、登山者のために木で土留めした階段が築かれているが、歩幅に合わない階段は足



阿星山山頂にて（同行の5人）

後に記念の写真を撮ろうと三角点の後に並ぶが、1人だけ姿が見えない。何と向日市の彼女は必死になって壁塗り工事中。いくつになっても女の方は、顔の崩れが気になるものようだ。

14時50分、いつもより速くバックキングして下山開始。下の東屋の先から西の尾根をくだる。尾根が北へ向かうと、斜面はブナとコナラの混じった松林に変わる。その木々の間に立つ植林された槍の若木保護の黄色いビニール筒が、林と斜面に美しいコントラストをかもしていた。

に負担をかけるだけ、できるだけ階段を歩かないように登る。

尾根にのると槍の林。ゆるく登って急坂にかかると、両側に雑木林が目立ちます。先頭を守山の彼が登り、そのすぐ後を身の軽い孫が歩くが、たちまち2人と後続との間が空いてしまふ。4人はマイペースで後からゆっくりと登る。登り始めて5分も経たないのに、「山頂まで25分」の標識を見る。そんなに速く登っていないのにどうもおかしい。急坂にかかり息が切れ始めると一ツ目の休憩所。ベンチで2人が待っていてくれたが、足元にあるフキノトウには誰も気づいていない。早速、昼の具の足しにと摘む。

急な階段を上ると右手に東屋があり、さらに登ると正面に大岩が見えてきた。道は大岩から左の斜面を横切り、浅い谷を登っていく。あたりには太い杉が何本も立ち並んでいる。谷から急坂を登り尾根にのると、「展望の峰」への分岐。せつかくだからとザックを置いて、尾根の展望台まで足を運ぶ。そこにも東屋が建っている。尾根の先端へ立つと、西から北への展望が広がっている。左手には鶏冠山から白石峰、竜王山のある金勝アルプ

スが横たわり、その奥には音羽山から比叡山、その間には愛宕山が見え、さらに右手には雪を被った蓬萊山、武奈ヶ岳、蛇ヶ峰が横たわっている。遠くに雪の湖北武奈ヶ嶽、三重嶽、大谷山、湖北乗鞍岳の姿が、琵琶湖面上に白く浮き上がっていた。眼下には野洲の平野が広がり、三上山が湖上に浮かぶ島のように見えている。まさにパノラマを見るような光景だった。

「山頂まで10分」の標識を見て、左傾右斜面ミズナラ・ブナの林の尾根を登り、東屋から左へ急勾配の階段を登ると阿星山山頂。12時35分の到着だった。4年前、1人でこの山へ登った時には、山頂の西に大きなパラボラアンテナが二基立っていて、人工の物だけに不気味な感じに映われたが、この4年間にアンテナ塔は南の峰に移設され、明るい山頂へと変わっている。東から北にかけては杉の林に遮られているが、西方の展望は開け、鷲峰山、太神山、矢筈ヶ岳の姿もクッキリと見ることができた。

三角点は山頂広場の南西に頭だけを出して埋められている。点名「阿星山」で、標高は693・1m。2等三角点である。

そんな尾根をくだって行くと、やがて切り開かれた場所へと出た。そこにはバンガロー風の小屋が建てていたが、何のためものかはわからない。そこから林道をくだり、丸塚の鞍部に着いたのは15時35分。守山の彼にはもう時間が無かった。当然林道をくだると思っていたのに、「丸塚へ登る」と言います。頂上には展望広場しかないで登るのは止め、4人が登って戻る間、2人はフキノトウを探して時を費やす。

4人が戻ったので、これでこの日の山行も林道くんだりで終了かと思ったら、今度は「すぐ西にある4等三角点を踏んでからくだる」と彼は言う。帰る時間は全く念頭にないようだ。鞍部から道無き急斜面に取り付く。わずかに標高差50m程度の登りだったが、「フウフウ、ヘアヘア」。やっとの思いで登った尾根を西へ1000mも歩くと、4等三角点が埋められている。標高479・0mで、点名「観音寺」。初めて訪れた三角点だったが、残念なことにはフィルム切れ。三角点の写りは残せなかった。

ここからの下りは北西へ境界尾根をたどる。雑木の尾根にはかすかな踏み跡も

10m程掘って確認してみると、標石は北向きで、10度東へ振っている。広場の東側には「登頂のよろこびここにあり」山は人の心を知っている。吠えもするし荒れもする。又笑う日もある。いくら低い山とて油断禁物」と書かれた石部町観光協会の立て札がある。ハイキングコースになっており、山をよく知らない人も登ってくるので、その配慮から立てられたのだろう。

この山頂で遅い昼食とする。まず買ってきた白菜・豆腐・タラを入れて、我が家通例の湯豆腐鍋。それに摘んできたフキノトウを入れると、苦みが利いて実においしい。守山の彼は焼き鳥に余念がない。もう一つのバーナーではウルメイワシの焼き物だ。それを肴に、飲んで食べの至福のひとつ。その合間に鯖寿司をほおばる。最後はブタとシメジにホウレン草の入った肉うどんで締めくくる。おかげで持ってきた握り飯には全く手をつけぬまま。この日、守山の彼は町内の役員会があると聞いていたのに、いつもと同じで、全く時間を気にする様子はない。時はすでに14時30分を過ぎていたので下山を促し、宴の店仕舞いとす。最

残っていて、誰が付けたのか所どころにテープも巻かれている。二ヶ所程尾根を乗り換えるのに難しい箇所があったが、先頭の守山の彼は、何回かこのルートで歩いているようで、地形図も見ずにくだって行く。この尾根を初めて歩く私はいえ、尾根分岐に来るたびに地形図で現在地と方向を確認しながらのくだりだった。30分もくだると溜め池に出て、その横の道をくだって林道へ出た。

常楽寺の駐車場には16時45分に帰着。車に乗る前に、各自のザックの中の食料の整理をして、予定時間を1時間遅れて野洲駅へ向かう。駅へは17時30分の到着だった。

あの時間に帰って役員会に間に合ったのが気になって、翌日に電話すると、「ギリギリに間に合った」と言ったのでひと安心。（平成17年3月21日歩く）

▲コースタイム▼

- 常楽寺駐車場（20分）長寿寺（40分）林道登山口（40分）展望台（15分）阿星山（45分）丸塚鞍部（15分）点名観音寺（45分）常楽寺駐車場
- △地形図▽2万5千Ⅱ三雲

多賀大社を訪ねて

松永恵一

多賀大社

「お伊勢まいらば お多賀へまいれ
お伊勢お多賀の 子でござる」
滋賀県大上郡多賀町に鎮座する多賀大社は、伊邪那岐大神と伊邪那美大神の二柱の神様を祀る。この夫婦の神様は偲語で語られるように、伊勢の神宮の天照大神の御親神である。

「伊邪那岐大神は淡海の多賀に坐す」と「古事記」は記した。社伝は、神代の昔、伊邪那岐大神は本社東方の杉坂山に降臨され、麓の栗栖の里でお休みの後、多賀にお鎮まりになったと言う。江戸時代の初めに御鎮座にまつわる縁起や伝承をまとめた『多賀大社儀軌』という古書がある。その一節「神木之事」は、「伊

勢、南北朝の武將で奇抜で派手な「ばさら大名」として知られる佐々木道誓は、手厚く保護した。室町時代には神仏習合が進んだ。神事にも参加するようになった。社僧は坊人と呼ばれ、諸國の檀家に多賀大社のお札を配り神徳を広めた。天秤樺一本に高い品を担いで全国を歩いた近江商人もまた、多賀信仰を伝えた。各地に多賀の神が勧請されていた。

延命長寿・縁結びの神「お多賀さん」を、南北朝の武將で奇抜で派手な「ばさら大名」として知られる佐々木道誓は、手厚く保護した。室町時代には神仏習合が進んだ。神事にも参加するようになった。社僧は坊人と呼ばれ、諸國の檀家に多賀大社のお札を配り神徳を広めた。天秤樺一本に高い品を担いで全国を歩いた近江商人もまた、多賀信仰を伝えた。各地に多賀の神が勧請されていた。

多賀大社



近世には伊勢・熊野と並び庶民の参詣が盛んに行われた。「お伊勢まいらばお多賀へまいれ」と参詣を誘致し、「お伊勢七度 熊野へ三度 お多賀さまへは月詣り」と歌いはやされ盛んに宣伝を行い、「お多賀さん」信仰が拡大されていった。信者団体の多賀講は創設500年の歴史を誇り、年間200万人が訪れる。

多賀大社の御祭神

この世界がどのようにして生まれたか、「古事記」は記す。天地開闢の時、高天原に別天津神五柱の神が生まれた。次に神世七代に当たる十二柱の神々が次々と生まれた。最後に生まれたのが御祭神の伊邪那岐・伊邪那美二柱の大神である。「いざ」は「誘う」の意で、「ぎ」は男性、「み」は女性を表す。

天津神は二柱の神に、「この深へる國を修理り固め成せ」と詔した。地上に降り立ち夫婦の道をひらき、淡路島を筆頭に本州・四国・九州等の島々、石・水・野など自然界すべてをお生みになられた。最後に生んだ火の神のために伊邪那美大神は陰部に火傷を負って亡くなってしまった。伊邪那岐大神は逢いたくて葬られた黄泉国に行くが、腐敗し蛆がたかる伊邪那美大神を見て恐ろしくなって逃げだす。地上との境の黄泉比良坂で別れの言葉を掛けあう。黄泉国の穢れを落とすために筑紫の日向で禊を行うと様々な神が生まれ、最後に天照大神・月読尊・素戔鳴尊の三貴子が生まれた。それぞれに高天原・夜之食國・海原の統治を命じた。

「壽命石」と重源上人

後醍醐天皇重源上人の長寿祈願の話が伝わる。重源は醍醐寺で出家得度。四国や大和の霊地で厳しい修行をし、また入宋一度という。東大寺は治承四年(1180)、平重衡の南都焼き討ちによって灰燼に帰した。復興には財政的、技術的に多大な困難があった。後白河法皇により上人が総責任者「造東大寺大勧進職」に起用されたのは61歳の時。到底大業の成就是覚東ないと寿命安泰を伊勢の大神に祈願した。大神は多賀神と告げた。多賀に参籠した。満願の暁、「神殿より一葉風」に吹かれて上人の前に来る。取って見給うに「盤」という文字虫食いにありけり。盤という文字は二十延と書く。さては我六旬(60歳)に及ぶといえども、自今以後二十年の寿命をあたえ給うよと、歓喜の思いをなし」と、『多賀大社儀軌』は記している。諸國をあまねく勧進し、縦横の働きによって、建久六年(1195)3月、めでたく大仏殿の落慶供養を営み、重ねて報恩謝徳の参詣をした。社頭の「壽命石」は上人が笈をおろされた所と伝える。86歳で入寂するまで、ひとすじに復興に邁進された。

お多賀杓子

お多賀杓子は、授与所で授与される延命長寿のお守り。袋の裏に記された説明。「養老の昔 時の天皇がご病氣のときご平癒のご祈願を申し上げ 強飯をたき 神木で杓子をつくりしこれに添えて差し上げましたところ、みしるしあらたかにまもなく御回復になられました。このめでたい故事をゆかりとして、無病息災延命長寿をねがうお多賀まいりの人たちだれもが、お食事毎に尊い御神徳をお受けになっています」。

養老の昔とは、元正天皇の養老年中(717~723)のこと。多賀と高宮を結ぶ旧道筋に、飯盛木と呼ばれる二本のケヤキの大木がある。杓子をつくった木の枝を地に挿したところ根が生じたという。かつては12本あったといわれる。南方が男飯盛木。幹周り6・32寸、樹高15尺。北方が女飯盛木。幹周り9・75寸、樹高15尺、滋賀県一番目の大きさを誇る。樹齡はともに三百年以上といわれている。

平成7年11月に多賀町の天然記念物、平成10年3月に滋賀県の自然記念物に指定されている。



殿が建つ。東廻廊の横に重源上人ゆかりの寿命石。大鳥居・太閤橋・神門・拝殿と一直線に連なる配置が心憎い。
 大正三年(1914)多賀大社は官幣大社に昇格した。明治初年の神仏分離令で、別当寺の不動院・観音院などの堂塔が撤去され、統一を欠いたままだった境内が整備されることになった。結束力の固さで知られる大社の講員の募金活動が全国に展開され、今日見る整然としたたずまいが整備された。現在、本殿以下諸殿舎の御屋根の葺き替えを中心とした平

成の大造営が進められている。
 二拝二拍手一拜。奥書院・奥書院庭園を拝観する。拝殿の左にある受付所から入る。奥書院はかつての不動院の建物。豪華で華麗な鶴の間。床の間の富士の山麓で舞う鶴。狩野派絵師の作といわれる。奥書院北側に広がる池泉鑑賞式庭園は、安土桃山時代の作庭で国指定の名勝。豊臣秀吉が母大政所の病氣快癒・延命を祈願して奉納した一万石によって、太閤橋、太閤蔵とともに築造されたと伝わる。東北に築山を設け、樹木を背景に正面奥に不動三尊石を組む。池には、鶴島・亀島と隅に流れ滝を配している。滝の下に豪壮な石橋を渡している。
 太閤蔵の横に鐘楼が残る。天文二四年(1555)に建造された全国屈指の梵鐘がある。鐘に刻まれた寄進者に浅井長政の幼名「浅井猿夜叉」が見える。
 絵馬殿隣のそば舎の寿命そばは、そばのように長くツルツルと弾力があり、歯切れのよい長寿を願う大社の味。授与所で延命のご利益があるという「お多賀杓子」、蓮子柏葉の神紋に包装された「延寿おこし」を購入する。しばらくたて原酒「お多賀まいり」をザックに入れて、井

原西鶴が「江州多賀大明神に参り…此神は寿命神なれば…」と記した多賀大社を後にした。携帯に手をやると「恋まもり」がキラッと光った。
 多賀大社は初詣で一年の幕が開く。1月3日の翁始式。2月の節分祭。春4月22日の多賀祭(古例大祭)は、鎌倉時代からの伝統を今に伝える華麗なもの。40頭の騎馬行列と400名の供奉者が参列する。6月第一日曜日は御田植祭。江州米の産地のおでやかな田舞の奉納。8月3〜5日は万灯祭。円筒形の御神灯が夜の多賀大社を埋め尽くし、シンセサイザーの大音響が境内を揺るがす。湖国の夏の風物詩。黄泉の国に移られた伊邪那美大神に献灯を捧げるお祭り。
▲コース▼
 近江鉄道多賀大社前駅(10分) 多賀大社
 ▲地形図V2万5千11高宮
▲費用▼
 奥書院・奥書院庭園観覧料 2000円
 (問い合わせ先)
 多賀大社 ☎0749(48) 11001
 近江鉄道鉄道部 ☎0749(22) 33003



神門から太閤橋を望む

コース概観
 延命長寿と縁結びの神として知られる「お多賀さん」は、聖者とした森のなかに鎮座する。昭和の代表建築といわれる多賀大社。「壽」の焼き印で知られるお多賀杓子、赤と緑の細線が美しい糸切餅、門前町の町並、「お多賀さまへは月語り」に誘われて、一度は参らねば……と、二輛編成の小さい電車「ガチャコン」に揺られて出かけてみた。

彦根から近江鉄道本線に乗り高宮で多賀線に乗り換え、多賀大社前駅下車。駅舎はコミュニティハウスとして待合室や写真の展示などにも利用されている。駅前に大鳥居が歓迎アーチのようにそびえる。鳥居をくぐる。多賀門前町商店街、通称「絵馬通り」に突き当たる。商光繁盛の絵馬にあやかって地元商店街の活性化をめざして、新しく名付けられた。
 突き当たり右手が寿屋。「千代結び」は鮮やかな紅白の包み紙につつまれている。縁結びの神様にちなんで、細長い求肥を結び、千代に八千代にと願った菓子。まぶされたきな粉が香ばしい。
 右に行き、名神高速の下を行くと畑のなかに男飯盛木が、左手少し先のキリンビール工場の手前に女飯盛木が見える。西に続く彦根市高宮町は中山道六十九次の64番目の宿場町。多賀大社一の鳥居、江戸時代の面影が往時を物語る。
 左に行くと多賀大社。絵馬通りの街路灯が設置されている。絵馬館の一階はティールーム。地元アーティストによる手芸品・工芸品等の展示・販売、観光ガイドなどが行われている。
 元禄二年(1689)創業のかぎ楼は

朱色の壁面。木造三階建のどっしりとした風格のある料理旅館。国の登録有形文化財。三階の喫茶室でコーヒーを楽しむながら門前町の町並を見渡すことができる。切り妻造り、平入り、中二階建、棧瓦葺、虫籠窓の家並。
 土産物屋の呼び込みが聞こえると、多賀大社の鳥居前。湯煙りを吹き出しているお多賀さん名物「糸切餅」。昔ながらのわら葺屋根の建屋。しゃもじの看板のお多賀。米粉とこしあんのでつくられた生菓子。糸切餅の赤緑三筋の線は元寇の役の蒙古軍の旗印。刃物を使わず三味線の糸で悪霊を断ち切る、平和の餅。美しく素朴な味で、一服して鳥居をくぐる。
 清流に囲まれた神域。奉納された灯籠。石の反り橋は太閤橋。秀吉の多賀信仰をかいま見る。槍皮葺の神門に入る。掃き清められた玉砂利。清々しい厳かな雰囲気漂う壮麗な社頭風景が展開する。右に神馬舎、能舞殿。左に手水舎、絵馬殿。常緑樹の神の森を背に、音楽を奏でるように美しい社殿。堂々とした風格をもつ入母屋造りの拝殿、左右に廻廊があたかも鳥が翼を広げたようにのびる。後ろに幣殿、神楽殿、千木をのせた流造りの本

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑩

冠着山(姨捨山)

西尾 寿一

松本平から信州善光寺へ至る道筋に修那羅峠がある。おそらく、上方(京畿)の古代勢力が松本平(安曇野)に至り、さらに北方に向かう過程で猿ヶ馬場峠・一本松峠・四十八曲峠などと共に、必ず通過しなければならぬ峠だった。

この峠付近の地形と地名の多岐、古さ、歴史の重厚さは、現地を見れば一目瞭然ではあるが、そこから生じた伝承・伝説の奇怪さは今日でも驚くべき内容を秘めている。地図に「冠着山」とあり、カッコ付で「姨捨山」とある山こそ謎の舞台装置である。

この山の原初の名はもっと土俗的なものだったはずで、冠着の名はすでに何らかの形で当時の知識層の関与が感じられる。まず「冠着」の伝説・伝承、次いで文人墨客の名所、第三に「姨捨伝説」と続くが、信州のこの一角にこれだけ多く

の伝承が残されているのは、やはりただものでなく、各方面からの関与が時代を超えて継続した証明でもある。東海道の箱根・逢坂山、中山道の鳥居峠・馬籠峠、北国街道の木ノ芽峠などのほか、今は忘れられたような神坂峠といった古相の峠は、旅人の汗と苦勞が浸み込んでいるようだ。

推察するに「冠着」と「姨捨」とは全く別々の由来をもつようだ。前者は伝説で「天の岩戸を背負った天手力男命がこの山で休み、冠をただした」ことによると、どの本にも書いてあるが理解の外である。民俗学的理解をするならば、古代勢力が西から北へ進出する過程でこの地を意識して利用したため、多数の地名を残す結果となったと考えられる。

その意味では、後の俳諧人たちによる「田毎の月」など棚田に映る月を詠む行為は、峠道を利用した意味では同一の要因をもつが、古代人の先駆的な野生とは全く時代背景が異なり、生産者と消費者の差を感じずにはられない。

先の伝説では、峠付近で、ある意志をもってさらに北へ向かうに際し、天手力男命でなくても誰もが一服して想いを巡るかの疑問は残る。

その後、旅の俳人・連歌師など「文人墨客」の興味の示すところとなり、多くの歌が詠まれ、松尾芭蕉の「更科姨捨」となる。先年、このときの「更科姨捨月之弁」が二百三十年ぶりに京都の古物商が見つかった、という。「佛は姥ひとり泣月の友」など二句があり、貞享五年とあった。

時代を遡ると定家の「三芳野や姨捨の山の春秋もひとつにかすむゆきの曙」があるが、これは大峯山の笠捨山であるという。姨捨伝承は信州に限ったことではないのである。「山家集」で西行は「をばすての嶺と申所の見わたされて、おもいなしやに月ごとに見えければ、

姨捨はしなのならねといづくにも 月すむ峯の名にこそ有けれ」と詠んだ。能で世阿弥作といわれる「姨捨」は老女主題の仏教説話的劇詩として発展させたが、姥捨の生々しさは深沢七郎の「楳山節考」につける。何度も映画化されるなど根強い支持があるのは、単なる物語を超えた民族意識の底流にひそむ過去の記憶が呼び起こされるからかも知れない。

らすはずだし、身形を正すに違いないので、この伝説を否定も肯定もできない。地元の採名も有名な伝説から一步も出ないから降参するしかないが、あえてしつこくねばってみるとすれば、次のようなものが考えられる。

- A 冠を岩に見立てる
- B 蕪(カブラ)または蕪木(カブラギ)
- C 蕪(カブラ)またはカブラキ
- D 頭(カブリ)またはカウブリ
- E 秀(カムロ)またはカプロ
- F 被(カブル)コウムル
- G 傾(カブク)カタク(カタクク)

以上、辞典の類を総動員して関連語を抽出してみたが、カブは蕪(カブ)のように植物の球根状であり、これが発展して蕪(カブラ)などとなり、頭に被る冠や帽子のようなものになる。この語源は球形のものに由来するようだ。ただGの「傾」は現代語でカタククで傾斜を意味するが、現地に合っているともしないとも言いようがない。

広く解釈すれば、実態の形状を球形もしくは球を半切にした形状に求めたように感じられる。次にサブネームとして「姨捨山」があ

るが、別に「姥捨」もみられる。この違いは「字通(白川静)によると、前者が妻の同母姉妹あるいは父の妾、女同志の呼称であるのに対し、後者は女性プラス老齢といい、老いたる一般女性をいう。このほかに公姥・山姥・苺姥・酒姥・石姥とあって、一部は現代においてとて使用不可能なものまである。

老いたる女性になぜかくもおそろしげな表現が用いられたのだろうか。阿達ヶ原の山姥の例でもて化物(かぶつ)であって、これは深層心理において男の懺悔がかくされている。現代流にいえば女を男と同等に見てこなかった罪の多きに、老いて醜い姿をさらけ出すことで反撃に出られて狼狽する男の姿の反映でもある。いちおう姨・姥の問題は不問として次に進む。

姨捨伝説の文献上の初出は「古今集」巻十七・雑歌上八七八の「わが心なくさめかねてさらしなやをばすて山に照る月をみて(説人不知)とされる。その後、続く「大和物語」や「今昔物語集」「俊頼傳説」などによって地名伝説が加わる。姨捨山は、元は冠山であるとするとくんだり、後になって山名一論となる源となった。が、異なる二山の名が同一の山であ

（地名風土記）という。従って姨捨の伝承は架空のもので、史実ではないとされている。

実は姨捨伝説の骨格を成す原理的なものは世界中に残っている。貧しい民族の伝説・伝承のなかに、働けなくなった老人や子供の口べらしをするとはかなり知られたことであった。そのような事実と、伝説として流布することとは区別しなくてはならない。

事実のほうは秘密のうちに闇に埋もれてゆくが、伝説のほうに興味を示す人々のうちに事の実態を超えて各地へ転移してゆくものだ。

この場合も、この地方（信濃）に姨捨が行なわれたかどうかではなく、伝説の移動が起きたと考えたい。どこか遠い世に徹しい干魃が起き、やむなく口べらしの行為があったことが、いったん都へ伝わったのち月日を経て思い出されたように再配信されたのではないか。

『古今集』のような仏教説話の好む題材であったのかも知れないが、奇抜な事柄を好む都の徒にありがちなことである。

柳田國男は、この件を「吉野の峯から蔵王権現を勧請したもの（中略）更に一

〈山のレポート〉

勇氣ある心優しい若者の死

ツァイツ・リーベンネン(チレン)

(もう一度、「日本人青年」)

今井 淑雄

台湾では夏も近い3月27日から31日にかけて、東アジア最高峰・玉山（日本名：新高山、標高3952m）登頂後、八通関小屋から親高温泉へ3泊4日の命からがらの山行をした。玉山主峰から北峰にかけて残る雪渓をトラバース中に滑落し負傷した台湾人男性を、その後も続く危険なガレ場越えも終始保護し、パーティ全体にはかの被害も蒙らせず、ゴールに導く絶大な助力をなした日本人青年がいた。

彼は札幌出身の後藤康宏君。大学卒業、後好きな登山のために数年アルバイトで稼ぎ、そのお金で先ず台湾・玉山にと石垣島から船で基隆港に着いたと。

それは平成10年のことで、本誌「関西版41号」に投稿した。

歩を進めて考えてみると、日本に一つかと思った姨捨と言う山の名が、この大和の霊山の名所の中にもある謂ふのは、或は猶老いたる女性とその子との不可思議な関係が、假に棄老伝説の唐模様の衣裳を着て、信濃の更科にも出現した原因であって地名の眞の由来に至っては、これから更にたずねてみなければならぬのかも知れぬ」とあって、吉田東伍説に疑問符をつけている。

さらに「吉田博士の地名辞書に、ラバステはラハツセ（小長谷）の誤で、初瀬の観音の関係から出た名だろうとあるのは、少し大膽に失した断定である」（以上、史料としての伝説・定本柳田國男集による）

こうしてみると、吉田東伍・池田末則両氏の小長谷説は柳田國男によって疑問が投げられていたことになる。

小長谷説は見事な分析力の結果には違いないが、他に有力な説の出ないまま通説となりつつあるが、さらなる検証の努力は必要である。

東北地方のたび重なる飢饉による口べらしや、南西諸島の人頭税に対する庶民の抵抗などに姨捨伝説の案がある。奇を好む都人の興味が書物の上で発露させた

平成11年11月、思いもよらぬ訃報がお母上から届いた。

「喪中につき……康宏（三男）が永眠しました」。そこに「ヒマラヤで」とペンで加筆して。

玉山登山では彼がいなければ、パーティ全員の無事下山はなかったかも知。私達には命の恩人と言っても言いすぎではない彼の死。移動する時は、親元には必ず電話で記録と予定を報告すると言っていた。親孝行の彼の死。悲しみに襲われた私は、お母上に文せずにはおれなかった。

「お葉書き頂戴しました。無性に悲しくて涙があふれ、嗚咽せずにはおれませんでした。」

昨年3月、玉山登頂を目的に沖縄から入国。たまたま同一パーティになり登頂することになりましたが、その節は私の職員（台湾の人）がお助け頂いたのは投稿文の通りです。台北を離れたら、イリヤンジャヤを登ると言っていたと思いましたが、彼から送られてきた玉山の写真と手紙はバンコックからでした。それは

傾向はあるものの、遠野における「デンデラノ」伝承は実在しており（地名が現存する）、この習俗との合体も視野に入れておくべきかも知れない。

姨捨山は、伝説によって知名度の高い山となったが、登山には平凡な山である。「田毎の月」も今でいう棚田であるが、もっと大規模なものは全国に散在している。

小生は、「坂城」國福の山に10階程登っているが、おもしろい山もたくさんある。なかでも興味深かったのは修那羅羅峠で、この峠こそ歴史の重みを現代に伝えるものだろう。

結論として言えるのは、実在する「姨捨山」は伝説・伝承とは関係がないと考えるのが妥当であるが、それによって姨捨と称される事象が全く存在しなかったことにはならない。実態があったからこそ、伝承が生じ伝説となったのであり、その奇態が当時の巷で興味をもたれたことによって特定の山や地域に「姨捨山」が誕生した、とみるべきと考える。伝説が当時のマスコミによって各地に飛び火していったのである。同様のことは現代でも続いている。

確か昨年夏頃のことでした。

息子さんはあのままズ〜と帰国せずだったのでしようか。ヒマラヤはさぞかし寒かったでしょうね、一人で寂しかったでしょうね。可愛そうに。ご子息と同年代の息子を持っているだけに、ご両親の悲しさ、苦しい思いの僅かでもかかないでしようが、よく分かる気がします。

康宏様のお心安らげくと祈りながらペンを置きます。合掌。」

年があけて平成12年1月、お母上から詳細な行動を記したお手紙を頂いた。旅券も発見できていないのに記せたのは、息子がした電話を、親も克明に書き留めていたからだろう。

「拝復 お手紙ありがとうございます

台湾地震の際のお見舞いも申し上げず失礼致しまして。北海道でも連日報道しており心を痛めておりました。その後いかがでしょうか。一日も早い復興を心からお祈りしております。

康宏の台湾を出国してからの行動
98年4月2日、台北から香港に入国

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 第1回 おへんろを知る歩行の苦惱旅 | (第1～23番) |
| 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 | (第24～36番) |
| 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 | (第37～40番) |
| 第4回 紅葉を楽しみ、歩行を見直す旅 | (第41～59番) |
| 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 | (第60～83番) |
| 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 | (第84～88番と高野山) |

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。四国遍路を発心されるよう念願しています。

●振替でのご注文は送料当社負担
振替00130-9-146915

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110



4月5日、香港から中国本土に入り広州
―桂林―昆明―景洪を経て
5月1日、中国より陸路ラオスに入る
5月14日、ラオスからタイに入国。北部
の遺跡を巡り南に移動してコータオ島で
スキューバダイビングをする
5月29日、タイからミャンマーに日帰り
6月22日、タイからマレーシアに入国
7月2日、マレーシアからインドネシア
に入国カルストン、ピラミッド山(48
84m)登山に向かうが諸々の事情によ
り断念する
7月12日、満27歳となる
8月30日、インドネシアからマレーシア
に入国
9月2日、マレーシアからシンガポール
に入国。(その後インドネシアに移り)マ
ナドと言う町でスキューバダイビングの
資格を取得する
9月19日、インドネシアからシンガポー
ルに入国
9月20日、シンガポールからマレーシア
に入国。ペナン島に寄る
9月23日、マレーシアからタイに入国。
バンコックに一週間滞在
9月29日、バンコックからバンダラデッ

シュヘ。ダッカ一泊
9月30日、ダッカからネパールのカトマ
ンドウに入る
10月9日まで休養と登山準備。
夜9時19分「明日から入山する。一月
ほど連絡できない」と電話があった。こ
の電話が母との最後の会話となった。
入山
ロブジをピークハントのため10月10日
カトマンドウからジリまでバスで行き、
ここから出発した。ポーター一人を連れ
て、しかし彼の怪我等で人が変わる。10
月18日からはクンマー・タマングとい
うポーターと行動を共にする。
彼の話では、10月23・24日、ゴーク
ピークに登りシッララ峠上部(6013
m)でキャンプ設置後、彼はタクマ村に
下りた。その時彼は、翌日はキャンプに
戻り荷物を持ってログジュ村に行きテ
ントを張って待っているとも話した。夜
になるのでライトを点けていると言った。
彼は全てをやって、ライトを点けて待
ったが、後藤は来なかった。26日夜まで待
っても帰らないので、20時15分、カトマン
ドウのノマド・ネパール・トレックに

「後藤が帰らない、行方不明」と連絡し
た。
捜索について
27日、ノマド・ネパール・トレックの
ミスター・グワがヘリを飛ばそうとした
が、アキがなく、28日から捜索が始まり
30日まで第一次、11月3日から14日まで
第二次捜索が行われましたが、見つかる
ことができませんでした。
多くの方々の献身的な捜索、友人知人
等のご協力を得られました事を、家族一
同満足しております。
一周忌も終わり少しづつもの生活に
戻りつつあります。長々と書きましたが、
乱筆乱文をお許しください。
皆様のおすすめのこの健勝をお祈りいた
しております。 敬具
何度か投稿しようとしたのですが、その
度に胸がつまり実行できませんでした。
彼の死後、ほぼ8年がすぎました。
合掌
(平成18年10月8日脱稿)

(里山シリーズ37 敦賀)
 湾を懐く対峙する二つの山
 みうちやま てぶつ
三内山・天筒山
 一般コース(★)
 長宗 清司

三内山へ

JR敦賀駅からバスに乗り、松葉町で下車、永大町の清掃センターまで歩く。センター裏の、取り付きやすい所からあっさり尾根にのる。このあたりから西への1.0四方は、4年以上前にレジャー施設をつくる予定だったとかで道が残っていた。だが今では、マツの多い林床はすでに自然に戻り、灌木が生い繁っている。

△181・6材(4等点)の標石は、鉄骨材と化した廃屋の裏手の小高い所にある。236あたりに来ると、まるで白砂青松の庭園である。花崗岩の粗砂が広がるなかに、盆栽さながらに枝振りのよ

い背の低いマツが点在し、京都の名庭を彷彿とさせた。

天国から地獄へ。ここからは激しいやぶとなる。道は無く、尾根からはずれないように進むが、イバラの襲撃にタジタジ。隊列を乱さないようにそろりそろり。思わず立止まって見る樹間からは、敦賀湾や西方ヶ岳が望めた。

冬、雪が少なかつたために、灌木の繁りが激しく、獣たちは条件の良い所を歩くのだが人間様は大変。それでもその足跡をたどって尾根をぬうと、やがて電波反射板への広い巡視路に出た。周りにはオーレンが多く自生していた。

振り返ると、歩いて来た尾根筋や「氣比の松原」の弓なりの砂浜が望める。やがて、巡視路を歩く道すがら、敦賀の市街や大黒山、鉢伏山、ホノケ山まで、敦賀湾を挟んで大パノラマが広がる。

再び巡視路からはずれて、今度はブナの林に入った。こんなにも海に近い低山でブナに出会えて感激する。イノシシやニホンカモシカがブナの幹に体を擦りつけた痕が随所に見え、ここは動物の楽園で、我々が彼らのテリトリーにお邪魔していることに改めて気づかされる。



三内山・天筒山付近略図



三内山から敦賀湾を望む(氣比の松原と天筒山が見える)

今まで気づかなかったが、マンサクの花があちらこちらに咲いていて、春の訪れを告げていた。
 原区の「十三石仏」の前では3人の老女が日向ぼっこをしている。石仏はみな角が取れて時代を物語るている。
 平地になってしばらくして梅林に出た。酸っぱい香りに包まれ、朝からやぶ漕ぎをした身も心も癒された。あとは松葉町バス停から駅へ。

三内山のブナ林床



30分ほどで三内山(△521・6材)に着いた。眼下、左右振分けて若狭湾と敦賀湾を眺めながら昼食をとる。

帰路は、巡視路まで戻って、分岐点から南下。原区への道ははっきりしているが、傾斜がきつくと、階段が付いている。途中の鉄塔下からの眺めはまた素敵で、敦賀市街全景が一望でき、正面には野坂岳・芦原岳・乗鞍岳・岩龍山などが雪をまとって連なっている。

巡視路の登り口までくだり切って、異口同音に「ここから登るのはきついでスー……」

天筒山へ

JRの待ち時間に、バスで氣比神宮と金崎宮に詣で、その裏山の金ヶ崎城跡から天筒山城跡へと足をのびした。

金ヶ崎は、戦国時代、信長・秀吉・家康が勢揃いして戦ったためらしい場所である。

元亀元年(1570)4月、織田信長は越前の朝倉義景討伐の軍を起こして敦賀に進軍。天筒山城・金ヶ崎城を落とし、越前に攻め入ろうとした時、近江浅井氏裏切りの報により、信長は朝倉氏と浅井氏との間に挟まれ、窮地に陥り急遽退却。この時、金ヶ崎城に残り殿(しんがり)軍隊を引き上げる際、最後尾にあって追ってくる敵を防ぐことを務め、この難関を救ったのが木下藤吉郎(豊臣秀吉)で、その活躍によって無事、京へ帰り着くことができたと伝えられている。

また、南北朝時代、後醍醐天皇の命により、新田義貞が、尊良、恒良親王を奉じて北陸道に下向したが、足利軍の攻めに合い、金ヶ崎城は落城し、皆ごとく討死。捕えられた弟君(恒良親王)も毒殺されるという悲惨な歴史を生んだ地でもある。



天筒山山頂の展望塔より敦賀湾を望む

金崎宮の左脇口には、城跡を示す碑がある。このあたり一帯の平地が本丸跡といわれ、少し上った所が最高地(標高863)で「月見御殿」という。ここからの見晴らしがまた実にすばらしく、敦賀湾は無論のこと、対岸の蝶々岳、西方ヶ岳の美しい山脈がまるで鳥のように浮かんで見える。

月見御殿からは尾根伝いに天筒山へのやさしい遊歩道がある。山頂(△1771)・

3) 近くには展望塔が建ち、東に近江の山々が波のように美しく、特に印象に残った。

帰る時間を少し延長してでも、訪ねたい名勝地である。

三内山(平成15年2月23日歩く)
天筒山(平成14年10月12日歩く)

▲コースタイム▼

(三内山) JR敦賀駅(バス13分) 松葉町バス停(15分) 清掃センター裏(20分) 4等三角点(10分) 三内の白砂庭園(20分) 巡視路(15分) 反射板下(15分) 分岐点(30分) 三内山山頂(20分) 分岐点(30分) 登山口(15分) 西福寺前(20分) 松葉町バス停(バス13分) 敦賀駅(天筒山) JR敦賀駅(バス6分) 金崎宮口(10分) 金崎宮(15分) 月見御殿(40分) 天筒山展望塔(25分) 登山口(25分) 敦賀駅

△地形図√2万5千Ⅱ敦賀(問い合わせ先)

敦賀市役所(商工観光課)

0770(21) 11111

敦賀市観光協会 0770(22) 8167

敦賀タクシー 0770(23) 1414

——よもやま情報——

サービスエーソンの冬期プラン

志賀高原・ホテルむつみ

お風呂と料理とゲレンデアアクセスが自慢の高原ホテル。

平日1泊2食付7000円(通常7525円) 和室12畳トイレ付バス別。土曜1泊2食付8950円(通常9450円) 和室12畳トイレ付バス別(年末年始・連休は別料金。いずれも、2人1室は10500円アップ)。

和とイタリアンのコラボによる若女将の創作料理がポリウム・味ともに自慢です。名物 桜肉(馬)のお刺身盛り3人前3000円もオススメ。会員には生ビールまたはソフトドリンクを5階のスカイレストランで1杯サービス。

〒381-0401

長野県下高井郡山ノ内町平穂7149

志賀高原一の瀬

電話0269-34-2706

http://yamabito.com/mutsumi/

特選コースガイド②

南勢

伊勢の神峰

鼓ヶ岳

中級コース(★★)

松尾 一郎

伊勢内宮の西方に位置する鼓ヶ岳は、伊勢市のほぼ中央にあり、朝熊ヶ岳と共に伊勢市民なじみの深い山である。正月、伊勢詣でのついでに初登山を試みてはいかがだろうか。

鼓ヶ岳の山名の由来は、宮川と五十鈴川の二つの河川に挟まれた場所であり、両側が川(皮)に挟まれているのは鼓なので、鼓ヶ岳と称されたといわれる。

このコースは以前、鼓ヶ岳散策路として整備されたが、その後手入れがなされていない。コース上に道標はなく、登山路も途中不明瞭な箇所もあり、単独入山の場合は、下山路として案内する五本松(内宮)コースの往復をお勧めする。

登山口へは、近鉄宇治山田駅から三重交通バス内宮行きに乗り、蓮台寺バス停で下車する。蓮台寺バス停から北の伊勢自動車道ガード手前まで戻ってバス通りを渡り、伊勢自動車道に沿って左の道に入る。勢田川に架かる地金場橋を渡って、川の左岸沿いに上流(北方向)に向かって、民家の中の舗装路を行く。

前方を見やると左に鼓ヶ岳が、後方右奥には神路山が見える。コース途中から河川管理道(土道)が二回左岸沿いに分岐するが、どちらを通過しても先で合流する。しばらく行くと民家が途切れ、川沿いの林道に山が迫り、ユースホステル併設のオートキャンプ場「ひもろぎの里」に着く。夏場には多くのキャンパーたちで賑わう所だが、季節外れは静寂が支配するのみである。

ひもろぎの里の少し先で林道も終わり、尾根の山道に取り付く。羊歯の多い細い山道を上って行く。途中何ヶ所か判断に迷う箇所もあるが、所どころに赤・黄・白色のテープや布が木の枝に巻いてあるので、それらを確認しながら慎重に行けばよい。

このコースは上部に行くにしたがって、

ブナ・ミズナラ・タラヨウなどの大木が自生しており、赤茶色の木肌のヒメシャラの木も見られる。山域には貴重な野生ラン(採集厳禁)もあるといわれ、低山にしては植生が豊かである。汗をかきかき、思いのほか手強かったコースも、やっと稜線にたどり着く。可愛い道標が木に掛かっており、左は鼓ヶ岳へ、右へは養命の滝・前山への下山コース(注①)。

鼓ヶ岳山頂より北方を望む





五本松コースへの道標

そのすぐ下が木の鳥居が立ち並ぶ五本松神社(注②)の入口だ。右に簡素な鳥居群を滑り、水平道をしばらく行くと、この本尊である小さな祠の五本松神社(無人)に着く。入口まで戻り山道をくだって行くと、左手に大きな岩があり登ってみると、森に囲まれた伊勢内宮が見渡せる。くだると登山路は芝生状の広場に出る。広場の右奥には大きな石の記念碑があ



と案内してくれる。左(西)へゆるい登路を行くことしばしで、鼓ヶ岳(355・2m)に着く。鼓ヶ岳山頂は三等三角点の標石が埋まっており、その横には立派な木製の山名板が立っている。北側が広



五本松コースのヒメシャラの木

く刈り払ってあって、伊勢市街を眼下に、遠く伊勢湾まで見渡せる絶景の眺望である。鼓ヶ岳からの見晴らしを楽しんだら、下山は東へ五本松(内宮)コースをとる。途中道標も設置されており、登山路もしっかりしているので安心してくだれる。仮払いはされているが、上部は土を掘り返したような道でやや歩きづらい、足をとられないよう慎重にくだって行く。道標に従い分岐を右にとると、赤茶色の木肌をしたヒメシャラの大木が密生してあり、

り、その前を左へ舗装路をSカーブにくだって行くとバス通りになる(注③)。左に行けば、神宮会館前バス停で、三重交通バスで近鉄宇治山田駅に出られる。右に行けば伊勢内宮の入口宇治橋(五十鈴川)はすぐだ。また、下りた所の車道を渡れば、伊勢おかげ参り情緒たっぷりの「おかげ横丁・おはらい町」がすぐ近くにあり、時間があれば立ち寄ってみたい。(平成18年10月9日歩く)

Aコースタイム

近鉄宇治山田駅(バス10分) 蓮台寺バス停(登山口)(20分) ひもろぎの里(50分) 稜線(養命の滝分岐)(5分) 鼓ヶ岳(20分) 五本松神社(30分) 神宮会館前バス停(下山口)(バス14分) 近鉄宇治山田駅
 * 蓮台寺と鼓ヶ岳(蓮台寺コース。道標無し、登山道不明瞭な箇所あり)
 * 神宮会館前と鼓ヶ岳(五本松コース。道標は要所に設置、登山道おおむね良好)
 ^ 地形図V2万5千I伊勢
 (参考事項)
 ① 養命ノ流へのコースは、下山時五本松神社から一緒した地元の人(3人の

高齢者男性で鼓ヶ岳の表示板を立てたグループ)によると、道は一応歩けるがコース状態は、蓮台寺コースと同程度とのこと。ただし下山地の山前町には路線バスは通っていない。

② 鼓ヶ岳中腹の五本松神社は、古くは疫病より難を逃れる神として信仰を集めた。先の大戦では、「難を逃れ、命を守る」ということから、戦地に行った夫や息子の無事帰還を祈って、多くの人が鳥居を奉納した。寿命神としての信仰は、今も伊勢志摩の人々のなかに息づいているといわれる。

③ 神宮会館前バス停から鼓ヶ岳に登る場合は、車道を渡って歩道を南方向(乗ってきたバスの進路方向)にしばらく行き、白地に黒文字の「伊勢青少年研修センター」立看板のある所(道標無し)を右に入り、そのまま舗装路S字カーブの坂道を登り切ると、本文の記念碑前の広場に出る。広場を右に行くと鼓ヶ岳(五本松コース)の登山口だ。

(問い合わせ先)

三重交通バス ☎0596(25)7131
 三交タクシー ☎0596(28)2151
 近鉄タクシー ☎0596(28)3171

特選コースガイド図

奥美濃

手近に味わえる奥美濃のやぶ山

岩岳

中級コース(★★)

金谷 昭

岩岳は、薄曇桜で有名な能郷の樽見
鉄道の終点、樽見駅から歩いて30分程で
登山口に着ける、里山である。山麓は手
入れされた檜や杉植林、中腹以上はブナ・
ナラ等の多い雑木林、四季折々の樹林美
が味わえる手近な奥美濃のやぶ山であ
る。

平成9年9月9日には、標高に因んで
登山者が殺到したことであるが、今
は一部の奥美濃愛好者にしか登られず、
静寂を保っている。

樽見駅前広場の植込みの裏側にある国
道418号線に出て、左(北)の大須に
向かって歩く。左側から商店街からの道
と合わせて杉林をゆるやかに上って行く。



岩岳頂上3等三角点

林に入る。いよいよ本コース最大の直の
急登が始まる。木の根をつかんでの急登
だが、道ははっきりして迷うことは
少なく、焦らずゆっくりと登れば、ぐん
ぐんと高度が稼げる。

長い急登も少しゆるやかになると、明
るいブナ・ナラなどの雑木の疎林となる。
山腹にはイワウチワの群生が見られ、そ



のうちの尾根右側(上葛谷側)に地形図で
見る崖が出てきて、小さな台地と鞍部に
出る。崖側に能郷白山が望める絶好の休
憩場所である。

鞍部を過ぎると再び急登となり、次の
小さな鞍部を過ぎると最後の急登となる。
これを登り終えると頂上台地にのり、伐
採地の灌木のなかを潜り抜けると、三角
点(999・481、3等 点名標)を中
心とした小広場の頂上である。

以前は樹林のなかの頂上であった。植
林作業が熊田谷側から進み、高木のブナ・
ナラ等を残して伐採されて展望は一時的良
くなった。しかし、日が当たらなくな
り再び灌木が生え始めている。伐採当時

登山口の田畑より見る岩岳



登ると、左側の檜林は変わらないが右側
に雑木林が出てきて明るくなり、道は少
しゆるやかとなる。さらに行くとも側共
雑木林となりさらにゆるやかとなる。伐
採地が出てきて、背後を振り返ると、西
に雷倉、南に魚金山・西台山が望めるよ
うになる。

伐採地を過ぎると再び左側に檜植林が
出てきて、平坦地は終わりとなって雑木

稜線台地の南肩に置かれている。最高部
の1050mは峰は稜線を北にたどった所
にあり、残雪期以外は激やぶと戦わねば
ならない。

三角点からは東北に小白木山、東にド
ウの天井・舟伏山、西に雷倉、南に魚金
山、西北には木の間越しに能郷白山と展
望が良い。また、春なら稜線の山腹に群
生するイワウチワを始めとする山野草が
楽しめる。

頂上での休憩を楽しんだら足元に十分
気をつけて、往路の尾根稜線を忠実にた
どって下山する。

(平成18年4月28日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(15分) 尾根取付分岐(45分) 伐
採地(1時間) 下の鞍部(30分) 岩岳
(1時間30分) 尾根取付分岐(12分) 登
山口

*道標・テープは少ないがある。

△地形図▽2万5千リ谷合・樽見

(問い合わせ先)

本奥市根尾総合支庁会
0581(38)2511
根尾タクシ 0581(38)2013

せせらび

題字・小林玻璃三

前回、先輩と丹波の五大山から五台山を歩いた。今回は越前の六所山に行かないかと誘われた。先輩は数字の付く山の三角点を彷彿している。

六所山だけだと半日で終わるため、花立峠に駐車して先に越知山に登る。越知山(3等612・8)は点名越知山は、日野山・文殊山・吉野ヶ岳・加賀白山と共に越前五山の一つで、秦澄が開山した山だが、明治期に神仏分離で越知山大権現として神社になつたとある。

2万5千の地形図は織田(おた)、織田信長の織田氏の出身地であるという。

花立峠に戻り、東へ車で六所山登山口に向かう。道標には峠

より1・5とあるが実際には2.5ほど入る。六所山登山口から階段を登ると、倒木や下生えが濃くて全く進めない。登山口に降り、左手の小六所山方面に林道を歩き始める。

数十分行くところの手前にまた階段がある。そこから登り始めるが階段は切れ、そのまま突き上げる。やがて林道が出てくるが道は下生えで消えかけている。林道終点と思われる所からV字に戻るように斜面を登りつめる

と、本日二つ目の三角点到着。2等698・3は点名六所山で大満足!

下山は自然いっぱいの林道をとった。この山はおそらくあと数年で大やぶで登れなくなり、

三角点病の患者さんには早急に計画されることをおすすめする。(向日市 湯浅康夫)

20年前、友人に富士山へ登ろうと誘われ、山と名の付く所は大文字山(466)しか登つたことのない私は、「とんでもない」と言い、まずは愛宕山に挑戦してから富士山に行きました。

その時は天候に恵まれ頂上を踏むことができ、雲海のかなたから日光を拝した時のあの感動と感激が忘れられず、それ以来、山の虜になりました。

その後、北山や比良山系そして六甲と歩くようになり、新ハイクング関西に入会させていた

だいてからは、日本全国各地の山々へ、南は開聞岳から北は利尻岳へ登りました。

槍ヶ岳や錦岳は私にはお呼びじゃない、緑の無い山と頭から問題にしていなかったのですが、北アルプスから南アルプスと次々歩いているうちに夢はだんだん大きく膨らんでやがて穂高も槍もと欲が出て、ついに昨年望んだ山々全てを踏破できました。

私の山人生は富士山で始まったのだから、富士山で締めくくろうと長梅雨のなか、1人でツアーに参加し、大雨と強風(25)に吹き飛ばされそうになりながらも、頂上に立ちました。

これで私の山の第一楽章、いや第一楽山の第二楽山は、シニア仲間とのんびり気ままな山行ができればと思っています。

新ハイの皆さん長い間ありがとうございました。(京都市 前田幸子)

9月下旬、北海道の礼文島へ渡り、礼文岳(490)へ登った。礼文島は日本の最北限にある離島であり、花の島として知られるが、時季としてはそれを外れるのが残念だった。その代わり、初秋の澄み切った空気と晴天に恵まれ、礼文岳頂上から360度の展望がじつじつと染しめた。

展望の第一は、何ととっても利尻島にそびえる利尻富士の眺めである。中腹にテラと一筋の雲はかかっていたものの、その全容が見渡せて嬉しかった。

礼文岳への登りの標準コースタイムは2時間であり、通常二倍近くを見込む私としては、珍しく2時間45分で登れたため、頂上では1時間半もゆっくりにできた。土道がほとんどで、水平道が多かったことによるのだろうか。

体力的には私の登山対象外にある利尻富士だが、その眺めはすばらしい一言につきる。

前々日は利尻島を一周する観光にて、東海岸では中腹以上が雲に隠れたままだったが、西海岸では全容を現わしてくれた。

さらに夕方、鷺泊灯台山頂上(ベシ岬展望台)から夕日を浴びて輝く利尻富士を眺めたのだった。そして前日は、礼文島の観光にて、桃岩展望台や東海岸から、頂上が雲に隠れたり現れたりする利尻富士を展望したのだった。

また、利尻島でも礼文島でも、宿泊した旅館の部屋内から海の向こうに利尻富士の麗姿を眺められたことも忘れられ難い思い出となった。

深田久弥さんの「左右に伸び伸びと稜線を引いて美しい山であった。利尻島はそのまま利尻

富士であった」と言われる、利尻島のすばらしさを充分実見したし、岩崎元郎さんが新日本百名山に選ばれた礼文岳に登り、書かれていたこと(ジブング倶楽部への寄稿文など)も十分に理解できたのだ。

帰路、利尻空港から飛び立った飛行機の機中から、薄曇りのなか、中腹に雲をたなびかせている利尻富士に別れを告げて利尻・礼文を去ったのである。(枚方市 東中 宏)

10月初旬、瀬沢の紅葉を見に出かけた。今年は大寒だったからか、紅葉はいつもの年より遅めとのことだった。

徳沢と横尾に2泊もする亀さん歩きだったこと、さらには瀬沢からバノラマコースをくだらずに、横尾山荘からピストン、お天気もいまいちで肝心の瀬沢カールでは青空を見ることがなく風景も物足りないなど、やや消化不良が悔やまれた。

上高地に戻った頃か降り出した雨は次第に強くなった。台風くすれの秋雨前線で、翌日から中部地方以北の山々は荒れ放

題の初冠雪となつて、白馬岳や穂高連峰では死傷者が出る惨事となつた。

我らは幸運で、1日遅いでこの荒天に左右されることなく下山できた。

今年の山歩きは天候に泣かされ、愚痴の出ないことにはなかったが、運はつきものだから、いかなる条件であろうともその時その時を楽しみたいと心した。

これからの山行は、万一の天候悪化による非常食・防寒具等の対策が必要であることを、例會に参加される方々にも十分注意を促して実施していきたい。

北アでの遭難者の方々の冥福を祈りたい。(長岡京市 田中 明)

(山に居て)

オレはたびたび山へ行くだけど山に住みつくつもりはもうとうない帰ってくるのが前提だ

帰れぬ時々考える

帰れぬ時々考える

蛙が言うのもなんですが必ず帰ってこいよ

山の山人生は富士山で始まったのだから、富士山で締めくくろうと長梅雨のなか、1人でツアーに参加し、大雨と強風(25)に吹き飛ばされそうになりながらも、頂上に立ちました。

山で、やまどりの果を見つけた卵を一個いいただき 残りの六個にしるしを付けた

次の日行ってみると七個あったしるしのないのを、また一個い

たいたのだが

次の日、七個になつて

やまどりは、きちんと少子化対策をやっている人間も、見習えー

そこで福沢諭吉に代わってオレが言つ

天は人の上に人を乗せて人を造るこれは、天の声なのだ目をつぶっていても出来る簡単なことなのだ

それをなぜやらぬ、とオレは思うこれは筋違いの論かも知れぬがやまどりをしている

オレは、そう思う

秋色の熊鷹、ぼつぼつと山には食べ物ないからね人里近くで柿食べば人に追われて殺される

これじゃ小熊がかわいそう山奥深く人が行くだけど熊さんまで食わぬ

(熊谷市 山形 明)

(伊吹山)

アッお月さんあげて見たなんとなう 飯しき気持ち吾が前に立つわれ招くまですぐに伸びる登山道月に照らされ足どり軽く 観月会伊吹に登る言葉なく 横たう琵琶湖くろくろとありひと言にたちまち心充たされりうべう吾を月は見ている あげほのさまさまな色葉しんでハイビスカスの紅き茶を飲む

(松原市 松永恵一)

(05年厳冬から万物蠢く春に) 悲しみに浸る山あり ああ この空の蒼さよ 樹の温もりよ 街に居れど 青き空 浮雲眺め 山に笑える日を望み 待つ 在りし日の父と越えし隣道 追憶に浸る間も無く南海に到る 如月は 名ばかりにして 海望む南海の山 陽光に満つ 別の音 果立つ子よ

山も移行く花鳥風月 新しき春 今確かに此に居るのに その事も すぐさま過去となる 竹の秋 春雷と驟雨と吹ゆる犬の声 前日の山行 記しつつ眺く 有難きは名のみなる哉 仏の座 年毎 歌を覆いて難儀す

数奇なれど外で咲いてはくれぬか

と 思いつつ引く鳥の豌豆 黄砂吹く 庭先を這う 天道虫 今年の春も 足早に過ぐ 春山に花咲けど 数多花を見ず 庭先で見る 花木の花 杉葉葉踏みしめ 飛葉愛でながら 岩閉扇吹く 源頭 上る (松原市 藪木伸人)

(山行短歌)

8月27日 北摂丸山湿原 サギソウの花園とかがやく晩夏 友よワインで乾杯しよう 8月31日 比叡釜立山 その人の名前は今もわからない 山上駅で別れて過去に帰す 9月4日 美濃月山 遠き嶺近き嶺あこがれたものは 裏切りもせず在り続けるか 9月7日 美作星山 若き日に書いた手紙の返信を 風が届けるよマツモシソウに 9月15日 播州黒尾山 君恋う夜想曲もう伝えはしない 眠る廃墟の無線中継塔よ 9月20日 播州空山 泣かないで遅し生きなさい 論すかに大馬鹿門は天を指す 9月23日 北信雨飾山

雨時には霧にかわる日もありぬ

星飾る嶺の夜明けを発せば 9月24日 北信鷹狩山 登んだテント車に積み込んで キャンプ地から山へ登り着く 9月24日 中信霧訪山 砂嵐のとき霧のときアルプスの 壁に越えざる恋心を秘めて 9月25日 南信戸倉山 伊那は七谷に伊那富士一つでも 土産話は数え切れないぞ (吹田市 木村太郎)

本誌でお馴染みの須藤岡さんが「新はりまハイキング」(神戸新聞総合出版センター刊、本体1500円+税)を出版された。既刊の「はりまハイキング」と比べてみると、今回は05年秋から06年夏にかけて踏査した一般の人にはあまり知られていない30の山やコースを紹介されている。

目次の山の番号をファミリィ向きコース、一般向きコース、中級向きコースにカラーで色分けしているのが、自分の実力にあった山やコースを選ぶのに便利だ。 播磨の全山城から選ばれた30

の山とコースは、ファミリィ向

き7コース、一般向き18コース、中級向き5コースだから、ほとんどのコースが誰でも歩けるようになるともめらる。 いずれも静かなコースが多く、なかには整備中のコースも含まれているが、単なるコースガイドに終始せず「播磨国風土記」の山や歴史・文化・山名の由来にも触れているのが嬉しい。 コースごとに「おすすめシーン」「周辺の見どころ」を付記。概念図もカラーでたいへん見やすく、カラー写真も豊富で、この本を読んではりまの山を歩いてもらって、「はりま」を好きになって欲しいと願う筆者の優しい心が各所に滲み出て、歩くのはもちろん、読むだけでも楽しい一冊である。 (大阪市 慶佐次盛一)

最近、筆者の苦勞を癒う良書に出会った。「大峰奥駈道七十五階」である。奥駈道を完歩したいと思う人は多いが、期待する案内書を手でできなくて、二の足を踏む人は多かった。 今回のこの書は登山のガイド

のように思い出され、夢中になつて山の話をしてくれた彼女に感謝した。私が店を出るとき、彼女も名残惜しそだった。 (刈谷市 小出良春)

ブックになり得る書である。役

行者から千三百年余り続く吉野川畔から熊野川畔まで連なる大峰山塊の道の様子、修行の場を詳しく解説している。 著者は発心から10年余りの歳月の間に大峰講の一員になって、山伏道と山を駆け修行を続けた。一方、修験者達が記録した数少ない古記録と対比させながら調査し、消えた「藤・窟」を蘇らせた。まさに足で稼いだ現在の大峰山塊の姿である。

当時の修験者達の心を知って山に入るとこれまでと違った山登りになり、筆者の意図に添えることになるのではなからうか。 ゆっくりと良書を読み、挑戦しようと思うのは小生だけだろうか。(姫路市 須藤岡 撰)

最近山より史跡巡りが多くなり、山城を歩くことが多い。 9月に北九州に遊びに行った。新幹線の往復きっぷを買おうと、JR九州全域の普通・特急自由席乗り放題6日間の「九州ゾーンきっぷ」が買えるので、博多から小倉までそれを利用して旅

した。

太宰府防衛の城・水城・太宰府跡・九州国立博物館・吉野ヶ里遺跡・熊本城・岡城跡・宇佐神宮などを見て廻ったが、なかでも岡城跡は「難攻不落の三山城の二」の山城として期待していた。 豊臣秀吉が天下統一を目指して九州に触手をのびし始めると、薩摩の島津義久も、秀吉が九州に来る前に、九州統一を目指して豊後の大友氏へ進攻を開始する。豊後の城が次々と落ちていくなかで踏みとどまったのが岡城であった。岡城には志賀親次の兵わずか千人で、島津の三万の兵を一兵たとりも城内に入らなかつたという。

豊後竹田駅に着くと、滝原太郎の「荒城の月」のメロディが流れている。タクシーで岡城跡に行き、3000円を払って城跡に入る。大手門に至る道の左側はそそり立つ岩、右側は谷。まさに難攻不落の城にふさわしく、期待はますます膨らんできた。「きつとあの城のように遊ばない」と思った。

しかし、大手門の石垣を見て

城内に入ると「あれ?」と思っ

た。どこか違うと感じたのだ。二の丸の滝原太郎像、本丸の土井兼光像、茶屋を見たとき、期待が大きかっただけにガッカリした。どうして像や石碑が城内にあるのだろうか? 城の入口に立てておけばいいのにと思っ

た。 三陟の山城というので、私は兵庫東にある「竹田城」を連想していた。緑の草と壮大な石垣、そして城の入口以外には樹一本生えていない、まさに天空の城・竹田城を考えていたのだ。

トボトボと帰る、大分行き電車待つ間、駅前のカレー店に入ってカツカレー注文した。女店主が「城跡はどうでした」と言うので、「イマイチだった」と言うと、それから話がはずみ山の話になった。

槍・穂高の話になり、25年前にアプミ(岩登り用の梯子)をつかって穂高に登攀した話をすると、身を乗り出して興味深く、「なぜ」「どうして」と聞いてきた。 鈴鹿の御在所岳・藤内壁でアプミの練習をしたのがつい昨日

9月25日、立山三山を縦

走したが、天候に恵まれ最高の展望が楽しめた。 9月10日、雨のなか、芦生を歩いたが8月末に咲いていたナツエビネがまだきれいだ。 9月23日、猫又山へ行った。雲海が1800mの高さに広がり、その上は大快晴。4月の筑ヶ岳で落ちこぼれた2人を含め、全員17名が山頂に立て、360度の展望を楽しんだ。山頂手前で新ハイの1夫妻と出合い、毛勝山まで行く予定と聞いた。

9月30日、例年て初瀬山へ行ったが、霧ヶ馬場山へは時間がなくて行かず。 10月1日、大笠山は入山できず、17名全員がブナオ峠から大門山・赤摩木古山へ行き、一部の人々は奈良岳まで行った。

10月7日、鷲走ヶ岳へ行った。途中で熊に遭遇、熊が逃げたのでよかった。

山行計画
(1・2月)
新ハイキングクラブ賞

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点降の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日なり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円
日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信するのと、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験が必要なコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

1月		2月	
日	行先	日	行先
4(木)	西播・妻田富士	3(出)	美濃・貝月山
4(木)	京都北山・棧敷ヶ岳	3(出)	鈴鹿・電ヶ岳・静ヶ岳
4(木)〜5(金)	白山北方・ブナ才山・中宮山	4(出)	鈴鹿・御所平
7(日)	鈴鹿・高畑・猿ヶ山・高取山	4(出)	京都北山・牛松山・明智越
7(日)	京都北山・天ヶ岳	6(火)	愛宕・碓氷谷・社務所・中尾根
8(月)	美作・那岐山	6(火)	鈴鹿・奥ノ畑谷・清水ノ頭
9(火)	京都北山・半国高山	10(出)	美濃・天狗山・西尾根
11(木)〜12(金)	鈴鹿・藤原岳・御池岳	11(日)	京都北山・愛宕山
16(火)	曾爾・紅ヶ岳	16(金)	紀泉・大山・お菊山
17(水)	醍醐寺・若間寺	17(出)	南勢・牛草山
18(木)	比叡・伊香立越・水井山	17(出)〜18(日)	参詣道・苜蓿峠・ツツラト峠
20(土)	飯高・局ヶ岳	18(日)	鈴鹿・雲山・西南尾根
21(日)	鈴鹿・綿向山	24(土)	比良・蛇谷ヶ峰・富坂尾根
27(土)	若狭・金ヶ崎宮・天筒山	25(日)	若狭・衣掛山・三角点堂
28(日)	六甲・紅葉谷・六甲最高峰	26(日)夜〜27(火)	湖北・虎子山
			京都東山・大文字山・長等山

* マイカー山行

日	行先	定員	リーダー	サブ
3(出)	美濃・貝月山	20	賢見	
4(出)	鈴鹿・電ヶ岳・静ヶ岳	*	筒井	
4(出)	鈴鹿・御所平	*	岩野	
6(火)	京都北山・牛松山・明智越		村田	
6(火)	愛宕・碓氷谷・社務所・中尾根		仲谷	
6(火)	鈴鹿・奥ノ畑谷・清水ノ頭	*10	田中賢	
10(出)	美濃・天狗山・西尾根	20	賢見	
11(日)	京都北山・愛宕山		田中明	
16(金)	紀泉・大山・お菊山	50	西上	
17(出)	南勢・牛草山	*	稲垣	
17(出)〜18(日)	参詣道・苜蓿峠・ツツラト峠	22	村田	
18(日)	鈴鹿・雲山・西南尾根	*	岩野	
18(日)	比良・蛇谷ヶ峰・富坂尾根		秦	
24(土)	若狭・衣掛山・三角点堂		高島	
25(日)	湖北・虎子山	10	山田	
26(日)夜〜27(火)	京都東山・大文字山・長等山	*10	田中賢	
28(日)	京都東山・大文字山・長等山		金谷	

冬期(1・2月)の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画欄に特記してなくても、ロングスパッツ・ケルアイゼン・ストックかピッケル・サングラスなどの雪山を歩く装備で、また手袋・下着・靴下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。

恒例の初歩き
西播・妻田富士(孝煮会)
期日 1月4日(日) 日帰り
集合 JR常野駅9時30分
コース 常野駅→登山口→妻田富士(古墳群)→登山口(至秋会)→常野駅(解散16時頃)
費用 500円(会費)
地図 2万5千1冊千
係 ◎須藤岡 輯
申込み 〒671-1262 姫路市余部区上余部50 須藤岡 輯まで

雪の杖敷ヶ岳を楽しみましょう。積雪が無いときは、石仏峠まで足をのびます。(本誌45ページ参照)。小雨(雪) 決行
展望の山26(新年山行)
白山北方・ブナオ山と中室山
期日 1月4日(日)5日(日) 1泊2日
集合 (4日) JR木之本駅8時30分(5日) JR関ヶ原駅7時45分

雪山ですので、状況によって行ける所まで。スキー場近くの山です。雪で遊びましょう。
雨・雪大決行
鈴鹿を歩く255
高畑・猿ヶ山・高取山 (やや健脚向き)
期日 1月7日(日) 日帰り

京都市北山歩き118
鞍馬から天ヶ岳(中級向き)
期日 1月7日(日) 日帰り
集合 鞍馬出町柳駅8時00分
コース 出町柳駅(電車)→鞍馬駅→薬王坂→三文岳→天ヶ岳→鉄塔広場→シャクナゲ尾根分岐→焼杉山分岐→寂光院→大原バス停(解散16時頃)

京都北山歩き117
萬壽峰から杖敷ヶ岳 (一般向き)
期日 1月4日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅京都バスのりば8時00分
コース 出町柳駅(バス)→岩屋橋→志明院→薬師峠→杖敷ヶ岳(往路)→岩屋橋(バス)→出町柳駅(解散18時頃)
費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

時30分(JR関ヶ原駅7時45分)
コース (4日) 集合駅(車)→里野温泉→ブナオ山(往路)→白山自然保護センター→ブナオ山観察舎見学(車)→民宿「岩間山荘」(新年会・泊)
(5日) 宿(車)→中宮(入浴後・車)→各集合駅(解散)
費用 約16000円(集合駅からレンタカー・宿泊代等)
地図 2万5千1冊市原
申込み 〒503-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

集合 河内線寺院前広場8時30分
コース 寺院広場→中村→高畑→猿ヶ山→高取山→入谷→寺院広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・雲仙・伊吹』
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで *マイカー山行
昨年4月に登り、苔むしたカレンフェルトの岩壁と樹林がすばらしかったので、冬の猿ヶ山と高取山の尾根を再び歩きます。
雨天中止

費用 約2000円(京都から)
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎村田智俊 ○安倉正勝 ○奥比裕美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
雪の天ヶ岳を楽しみましょう。下山は大原へ。早ければ翠嵐山経由でくだります。(本誌49ページ参照)。小雨(雪) 決行
美作・那岐山(中級向き)
期日 1月8日(日) 日帰り
集合 JR西明石駅7時30分
コース 西明石駅(バス)→山の駅→大神岩→那岐山→最高峰→山の駅(バス)→湯郷温泉(バス)→西明石駅(解散19時頃)
費用 約5000円(バス代)
地図 2万5千1冊日本原・大背
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒675-1011 加古川市平岡町山之下684の33・17A403 古賀慶一まで *定員18名 *12月25日まで

回は台風の後で苦勞した倒木も今はすっかり整理されています。行き先変更あり。雨天中止
火曜ハイク28
京都北山・半国高山(一般向き)
期日 1月9日(日) 日帰り
集合 JR京都駅前JRバス8時10分発「周山行き」に乗車(途中からの乗車可)
コース 京都駅(バス)→小野郷バス停→岩谷峠→半国高山→供御飯峠→小野郷口バス停(バス)→京都駅(小野郷口・解散14時30分頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
雪の半国高山を楽しみましょう。雪の半国高山が多いですが、裾まされたサヤぶが枯れていて歩きやすくなっています。雨天中止

集合 (1日) 藤原大目台登山口駐車場11時00分
コース (1日) 登山口→鷹野丘周辺散策→藤原山頂避難小屋(泊)
(2日) 小屋→天狗岩→白粉峠→御池谷ノ平→丸山周遊→奥ノ谷ノ白粉峠→木和田尾→大目台駐車場(解散)
費用 参加費2000円
地図 2万5千1冊電ヶ岳・榛立
装備 避難小屋泊の炊事品・食料・シュラフ・カンジキ・アイゼン
係 ◎筒井克治
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
広大な山頂雪原を巡るコース。冬山装備で、避難小屋泊まりですが、テント泊もOKです。雨天中止
曾爾・西尾根から紅ヶ岳 (中級向き)
期日 1月16日(日) 日帰り
集合 三交バス曾爾登落線・槻ノ木橋バス停10時35分(名張駅10時00分発)

コース 槻ノ木橋→滝川林道→西尾根→紅ヶ岳→西北尾根→弁天橋バス停(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千1冊奥山
係 ◎田中賢治 ○岡田くみ子
申込み 〒518-0626 名張市植根が丘6の2の18 田中賢治まで *定員10名
紅ヶ岳への最短登路。西尾根からやぶ漕ぎで。降雪の場合、簡易アイゼンは役立たないでしょう。靴に着氷を巻いたほうがマシかも。山頂でさややかな新年会を。マイカー参加も可能ですが、酒は厳禁です。小雨決行
北山ちよつと歩き85
醍醐寺から岩間寺(一般向き)
期日 1月17日(日) 日帰り
集合 京都市地下鉄醍醐駅改札口9時00分(醍醐三宮院バス停9時20分)
コース 醍醐駅→三宮院→上醍醐→黒出→平出→岩間山→岩間寺(バス)→石山寺(解散15時30分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千1冊京都東南部

雪の那岐山はどうでしょう。前

◎金谷 昭

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
比較的雪の少ない醍醐寺から岩間寺への旧道礼拝。初詣でを兼ねて歩きます。雨天中止

平日ふれあいハイク61
比敷・伊香立越から水井山
(一般向き)

期日 1月18日(日) 日帰り
集合 地下鉄京都国際会館駅京都バス小出右行きのりば8時40分(50分後に乗車)

コース 京都国際会館駅(バス)
新田-伊香立越-大尾山-御木崎-水井山-横高山-登山口(解散15時頃)

費用 約1300円(京都国際会館駅から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎寺井恒夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
伊香立越から南へ尾根を伝い、大尾山を越え、水井山・横山まで歩きます。雨天中止

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
樹水の綿向山(やや健脚向き)
期日 1月21日(日) 日帰り
集合 熊野登り口蔵王ダム広場8時30分

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*道の駅には温泉あり
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
*有志で飯高山荘無酢産油(自炊)。希望者は「沿希望」と明記してください。寝袋持参
展望良。雨天決行

三重の山91

飯高・局ヶ岳(一般向き)
期日 1月20日(日) 日帰り
集合 道の駅「飯高駅」9時30分
コース 道の駅(車)掘出バス停(車)局ヶ岳神社-滝道-登山口-滝-小峠-局ヶ岳-小峠(旧登山道)-局ヶ岳神社(車)道の駅(解散15時30分頃)

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

コース 広場(車)熊野バス停

林道-文三ヶヶ綿向山-北峰-ブナの木平-塩の道峠-滝山谷-熊野(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨決行

金ヶ崎宮から戦国時代武将頼朝の天筒山へ歩く。今や敦賀市民の憩いの山として親しまれています(本誌71ページ参照)。雨天決行

六甲
紅葉谷から六甲最高峰
(中級向き)
期日 1月28日(日) 日帰り
集合 神鉄有馬温泉駅8時40分
コース 有馬温泉駅-紅葉谷-六甲最高峰-白水尾根-船坂橋(解散15時頃)

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684の33・17A403
古賀慶一まで
*定員15名

で集合可能。希望者はその旨明記ください。

雨乞岳の西側に広がる雪原の谷奥ノ畑谷から清水ノ頭へ。雪の状況によっては西尾根線に届かない場合もあります。輪カン・アイゼン必須。小雨決行

自然観察山行228
スノーハイク
美濃・天狗山南西尾根

期日 2月10日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)坂内川赤い吊橋・登山口P799

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千・美濃広瀬
係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名

昨年中止した再計画。長大な南西尾根を行ける所まで進みます。

荒天中止

花遊り山行37(雲山山行)
京都北山・愛宕山(中級向き)

期日 2月11日(日) 日帰り
集合 清滝バス停9時00分
コース 清滝-空也の滝手前大杉谷左岸-月輪寺分岐

費用 約1000円(京都駅からバス)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎田中明

申込み H.P.からメールで受付
http://hana.04.jp.
infoseek.co.jp

電ヶ岳への北の壁は雪の急登がおもしろく、雪深い滝谷でも雪まみれになって遊びましょう。
雨天中止(雪決行)

紀泉・大山からお菊山
(一般向き)

期日 2月16日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時

コース 富田林駅(バス)新滝ノ池-林道-大山-殿尾山

費用 約3600円(阿部野積駅起点・バス代含む)

地図 昭文社「金剛・葛城・紀泉高原」

係 ◎西上利和 ○木村豊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

冬枯れの山をのんびりと緩走し、お菊伝説で有名なお菊山を目指します。小雨決行

三重の山92
南勢・牛草山(一般向き)

期日 2月17日(日) 日帰り
集合 伊勢自動車道・玉城インター前のコンビニ駐車場

コース コンビニ(車)サニロード・鍛冶屋トンネル・牛草辻-牛草山-牛草辻-鍛冶屋トンネル(車)コ

ンビニ(解散15時頃)

費用 1500円
地図 2万5千・伊勢

申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

遠くに海が見えます。雨天決行

紀伊山地の参詣道を歩く12
伊勢路①
②梅ヶ谷から高坂峠越

期日 2月17日(日) 18日(日) 1泊2日
集合 (17日)近鉄大和八木駅北口8時00分
コース (17日)八木駅(バス)梅ヶ谷八柱公園-高坂峠

梅ヶ谷八柱公園-高坂峠-沖見堂-一里段峠-道の駅(和伊長尾マンボウ(バス)宿舎(②)
(18日)宿舎(バス)梅ヶ谷八柱公園-ツツラト峠-山ノ神-ツツラト花広場-志木-島地峠-国道42号線赤羽口(バス)天理駅(解散18時頃)

費用 約20000円(八木駅からバス・宿泊代等)

地図 当日詳細図配布
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

今回から伊勢路コースで、峠越えの参詣道を選んで歩きます。高坂峠は近世から歩かれ、ツツラト峠は近世以前に歩かれた古い参詣道で、二つの峠越えを共に歩いてみましょう。雨天決行

鈴鹿を歩く258
樹水の雲仙山西南尾根

期日 2月18日(日) 日帰り
集合 河内線甲頭倉上り口広場
コース 広場(車)今畑-落合-汗ふき峠-雲仙山-最高峰-西南尾根-笹峠-今畑(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田景三

〇後継隊

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾根の山行。フクジヤウ・セツパソウは咲いているでしょうか。
小雨(雪)決行

比良を歩く55
蛇ヶヶ峰から富坂尾根
(やや健脚向き)

期日 2月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅バスのりば6時55分

コース 近江高島駅(バス)畑-林道登山口-ボボフダ峠(須川峠)-滝谷の頭-蛇ヶヶ峰-817分岐

費用 約2600円(京都から)2万5千・北小松
地図 昭文社「比良山系」
装備 輪カン・アイゼン・ストッ

ク必携 康夫

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

交代でラッセルが必要なときもありません。新雪の富坂尾根くんだり

が楽しめます。積雪状況により、一部ルート変更することもあり。雨天中止

著瑛の山
衣掛山・三角点堂(健脚向き)

期日 2月24日(日) 日帰り
集合 JR新定田駅9時00分
コース 新定田駅(車)堂区-衣掛山-三角点堂-小河口(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千・敦賀
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

標高は低いコースどりが難しい。マイカー山行可。雨天決行

コース 西岐阜駅(車)井川登山口-日懸峠(往路)-登山口(車)西岐阜駅(帰路)

費用 交通費各自・車代2000円(レンタカー使用時は3000円)

地図 2万5千・平瀬
係 ◎山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南瀬町松山62の19
山田明男まで

雪質が不明ですので、行ける所まで。荒天中止

湖北・南西尾根から虎子山
(健脚向き)

期日 2月26日(日) 27日(月) 前夜発日帰り
集合 (26日)JR米原駅東口
コース (26日)米原駅(車)アシキマタ(足尾川)出合(解散)

費用 交通費各自
地図 1南西尾根-虎子山(往路)-出合(車)米原駅(解散)

期日 2月25日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅6時50分

地図 2万5千 虎御前山・美東
 ③田中賢治○岡平くみ子
 〒518-0626
 名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで
 *定員10名

*マイカー山行(4名まで乗合可能、希望者はその旨明記ください)
 長大な南西尾根から虎御前山を指します。積雪状況によっては頂上へ届かない時もあります。ワカン必携。前夜は雪上泊となります。小雨決行

北山ちよつと歩き86
 京都東山・大文字山から長等山
 (一般向き)

期日 2月28日(例) 日帰り
 集合 京都市地下鉄東西線鞍上駅北口9時00分
 コース 鞍上駅→日向御宮→伊勢通→大文字山三角点→如意ヶ岳→長等山→早尾神社→JR西大津駅(解散14時30分頃)

費用 交通費各自
 地図 2万5千 京都東北部
 ◎金谷 昭

申込み 〒610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 蹴上から東山トレイルを歩き、大文字山から長等山・皇山公園に抜ける日だまりハイキング。
 雨天中止



薬師峠の六体地震 (京都北山歩き90ページ参照)

山行報告
 (9・10月号)
 新ハイキングクラブ関西

奥美濃・母袋鳥帽子岳
 (自然観察山行218)
 9月2日(日) 晴れ

(集合) JR岐阜駅9:15(バス)母袋スキー場11:00 林道登山口11:20 母袋鳥帽子岳12:50(昼食) 13:35 林道登山口15:00 15:50(入浴) 16:30(バス)岐阜駅18:00(解散)

秋晴れの1日、ゆったりとした山歩きだった。登山者のいない静かな山を予想していたのに、浜松から40人もの団体が登って来てビックリ。

(参加者) 朝倉松雄 大須賀 實 石田高敏 福垣豊彦 森野美紀重 内田康彦 金森節子 久保田順一 杉本 高 富田満子 中澤興司博 夏山淳子 宮西和子 村田はる江 森本淳子 若林文夫 ○池谷礼司 ◎賢賢客康 (計18名)

シンジ谷道から堂澤岳
 (比良を歩く52)
 9月3日(日) 晴れ

(集合) JR比良駅8:50(タクシー) 旧比良分岐9:43 シンジの滝9:55 10:07 比良明神の鳥居付近10:36 46 谷道 尾根道分岐ポイント11:10 十ヶサリ場ト山頂駅11:37(昼食) 12:25 金栗峠12:50 13:00 堂澤岳13:35 45 ノノタノホリ15:05 15:15 堂澤岳登山口付近15:35 45 比良駅16:15(解散)

旧登山リフト山麓までテククシーを利用したので、時間と労力が節約できた。シンジの滝の滝壺近くまで降りて浴びた冷風は気持ちよかった。上りは谷道、下りは木陰道で適当に風もあり、夏の山歩きとしては快適だった。

(参加者) 馬籠忠男 松上美代子 西原俊彦 西原悦子 川北重美子 岩本彩子 福岡 章 光川一美子 平田和子 後藤純子 猪野美枝子 藤本紀子 小林 修 竹内喜久子 武村千鶴 上田正子 市井ユリエ 緒方由子 谷 守 神野孝允 中川光郎 加藤元彦 ○松見 昭

◎秦 康夫 (計24名)

山越から葛瀬谷山三角点へ
 (北山ちよつと歩き80)
 9月6日(例) 雨のちくもりのち雨
 (集合) JR京都駅8:30(バス) 山越9:30 長尾山 葛瀬谷山11:10(昼食) 11:50 葛瀬天鳥橋13:10 30 惣務谷13:50 釈迦堂14:20 40(解散)

参加の申込みが多かったが、雨模様で天気はキャンセルが多く出た。愛宕山を展望しながら、嵯峨嵐山周辺の観光スポットも見て楽しく歩いた。

(参加者) 磯部 純 中村静香 若林文夫 岩本彩子 森実美子 岩佐 修 塚本中次 川上香代子 栗柄君子 井上聡英 井上由紀晴 横江 進 後藤純子 山岸勝雄 和田真樹 中村英雄 舟岡 武 谷 守 西尾正子 清 紀嘉 本間 隆 本間響子 光川一美子 石原君子 林 弘毅 小林 桂 市野博文 武田元司 中嶋日出男 ○金谷 昭 ◎奥山繁三(計23名)

登山口から前山までは晴れていたのに、星山に着くと四方の山々は雲に隠れていた。展望は楽しめなかったが、マツムシソウなどの草花に癒められた。

(参加者) 加藤浩一 奥田剛夫 木村 豊 妹尾一正 伊東ナオ子 栗柄君子 志水明美 大園加代子 川上久堅 青木一雄 三下須美恵 澤田高治 川俣富子 成川みさお 小田彰子 米山昌子 池田美恵子 岩本彩子 葉田幸子 中澤ひさ子 村上嘉子 本間昭彦 本家ひさ子 ○西條良彦 ◎木村太郎(計22名)

京都大学畜生研究室
 (芦生定点観察)
 9月10日(日) くもりち雨
 (集合) JR関ヶ原7:15/JR 近江今津駅8:45/道の駅「朽木

山の本の紹介 新刊10月

須磨岡 編著
 『新はりまハイキング 新コース30選』
 神戸新聞総合出版センター刊
 A5判・128ページ
 定価 1500円(+税)

「豊かな自然と歴史が楽しめる播磨を歩こう!」をモットーに、いままで紹介されていないコースを基本に、ため池をめぐるコース・古墳の点在する里山・1000m級の山……、バラエティ豊かな30コースを選んで載せた。新ハイのメンバーも実踏調査に協力した、待望の書。
 本号「せせらぎ」欄(80ページ)の慶佐次誠一さんの文を参照ください。
 ○兵庫県・近畿の有名書店にて発売中(問い合わせ)
 (FAX) 079-1273-3037
 須磨岡まで

本陣) 9・10(車) 生杉休憩所10・00(三因峠) 10・40(泉境) 尾根經由杖谷・地蔵峠分岐11・30(長治谷) 作業所前11・50(昼食) 12・15(下谷の大カマ) 12・45(地蔵峠) 13・15(生杉休憩所) 14・15(車) 近江今津駅15・15(車) 関ヶ原駅16・55(解散)

天気予報通り途中から雨が降り、野田御手前まで西にくだればそこはまた杖谷。長治谷作業所のテント場で昼食をとったが、食事は小雨でよかった。その先の林道で2週前に咲いていたナツエビネが、まだきれいに咲いていたのには驚かされた。

(参加者) 馬場孝子 長坂佐知子 竹田妙英 伊藤喜久男 山田夢子 伊藤恵美子

◎山田明男 (計7名)

御在所岳・国見岳・青岳 (鈴鹿を歩く247)

9月10日(日) くらもり一時雨

(集合) 武平峠8・30(35) 御在所岳10・00(国見岳) 10・50(青岳) 11・20(ブナ清水) 12・30(昼食) 13・40(根の平峠) 14・00(上水品谷) 14・30(クラ谷) 15・10(武平峠) 17・30(解散)

を歩いた所が樹木のやぶになっていて進行もままならず、後線を掘く道になってやっとな歩きやすくなった。カナ山三角点は見つけにくく、先頭があきらめて下山するとき、後方のグループが見届けた。夜叉ヶ峠池には水草が茂っていて、4月に見たときより印象はイマイチであった。

(参加者) 加藤浩一 金森節子 小栗大直 村井寿和 宮西和子 宮野哲郎 川田洋子 中嶋日出男 多賀久子 川俣篤子 小川富士雄 若林文夫 後藤純子 森 美奈子 杉本英一 磯部 純 松上美代子 渡部和美 岩瀬健司 三野 旭 前田初雄 小谷和子 秋枝秀實 櫻川康一 友田 敏 友田美穂子 有兼 登 黒河内東洋明 小松志信 山形 明 武藤由美子 横井夢子 ○安倉正勝

◎奥比叅美 ◎村田智俊 (計16名)

鎌尾根から雲母尾根 (鈴鹿登山23)

9月17日(日) 晴れのち雨

(集合) 宮家溪キャンプ場8・00(中ノ谷橋) 8・40(宮家溪) 9・30(40) 水尻岳10・30(昼食) 11・30(雲母峰) 13・00(17) 9・1

爽やかな風と展望を楽しみながら、御在所岳、国見岳、青岳から鈴鹿で一番の秘境、幽玄の森、ブナ清水にくだって昼食。「腰を据え、ブナと併切るブナ清水、セラピーの森、悠然の屋、武平峠はどしゃ降りの雨、ただし朝、曇り歩いた。

(参加者) 武村千鶴 奥野太一郎 磯部 純 永戸鉄治 光川二美子 荒川義子 友田 敏 友田美保子 神野孝允 高原芳彦 石田真由美 栗本敏夫 小林 桂 的場たか子 谷 守 大西信郎 網木美恵子 池田繁美 稲津謙治 井口俊介 宮城勝江 一芝義雄 一芝美知子 原文子 山田京子 ○後藤康幸 ○山田登三 ○美野 明 (計28名)

京都北山・小野村野岳 9月10日(日) ◎森脇貞義

*雨天のため中止しました。

大坂南都・金剛山 (花遊り山行32)

9月13日(日) ◎田中 明

*雨天のため中止しました。

室生・兜岳と鐘岳から清水山 9月15日(日) 晴れ

(集合) 近鉄御所神宮前駅8・05

一宮家溪キャンプ場14・45(解散) 台風13号で中止の予報が午前中は40%となり、実施としました。宮廷岳の登りでは、岩稜をむき出すピラミダルなピークが狙い。見晴らしよい高度のあるルートと、各自の力量に合わせて登った。東の間の晴れ間、後はガスなかを予定のコースで歩いた。

(参加者) 中井昭一 高瀬芳彦 堤 良男 渋谷節枝 池田隆一 伊東弘隆 梶川軍治 岡平くみ子 原 文字 笹岡洋彦 伊藤喜久男 丹羽康彦 ◎筒井克治 (計13名)

福州・空山 (ファミリーハイク92)

9月20日(日) 晴れ

(集合) JR新大塚駅8・00(バス) 西入口分岐11・20(25) 680(11) 11・45(昼食) 12・20(河内と西河内の峠) 12・40(山頂) 13・40(55) 西河内公民館14・50(55) (バス) エーガイア千種の湯 15・15(入浴) 16・30(バス) 新大塚駅19・15(解散)

千種川沿い登山口からコナラ林の急坂を登り、風が通る尾根道を

空山へ歩く。山頂で平成之大馬鹿門の石柱を見上げ、泉境の三聖山(参加者) 木村 豊 妹尾一正 志水明美 竹田勝英 伊東ナナ子 岩城豊子 本間昭恵 中澤ちず子 村上喜子 本家洗子 渡部和美 山根弘美 長沢佑美 東中次夫 細野欽也 木内純文 小林 桂 奥田則夫 秋葉正人 ○西條良彦 ◎木村太郎 (計21名)

信越トレイル① 鎌尾山・袴岳・毛無山 (自然観察山行219)

9月22日(日) 夜24日(日) 前夜発1・5泊2日

(22日) 晴れ (集合) JR岐阜駅22・00(バス)

(23日) 晴れ (バス) 戸狩温泉宿3・00(半泊) 7・00(バス) 高尾高原ホテル7・30(40) 登山口7・50(袴岳) 9・10(20) 11(1) 坂峠10・35(40) 袴岳12・05(昼食) 12・45(赤池) 14・40(15) 00(バス) 戸狩温泉宿16・00(泊)

(24日) 晴れ 戸狩温泉宿6・50(バス) 毛無山2・7(手前地点) 7・25(清井新道) 7・40(毛無山) 8・30(9) 00(希望湖) 9・30

10(バス) メナシ地蔵9・10(30) 兜岳10・20(連敷) 鎌尾山11・40(昼食) 12・30(清水山) 12・50(新宅) 14・20(35) (バス) 標高神宮前駅15・36(解散)

標高神宮前駅の開通で予定時間より早く登山口に着いた。おかげのんびりと時間調整しながらじっくりと初秋の花々を楽しんだ。

(参加者) 和田穂子 木村 豊 塚本忠次 加藤浩一 志水明美 秋光哲也 須藤浩子 大和 絃 坂庭 栄 森田久子 佐々木輝子 古山幸男 岡田豊治 光川二美子 西岡辰夫 稱 照子 宮路ちへ子 渡部和美 山根弘美 田所真理子 ○東山澄夫 ○前川和佳子 ○西上利和 (計23名)

尾鷲・天狗倉山(三重の山89) 9月16日(日) くらもり時々雨

(集合) 滝原神宮前駅8・15(車) 道の駅海山9・30(45) 下バス停10・00(馬越峠) 11・10(15) 天狗倉山11・50(昼食) 12・30(カンカケ) (オチ) 13・25(35) 水地越13・50(55) 林道14・05(10) 馬越峠分岐15・00(15) 道の駅海山16・00(解散)

時々小雨もあったが霧は無く、山頂・オチ・ボ岩共に馬場良馬。登りではヤマジノホトトギス、林道に出てからはナンバンキセルがよかった。特にナンバンキセルの群生は数にいい姿といい、これまで見たことのものよりもベリーグッドだった。

(参加者) 大西信郎 宮路ちへ子 亀井悦子 林崎 功 宮路並希子 中森義信 陳 登 石田真由美 尚 明助 相次正二 ◎稲垣浩夫 (計11名)

湖北・夜叉ヶ峠池からカナ山 (やぶ漕ぎ山行②)

9月16日(日) 雨のちくもり

(集合) JR京都駅7・20(バス) 近江高山・鳥越林道の高山黒内線作業道入口9・20(30) 作業道終点10・30(18) 43(13) 10・50(9) 9(13) 峠線11・40(昼食) 12・10(夜叉ヶ峠池) 13・40(50) 14・10(14) 夜叉ヶ峠池14・10(18) 43(16) 10(1) 作業道終点16・30(45) 鳥越林道17・20(40) (バス) 京都駅19・50(解散)

町地線線の9・9(13) 峠で昼食が終わるまで雨が降ったが、午後からやんでくれた。4月に残雪の上

(周遊) 10・45(信州中野) 11(11) 30(入浴) 昼食) 13・10(バス) 岐阜駅18・10(解散)

関田山脈に開かれた全長50kmの信越トレイル縦走の一回目。トレイル起点の北信五岳・袴尾山から袴岳・毛無山を歩いた。2日目は時間の都合で予定のコースを短縮し、逆に歩いた。

(参加者) 石川 敏 伊藤 直 近江孝子 栗橋崇吉 栗橋君子 白田孝子 杉本 高 加納由紀子 田中善雄 夏山春子 中澤典司 博 原文子 平田輝美 林 えい子 堀田輝子 松村雅子 三上須美重 森 理代 森本淳子 米山昌子 ○仲谷行司 ◎警員守康 (計16名)

湖西・鎌尾山(週末ハイク75) 9月23日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅8・00(バス) 天増川本所橋9・45(55) 泉境峠10・20(30) P4011(11) 30(1) 鎌尾山12・05(昼食) 13・05(下) 山口取付尾根分岐13・10(15) 尾根集落登山口14・05(20) 本所橋15・15(25) (バス) 京都駅17・15(解散)

ひんやりとした風が吹く秋の爽やかな気候に恵まれ、青葉山や小

浜渡 三方五湖を見渡すことができた。ブナが不作なため、ヤマボウシの実は山の主たちに食されたのか全く見かけなかった。

(参加者) 山本京子 野木あや子 馬籠正男 堀江昭 森 美香子 東中次夫 松尾 修 船越よ子 川原富子 岩佐 修 砂原重美子 若林文夫 川上久登 中嶋日出男 堀内留智 渡部和美 船本裕巳子 中川節子 高橋里美 井林寿奈子 木本恭子 藤田純子 市井ユリエ 園田重章 ○瓜取利明 (計26名) ◎狩野東彦

湖南アルプス・太神山

(地図読み山行16)

9月23日(日) 晴れ
(集合) J R石山駅 9・15 25 (バス) アルプス登山口 9・50 10・00 迎不動10・20 25 迎不動11・30 35 太神山12・05 (昼食) 13・00 矢筈ヶ岳14・05 10 御仏阿原15・05 車道出合15・35 アルプス登山口15・45 55 (バス) 石山駅16・20 (解散)
秋晴れのなか、地形図の読み方とコンパスワークを勉強する山行を楽しんだ。登山道周辺のマツタケ山への「入山禁止」のテープは

目障りだった。

(参加者) 秋光哲也 岡崎知子 後藤純子 岩鶴健司 松上美代子 本間 隆 本間繁子 林 久美子 和田純子 熊木秀雄 藤田トシエ 布施清美 橋本広子 房川順子 前田幸子 ○中村 登 (計17名) ◎塚元 彦

アカイシ(鈴鹿を歩く248)

9月24日(日) 晴れ
(集合) 犬山ダム下寛原バス停 8・20 (車) 深谷林道広場 8・35 アカイシ10・00 P663 10・35 尾根11・50 (昼食) 11・50 山比古地蔵峠12・40 林道13・10 林道広場13・40 (解散)
送電線巡視路を登り、鉄塔に着くと30分でアカイシ山頂に着く。P663を下りた尾根の広場で昼食。マコナ・ツルリンドウ・アケボノソウ等、秋の花々を愛でながら楽しく歩いた。

(参加者) 武村千鶴 磯部 純 余谷 昭 岩本彩子 奥野太一郎 福淵 章 森 謙治 今井みよ子 安澤正雄 栗木敏夫 稲津謙治 宮野哲郎 大西哲郎 小谷和子 角田一江 伊東弘隆 石田真由美

磐田勝利 ○後藤康幸

(計20名) ◎岩野 明
台高
霧降山北東尾根から池木屋山 9月25日(昨夜) 26日(夜) 前夜発日帰り
(25日) (集合) 近鉄株原駅 21・10 (車) 宮ノ谷駐車場 23・00 (テント泊)
(26日) くもり時々雨 宮ノ谷駐車場 7・06 霧降山尾根にのり 56 青空平 (旧奥ノ平植林作業道 合流点) 9・42 霧降山 10・22 池木屋山 11・05 (昼食) 11・52 水越13・32 滝見台 14・45 駐車場 16・27 (マイカー解散・車) 株原駅 17・30 (解散)

駐車場から1000mほど林道を戻り、霧降山北東尾根への踏み跡に入る。見通しが良いので迷うことはない。奥ノ平谷を隔てて、特徴のある姿のシャッポ山を眺めながら、よく踏まれた尾根を霧降山へ。池木屋山から東尾根へ。霧降山・ポツ小雨が落ち、雨具を着たり脱いだり。水越からは水越谷側の巻き道を通り滝見台尾根へ。宮ノ谷下降点からは植林帯を転がるようになり、犬飛び下を徒渉して、

暗くなる前に駐車場へ戻れた。

(参加者) 大村修子 湯浅みや子 根原泰彦 井沢重正 小林 修 伊東弘隆 中島 隆 高原秀彦 鶴岡真吉 林一夫 堀 壽江 中井昭二 近坂美栄 ○岡平くみ子 ◎田中賢治 (計15名)

北摂・竜仙の滝から阿武山

(火曜ハイク24)
9月26日(火) くもり
(集合) 阪急茨木市駅 9・00 10 (バス) 車作バス停 9・45 10・00 竜仙の滝 10・45 55 武士自然歩道取付 11・20 (昼食) 12・10 阿武山 13・40 55 貴人の墓 14・05 桑野橋 14・30 (解散)
天気にも恵まれ、高い山ではないが、武士(ものふ)の道の静かなコースと阿武山をゆっくりと楽しんだ。残念なことは、変電所周辺の山道が車道に変わっていたことである。
(参加者) 宮西和子 山縣勝美 若林文夫 澤田高治 伊東ナナ子 船越利明 松尾久之 松尾ますみ 堀内留智 本間 隆 光川二美子 大林 進 柳川常雄 宮路ちへ子 志水明美 松尾節子 南 ミヤ子

巻田 晃 岩城豊子 船本裕巳子 後藤純子 本家流子 今村あやの 渡部和美 和田直樹 川上久登 中川節子 大和 絃 中川光郎 石原君子 小松志信 妹尾一正 村井寿郎 岩本彩子 ○青木一雄 ○沖 伸 ○加納田純子 (計38名) ◎沖合有司

桃山から左大文字火床

(北山ちよと歩き81)

9月27日(日) 晴れ
(集合) 阪急四条大宮 8・30 (バス) 源光庵前 9・05 11 千束 吉美谷 10・40 吉兆山 11・00 桃山 11・25 (昼食) 12・30 常信寺 13・00 しょうざんゴルフ場前 13・30 左大文字火床 14・10 20 金閣寺前バス停 14・40 50 (解散)
全コース初秋の静かな山を味わい、火床から眺めた京都市街は八割が見えた。
(参加者) 磯部 純 小田潤子 熊木秀雄 岸本苗美 岩本彩子 塚本中次 井上聡美 井上由紀晴 本間 隆 市野博文 市野博文 小林修子 福本芳雄 宮地富佐子 宮崎紀正 丸尾雅美 原 みとえ 西脇 稔 松尾節子 中村賢者 森澤元博 森澤淑子 栗橋君子

山岸勝雄 岩城豊子 清 紀嘉 今村四郎 青木一雄 中嶋日出男 森 和久 中村英雄 野里マツ代 中川光郎 須藤純子 今村あやの 崎山優子 中尾博子 野木あや子 児島孝子 林 弘哉 横川ゆり子 石原君子 松本忠雄 星野正弘 武田可司 武田和巳 和田直樹 妹尾一正 上田孝子 ○余谷 昭 ○呉山三三 (計51名)

若狭・野坂岳

9月30日(日) 晴れ
(集合) J R敦賀駅 9・30 (車) 山区登山口 10・25 第一鉄塔 10・55 第二鉄塔 11・30 南嶺根 11・50 野坂岳 12・45 (昼食) 14・00 南嶺根 14・33 第一鉄塔 15・10 山区登山口 15・50 (解散)
南嶺根に上がるまでは少々きつい登り。南嶺根はすばらしいブナ林。広々とした頂上広場でのおんぴりと昼食。360度の展望に秋のひとときを楽しく過した。
(参加者) 亀井悦子 野末あや子 志水明美 平塚明美 光川二美子 岩本彩子 谷 守 宮口喜久江 渡部和美 池田繁美 加藤謙計 ◎高島信浩 (計12名)

両白山地 初霧山と大門山と奈良岳

(展望の山21)
9月30日(日) 10月1日(日) 1泊2日
(30日) 晴れ (集合) J R西枝早駅 7・00 (車) 天生峠 9・30 45 天生高原 10・45 初霧山 11・55 (昼食) 13・30 木平高原 14・30 天生峠 16・15 (車) 宿 17・00 (泊)
(1日) 雨 宿 6・40 (車) プナオ峠 7・35 45 大門山分岐 9・05 大門山往復 9・40 赤摩木古山 10・10 見越山 11・10 奈良岳 11・45 プナオ峠 14・40 (車) しらみずの湯 15・45 (入浴) 16・20 (車) 西岐原駅 18・15 (解散)
30日は、ゆっくりと天生高原と初霧山を歩き、1日の大笠山は雨で予定を変更し、一部の人が奈良岳まで行ったが、全員、大門山から赤摩木古山まで行った。
(参加者) 馬場種子 長坂佐知子 朝倉佐雄 佐藤文枝 成瀬ちろ子 中神恵子 久米孝子 北村つねみ 吉田峰子 三井絃一 島居信吾 高原芳彦 高島 和 落合ひろ子 谷口英雄 山形 明 ◎山田明男 (30日のみ)

山田妙子 村田紀生 的場たか子 生越重美子 伊藤重美子

(計22名) (自然観察山行220)
9月30日(日) 10月1日(日) 1泊2日
(30日) 晴れ (集合) J R岐阜駅 9・15 (車) 越前大仏駐車場 12・00 (バス) 林道法雲寺線中ノ平 12・30 (昼食) 13・05 三頭山 14・05 前大仏駐車場 16・50 17・00 (車) 六呂師高原ホテル 17・35 (泊)
(1日) くもりのち晴れ ホテル 7・00 (車) 林道法雲寺線中ノ平 7・45 (バス) 林道法雲寺線展望休憩所 8・15 保月山 9・15 20 約子岳 10・00 中岳 10・20 25 切室 10・40 経ヶ岳 11・00 (昼食) 11・50 伏拝 14・05 15 法雲寺山 14・30 35 林道法雲寺線中ノ平 15・35 50 (車) 六呂師高原 17・00 (入浴) 17・30 (車) 岐阜駅 19・40 (解散)
昨年の雨中山頂を惜しむアンケートに答え再行したが、経ヶ岳から法雲寺山への縦走では昨年同様

雨、けれど、法皇寺山からは縦走尾根と背後の加越の山並が眺められた。前日の大師山からの下山後には越前大仏の境内も歩くことができ、大浴場の気分になった。

(参加者) 石川 敏 荻野美紀恵 荻野暢子 上田裕子 堀田輝子 松村純子 和田純子 ○荻野東彦 ○鷺見守康 (計9名)

北信・雨鈴山

(ファミリーハイク93)

10月3日(昨夜)5日(休)

前夜発泊2日

(3日) 晴れ(集合) JR新大坂駅22・00(バス)

(4日) 晴れ(バス) 道の駅白馬4・40(朝食) 5・50(バス)

雨鈴高原休憩舎6・40(朝食) 7・30(ブナ平8・30) 35(霧沢9・15)

25(笹原10・50) 55(雨鈴山11・25(朝食) 12・25(笹原12・55)

13・00(霧沢14・20) 30(ブナ平15・05) 10(雨鈴高原休憩舎16・00)

10(バス) 小倉温泉雨鈴荘16・20(泊)

(5日) くもり(雨鈴荘7・50(バス) 山田旅館資料館8・00(朝食) 8・50(バス) 鷹狩山荘車場10・15)

鷹狩山荘展望台10・20

45(鷹狩山荘車場11・10(バス) 木崎湖温泉11・20(朝食) 13・00(バス) 安曇野スリス村13・40) 14・00(バス) 新大坂駅19・40(解散)

雨鈴山を登り笠置沢に出て、青空に輝く布留姿を見上げた。紅葉の絨毯を敷いた稜線から、日本海を眺めた。後立山を雲が包み、雨鈴山頂では展望がなかった。

翌日は、山岳ドライブを楽しみ鷹狩山頂まで登った。雲に隠れた北アルプス、大町市街や安曇野平が稲穂のように見えた。栗拾いをしながら遊歩道を散策した。

(参加者) 妹尾一正 森実喜美子 金森節子 井上恭子 中尾美智子 平田輝美 牧 和夫 佐々木輝子 石田賢二 村上嘉子 中澤ちず子 本家洗子 栗野暢子 宮路ちへ子 武村千鶴 ○沖 伸 (計17名)

◎木村太郎 (計17名)

新潟の山・守門岳と八海山

10月6日(昨夜)9日(休)

前夜発泊3日

(6日) 雨のちくもり(集合) JR京都駅21・50(バス)

(7日) 雨(バス) 五味沢温泉 菅原荘5・45(朝食) 9・00(バス)

10月12日(休) 晴れ
(集合) JR新大坂駅7・30(バス) 酒善神社11・15 20(水登不動亭11・50) 55(こさつ峠12・25) 30(剣蛇岳12・40(朝食) 13・20) 15(二郎岳13・45) 50(砂防ダム14・25) 酒善神社14・35(バス) コウノトリの郷14・40(朝食) 15・50(バス) 山行温泉乙女の湯15・20(入浴) 17・00(バス) 新大坂駅19・55(解散)

久美浜へ通じる峠越えの道をたどり、山頂から但馬の山々を眺めた。船越コウノトリの郷公園で文化館コウノビアを見学し、コウノトリの生態を観察した。

(参加者) 柳川富雄 伊東ナナ子 宮西和子 若本彩子 久保田瑠子 加藤浩一 小栗大直 砂原恵美子 志水明美 小田潤子 渚本美和恵 村上嘉子 本間昭恵 松上美代子 渡部和美 兼田幸子 秋葉止人 ○中澤ちず子 ◎木村太郎 (計19名)

◎木村太郎 (計19名)

コメカイ道から地蔵山

10月15日(休) 晴れ

(集合) JR堅田駅8・40 45(バス) 細川9・40 10・00(登

スハイキング) 五味沢温泉16・00(8日) 雨 五味沢温泉10・00(バス) 駒ノ湯山荘13・30(泊) (9日) 晴れ 駒ノ湯8・55(バス) 新大坂駅16・35(解散) 台風16号(すれの低気圧の関係で8日まで雨。登山を中止して、守門岳山頂の下見、奥会津観光などし、温泉での湯治で夏山の疲れをとった。9日の帰路では、冠雪の後立山連峰や立山連山を眺めてのバス旅行となった。

(参加者) 山本京子 小川富士雄 山縣勝美 仲谷礼司 船越みよ子 吉植 清 南 利恵 砂原恵美子 徳田暢子 園田淑章 ○瓜取利明 ◎荻野東彦 (計12名)

◎荻野東彦 (計12名)

風越山・鏡子ヶ口

10月8日(休) くもり

(集合) 国道421号橋本尾尾神崎橋8・20(車) 神崎橋林道瀬戸峠直下8・35(瀬戸峠8・45) 風越山9・40(シダ原峠9・50) 東峰11・00(鏡子ヶ口11・05) 南峰11・25(朝食) 12・25(北峰12・45) 須谷川源流登山道13・10(神崎橋15・40(解散)

新ルートで、特にシダ原峠からのシヤクナゲの岩稜急登は辛かったが最高。2時間30分登山に着手。展望を楽しみながらの散策、山頂部のカヤ原は消え、ヒカゲカズラに一変していた。南峰で昼食をとり、下りは北峰から須谷川の登山道へ一気にくだった。

(参加者) 服部 亮 金谷 昭 高橋舞治 三下祐夫 今井みよ子 武村千鶴 小林 修 若本彩子 池田繁美 永戸鉄治 大西節郎 北村 稔 井口俊介 石田真由美 堀田勝利 高杉 博 智恵子 稲津謙治 ○後藤康幸 ○山田景二 ◎荻野 明 (計16名)

◎山田景二 ◎荻野 明 (計16名)

越美・荒島岳と平家岳

10月8日(回) 1泊2日

(8日) くもり時々雨(集合) JR京都駅7・20(バス) 福井インター9・55(バス) 中川コースみすこう登山口10・40(山) 00(林道終点11・20) 1(保12・00頃) 小荒島岳頂上13・00(朝食) 13・30(小荒島岳13・40) シヤクナゲ平14・10(荒島岳15・00) シヤクナゲ平15・40(16・00) 17(ト終点17・00) 勝原スキー場車場17・20(40(バス) フレアール和泉

新ルートで、特にシダ原峠からのシヤクナゲの岩稜急登は辛かったが最高。2時間30分登山に着手。展望を楽しみながらの散策、山頂部のカヤ原は消え、ヒカゲカズラに一変していた。南峰で昼食をとり、下りは北峰から須谷川の登山道へ一気にくだった。

(参加者) 服部 亮 金谷 昭 高橋舞治 三下祐夫 今井みよ子 武村千鶴 小林 修 若本彩子 池田繁美 永戸鉄治 大西節郎 北村 稔 井口俊介 石田真由美 堀田勝利 高杉 博 智恵子 稲津謙治 ○後藤康幸 ○山田景二 ◎荻野 明 (計16名)

◎山田景二 ◎荻野 明 (計16名)

越美・荒島岳と平家岳

10月8日(回) 1泊2日

(8日) くもり時々雨(集合) JR京都駅7・20(バス) 福井インター9・55(バス) 中川コースみすこう登山口10・40(山) 00(林道終点11・20) 1(保12・00頃) 小荒島岳頂上13・00(朝食) 13・30(小荒島岳13・40) シヤクナゲ平14・10(荒島岳15・00) シヤクナゲ平15・40(16・00) 17(ト終点17・00) 勝原スキー場車場17・20(40(バス) フレアール和泉

新ルートで、特にシダ原峠からのシヤクナゲの岩稜急登は辛かったが最高。2時間30分登山に着手。展望を楽しみながらの散策、山頂部のカヤ原は消え、ヒカゲカズラに一変していた。南峰で昼食をとり、下りは北峰から須谷川の登山道へ一気にくだった。

(参加者) 服部 亮 金谷 昭 高橋舞治 三下祐夫 今井みよ子 武村千鶴 小林 修 若本彩子 池田繁美 永戸鉄治 大西節郎 北村 稔 井口俊介 石田真由美 堀田勝利 高杉 博 智恵子 稲津謙治 ○後藤康幸 ○山田景二 ◎荻野 明 (計16名)

一人岩9・20―泉尾根―理想ノ谷分岐10・30―杜鹿ノ丘11・00(昼食)11・40―丸池―お花池12・30―元池―泉尾根―カタクリ峠14・00―タテ谷分岐14・30―コグルミ登山口15・00(解散)

秋日和でホカホカ天気、春先には荒れているコグルミ谷は、今の時期は歩きやすい。きつい樹林のなかを泉尾根まで上がればよいコース。紅葉が始まり、やぶから草原に変わった新生の池ノ平を歩いた。

(参加者) 高原芳彦 池田隆一 大西篤郎 高杉 博 小川富士夫 池田繁美 毛塚一雄 石田真由美 吉川 洋 吉川和子 木村幸子 真島 和 渋谷光雄 渋谷美智子 山野克美 島尾信吾 ◎簡井克治 (計17名)

湖北・土倉谷から土蔵岳
10月16日(明) 17日(火)
前夜発日帰り

(16日) (集合) 近鉄桔梗が丘駅 20・00 / JR米原駅 22・55 (車) 土倉谷(テント泊)

(17日) 晴れ 出口土倉(車) 土倉谷トヤマタ谷出合 7・20―コウブキ谷出合 8・20―土蔵岳尾根

末端(奥) 9・30―土蔵岳11・45(昼食)12・25―コウブキ谷右岸支線経由コウブキ谷出合13・25(キノコ狩り) 14・05―置草地 15・15(マイカー解散・車) 米原駅 17・00(解散)

土倉谷林道は夏の間に修復され、トヤマタ谷出合まで通行可。杉谷出合から先の仕事道は不明瞭となり、生い茂る草をかき分け、消えかけた道跡をたどる。土蔵岳北の肩へ突き上げる西尾根のわずかな踏み跡をたどって頂上へ。頂上の根曲がりブナの木によじ登って、

(参加者) 山形 明 湯浅みや子 梶原泰彦 吉田峰子 南 智恵子 井沢重正 鶴岡真吉 真島知恵 ○岡野千尋子 ◎田中賢治 (計10名)

内田康彦 木村寛子 中澤與司博 田中善雄 佐々木三三代 西田俊治 畑田輝子 森 美智子 山形 明 若林文夫 ○島尾信吾 ◎鷺見守康 (計14名)

北山・瓢箪崩山から箕栗ヶ岳
(火曜ハイイク25)
10月17日(火) 晴れ

(集合) 飯沼八幡町駅 8・45―三宅(軽便車) 9・00―花園登山口 9・20―25―瓢箪崩山 10・30―45―箕栗ヶ岳分岐 11・30(昼食) 12・20―(旧道)―坂原峠 13・45―50―箕栗ヶ岳 14・30―50―飯沼市原駅 15・50(解散)

足に優しい歩きやすい山道ばかりだが凹凸もあり、コースの長さを心配したが皆さん満足されたようだった。

(参加者) 崎山悦子 小川富士雄 須藤浩子 船越利明 塚本忠次 栗橋君子 大林 進 井上啓美 小林 桂 山根弘美 野末あや子 若林文夫 本間 隆 本間繁子 岩本彩子 中川節子 市野博文 渡部和美 和田直樹 青木一雄 武村千鶴 川上久堅 後村美枝子 志水明美 松尾節子 北村つねみ 西 悦子 中村英雄 今村あやの 和田穂子 加藤元彦 光川一美子 磯部 純 白富恵子 佐々木幸子 竹田善英 林 弘毅 村井寿和 ○加納由紀子 ○山藤勝美 ○沖 伸 ◎仲合礼司(計12名)

青木一雄 山本久雄 稲津謙治 藤本紀子 ○磯部 純 ◎金谷 昭 (計32名)

湖西・三重県
(平日れあいハイイク59)
10月19日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅 7・15(バス 南東尾根登山口) 9・10―二重峠 11・30(昼食) 12・30―武奈嶽・ワサ谷道分岐 14・30―右田川ダム 15・50(バス) 京都駅 18・00(解散)

東北に大御影山、西に三十三間山、南に武奈ヶ嶽がある。曲がりくねったブナの幹、踏み跡薄い稜線に山の深さを感じた。

(参加者) 小奥大直 大園加代子 妹尾一正 神 昭司 神 美奈子 山根弘美 堀江房麿 久保田玲子 岩本彩子 加藤浩一 山本千鶴子 岩佐 修 荒木光雄 濱本美和恵 後藤輝子 志水明美 石倉真佐子 和田直樹 上田悦子 ○川上久堅 ◎寺井恒夫 (計21名)

大峰・大所山から琵琶の滝
10月20日(日) 晴れ

(集合) 近鉄大和上市駅 9・00 / 10(タクシー) 登山口 9・45 / 10(タクシー) 登山口 9・45 / 10・00―岩清水 10・55―尾根取付 11・40―大所山 11・55(昼食) 12・20―琵琶湖遊歩道出合―琵琶の滝 13・55―登山口 14・50(タクシー) 大和上市駅 15・40(解散)

尾根取付までの急登に苦しみながらも、岩清水の人工草の出会い、山頂の色づいた木々に疲れも癒された。雄大な琵琶の滝を眺め、秋絶好の登山となった。

(参加者) 東中次夫 竹田勝英 堀内智留 上田久子 船本裕子 渡部和美 岩村孝子 君塚輝子 飯島 啓 馬籠忠男 大園加代子 岡田豊治 ○若本彩子 ○森田久子 ◎西上和利(計19名)

奥美濃 大白山
(自然観察山行221)
10月21日(日) 日帰り

(集合) JR大垣駅 8・55(バス 折越峠 10・40 / 45―ヒノキの大木 11・35 / 45―鉄塔 12・00―大白山 12・50(昼食) 13・45―ヒノキの大木 14・20 / 35―折越峠 15・05 / 15(バス) 大野温泉 16・40(入浴) 17・20(バス) 大垣駅 17・45(解散)

紅葉とともに花を咲かせる珍しいマルバノキ(別名ニマンサク・マンサク科)を観賞し、奥美濃では西の蕎麦粒山、東の屏風山と称えられる、屏風山の見事な山容を眺めて歩いた。

(参加者) 朝倉松雄 荻野美紀恵

京都北山
芦生地蔵峠から久多三層岳
(府県境線歩き①)
10月21日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅 7・15 / 20(バス) 生杉休憩所 9・38―地蔵峠 10・03―8―8―8―11―23―8―1―1―巨杉 12・07(昼食) 12・58―岩谷峠 13・14―二層峠 14・07―20―旧屋敷谷峠 14・50 / 15・00―桑原 15・40 / 16・00(バス) 京都駅 18・30(解散)

紅葉には少し早かったが、ササが枯れてやぶ漕ぎの無くなった原生林の種歩きを楽しんだ。

(参加者) 木村 豊 蓮井佳子 金森節子 竹田善英 村井寿和 岩本彩子 仲合礼司 大須賀 實 松村穂子 堅田 弘 秦 康夫 塚本忠次 小山誠次 濱本美和恵 後藤純子 三野 旭 上田歩子 川上久堅 小谷和子 平塚和美 前田初雄 宮川和生 西脇 稔 三上伸夫 中島 隆 加藤元彦

丹後・由良ヶ岳
(週末ハイイク76)
10月21日(日) くもりのち晴れ

(集合) JR京都駅 7・30(バス 丹後由良荘・由良ヶ岳登山口) 9・50 / 10・00―四合目 10・25―一杯 水 11・00―鞍部 11・15―由良ヶ岳 東峰 11・20 / 30―西峰 11・50(昼食) 12・45―鞍部 13・00―登山口 14・00 / 15(バス) 京都駅 17・35(解散)

明るく開けた東峰と西峰の鞍部に到着し、まず東峰を踏んだ。雲間から陽が差し始め、眼下に日本海の白波が立つ由良ヶ浜、由良川河口がまぶしく見え、東方には青葉山、右回りに若狭、丹波、但馬の山々が少し霞みながら眺みできた。西峰に回って天橋立や宮津湾を眺めながら昼食、帰路には新酒の試飲の道草をした。

(参加者) 山本京子 山根弘美 宮本真幸 宮本悦子 川原節子 澤田高治 沖 伸 渡部和美 秋光哲也 瓜股利明 井林寿孝子 繁田広美 栗橋浩吉 船本裕子

細野欽也 小松志信 ◎若野東彦
鳥羽・神島の灯明山
(三重の山90)
10月21日(日) 晴れ

(集合) 近鉄鳥羽駅 9・10 / 20―佐田浜港 9・30 / 50(船) 菅島(船) 神島港 10・45 / 11・00―八代神社 11・15―神島灯台 11・30 / 45―灯明山(三角点) 12・00―監視 12・15 / 25―祝が浜 12・30 / 35―赤上山 12・50 / 55―祝が浜 13・05(昼食) 洞窟散策 14・30―神島発電所―神島港 15・00 / 30(船) 菅島(船) 佐田浜港 16・20―鳥羽駅 16・30(解散)

天気晴朗で波穏やか。神社でも灯台でも臨眺の晴でも、波り塗上の燦アサキマダラに出会えて感激。鳥羽にはわずか5時間足らずだったが、ゆったりとしたすばらしいひとときだった。

(参加者) 永戸鉄治 水谷陽子 岡田 昇 東中次夫 熊本秀雄 栗橋君子 平 龍一 平 幸子 岩城敏子 武田元司 中藤義信 林崎 功 亀井悦子 ◎稲垣逸夫 (計14名)

大辺路3

伊紀伊原から重巖山・虫喰岩
④紀伊山地の参詣道歩く10
10月21日(日)22日(月) 1泊2日

22日 晴れのち雨 宿舎8・00
(バス) 正法寺8・15 八郎峠9・
15 八郎山(一等岳)9・25 30
八郎峠9・40 中里登山口10・
10 中里バス停10・30(徒歩)11・
00 大宮橋・諏訪神社11・30 市
原峠11・45(昼食)12・15 与根
河池12・30 ゆかし海13・40 駿
田峠14・20 紀伊天満宮14・40 15・
00(バス) 難波駅21・00(解
散)

重巖山公園や八郎山からの展望
は抜群。虫喰岩では地元の方(所
有者)の説明を聞いた。峠越えに
は道標もある。中里東落には全く
無くて市原峠への方向がわからず

に30分間違ってしまった。海岸沿
いの大辺路が本来の道で、今回は
山越えのルートをとったのでわか
りにくかったが、国道歩きより、
ハイキング愛好者にはこちらのほ
うがよいと思われる。

(参加者) 岡崎知子 野末あや子
白屋孝子 和田暢子 伊東ナナ子
中川節子 高橋輝治 武蔵美美子
宮野哲郎 片山克博 片山喜代子
遠藤 幸 小林 桂 河原美代子
中嶋日出男 ○奥比裕美
○安倉止勝 ◎村田智俊(計18名)

北坂・小和田山
(ファミリーハイク95)
10月22日(日) ◎木村太郎
*リーダーの都合により中止しま
した。

山科・音羽山
(地図読み山行77)
10月22日(日) 晴れ
(集合) 京阪大谷駅10・15 卯丸
神社10・20 25 電波塔11・05 15
音羽山11・40(昼食)13・00
1 牛尾観音13・45 55 醍醐分
岐14・40 50 高塚山15・00 長
尾天神社鳥居15・55(解散)

園とコンバスイークを勉強しながら
歩いた。秋晴れの山は爽やかな
風が吹き、色づき始めた樹々が美
しかった。

(参加者) 木内勉文 飯田トシエ
前田幸子 内田昭彦 上田千枝子
本間 隆 後藤純子 岩本いすゞ
小泉定子 西川京子 宮路ちへ子
塩見剛也 米山篤子 林 久美子
○中村 登 ◎塚元一彦(計16名)

コザト・雲仙山・谷山
(鈴鹿を歩く250)
10月22日(日) 晴れ時々曇り
(集合) 栗橋手前広場7・50(重)
白谷林道登山口9・00 コザト10・
00 白谷林道尾根11・10 岩の峰
12・00(昼食)12・50 雲仙山最
高峰12・55 雲仙山13・10 姥塚
山12・20 谷山分岐13・35 谷山
13・55 鹿野岳14・05 白谷林道
15・05 登山口広場16・00(解散)

さらさらの峰への急登と続き、昼
からは雲仙山最高峰、本峰、姥塚
山、谷山へと歩く。けっこうハー
ドなロングコースとなった。チラ
ホラと色づいた黄紅葉を愛でなが
らの充実した山行に全員満足し
た。

(参加者) 服部 亮 葛瀬井 豊
森 健治 安澤正雄 奥野太郎
武村千鶴 若本孝子 南 智恵子
池田繁美 稲津康子 石田真由美
大石将美 永戸鉄治 光川二美子
北村 稔 神野孝允 鶴岡美恵子
谷 守 櫻田勝利 一芝美知子
伊東弘隆 井口俊介 ○一芝美知子
◎山田登三 (計24名)

要道から八丁山
(北山ちよっと歩き82)
10月25日(日) 晴れ
(集合) J R京都駅8・00 10
(バス) 愛宕道バス停9・20 30
一田尻分岐9・55 10・00 1 首
無地蔵分岐先の広場11・35(昼食)
12・45 1 山13・35 清瀬川14・
25 1 観音峰 大覚寺池畔15・40 1
50(解散)

登りは楽しく下りは厳しいコー
スでやや長かったが、快晴に恵ま
れ、昼食時は愛宕山が目の前に見
えた。京都市街や遠方の山々の見
晴らしもよかった。
(参加者) 小田朋子 平田和子
井上聡美 矢野 稔 栗橋哲子
冨田満子 本間響子 後藤純子
市野博文 崎山悦子 須藤孝子
川上久堅 河内正治 磯部 純

岩城豊子 白屋孝子 佐々木幸子
宮崎紀子 妹尾一正 今村あやの
神野孝允 横江 進 渡部和美
中村英雄 舟岡 武 原 みとえ
森 和久 片岡 昇 中嶋日出男
中尾博子 小谷和子 松本忠雄
林 弘毅 栗岡孝子 土倉由希子
角田一江 安良蘭子 和田直樹
○奥谷 昭 ○岩本孝子
○谷 守 ◎奥山登三(計18名)

京都北山・小野村割岳
(花巡り山行33)
10月25日(日) 雨

(集合) 京阪出町柳駅7・50(バ
ス) 広河原9・45 10・00 佐々
里峠10・50 11・00 磯崎駅11・
23 1 P 8 4 0 11 26 1 P 8 3 2 11 1
52 1 青杉生古木11・58(昼食)
12・40 1 P 9 1 1 13 25 35 小
野村割岳13・55 14 10 1 ワサ谷
林道終点14・20 1 ゲート15・05 1
20 1 最後一軒家16・08 1 下の町16・
25 1 7・19(バス) 北大路駅19・
00(解散)

西 悦子 山縣勝美 飯田トシエ
水落丞夫 大東 哲 下村啓子
山根弘美 西脇 稔 中川光郎
○西原辰夫 ◎田中 明(計19名)

大峰・大天井ヶ岳から小天井岳
10月27日(日) 晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
10(バス) 五香園9・40 10・
00 1 大天井ヶ岳11・00 1 小天井岳
12・00(昼食)12・30 高山13・
30 1 旧小南峠13・50 1 川戸15・10
1 20(バス) 橿原神宮前駅16・10
(解散)

更して鍋倉山の巨木の谷を歩き、
ブナ巨木・森姫・森太郎を訪れた。
わが国でも有数のブナ林の広がる
鍋倉山周辺の華やかな錦標を堪能
した。
(参加者) 伊藤 直 内田康彦
近江秀子 金藤由子 加納由紀子
栗橋崇吉 栗橋君子 小松志信
白屋孝子 杉本 高 徳田暢子
鳥居信吾 夏山春子 中澤典司博
西田俊治 平田輝美 堀田輝子
松村雅子 森 美香子
○仲谷利司 ◎鷺見守康 (計21名)

遠藤 率 遠藤和子 堀 良男
 谷 守 加藤蘭計 ◎高島伸浩
 (計11名)

飛騨・川上岳(展望の山22)
 10月29日(日) 晴れ

(集合) JR西岐阜駅6・50(車)

開道の車止8・30〜50(林道終点
 10・50) 萩原道合流12・10(宮村
 道合流12・20) 川上岳12・30(昼
 食) 13・00(林道終点14・15) 車
 止15・40(車) 西岐阜駅19・05
 (解散)

予定を変更して開道から入った
 ので、林道歩きが2時間以上かかっ
 た。紅葉はすばらしかったが、山
 頂からの展望はイマイチだった。

(参加者) 小林一世 生越重美子
 久米孝子 春見重美 伊藤恵美子
 朝倉悠雄 ◎山田明男 (計7名)

高見山地・修験業山から三峰山
 (やぶ清き山行③)

10月29日(日) 晴れ
 (集合) 近鉄榛原駅8・10〜25
 (バス) 川上八幡神社9・25〜40
 一修験業谷堰堤10・30〜40(支尾
 根11・10) 主稜線11・40〜50(修
 験業山12・10) (昼食) 12・45(黒
 峰山14・00) 湖谷山14・15(平倉
 峰15・00) 三峰山15・40〜45
 一不動滝登山口16・45〜17・00
 (バス) 榛原駅18・00(解散)
 サヤやぶは消えて皆無。ブナ林

とヒメシヤラが美しい落ち葉道を
 歩いた。紅葉も始まっており満足
 の1日であった。稜線までは急登
 の連続で苦しいが、稜線上は一級
 の登山道である。

(参加者) 鮫田二郎 久保田玲子
 岡崎知子 蓮井洋子 大園加代子
 妹尾一正 竹田善英 船本裕巳子
 川田洋子 宮野哲郎 野末あや子
 多賀周二 多賀久子 野末あや子
 杉本英一 上田久子 村田はる江
 中川節子 永富律子 小川富士雄
 東中次夫 川俣富子 岩佐 修
 若林文夫 志水明美 横井恭子
 波部和美 上田裕子 山根弘美
 首藤育子 川戸せつ 森田久子
 三野 旭 西原辰夫 前川和佳子
 岩本彩子 友田 毅 友田美保子
 大石吉彦 ◎安倉正勝
 ◎呉比佐美 ◎村田智俊 (計16名)

台高・北股川源流から池木屋山
 10月30日(月) 夜〜31日(日)
 前後夜日帰り

(30日) (集合) 近鉄榛原駅21・
 10(入ノ波約公園22・50) (テント
 泊)

(31日) 晴れ 入ノ波約公園(車
 北股川林道車止8・00) カクダ谷
 出合8・30(クズレ谷出合9・05

北西尾根經由主稜線10・44(池
 木屋山11・50) 小原池12・00(昼
 食) 13・00(霧降山13・20) 十里
 峰13・50(南西尾根經由北股川林
 道終点14・45) 車止(南西尾根)
 26(車) 入ノ波約公園16・15(現
 地解散・車) 榛原駅17・35(解散)
 前後は、予定を変更して水場とト
 イレのある入ノ波約公園に泊
 北股川林道はカクダ谷終点2(手
 前地点までで通行止。終点付近の
 尾根のカーブ地点から本流へくだ
 る。本流は少々徒渉があるが水量
 少なく問題なし。クズレ谷出合ま
 で本流を行き、ホウキヶ峰西側へ
 の尾根を取り付く。下部は急な尾
 根だが、登るにつれ広々としたブナ・
 ミズナラの尾根になる。青空に色
 づいた紅葉が映えて美しい。台高
 主稜へ出る日射が暑いくらいで、
 池木屋山の登りでは大汗をかき、
 頂上北の小原池跡の草原で昼食。
 食後は秋のお約束、ナメコ狩り
 り! 主稜を北へ霧降山、千里峰
 へ。千里峰から道標に従い、南西
 尾根の踏み跡をくだる。道は途中
 から尾根を外れ、カクダ谷側の急
 な斜面をくだるので、テープマー
 クがないとわかりにくい。伐採飯
 場跡を過ぎるとカクダ谷の堰堤上

に出で、北股川林道に下り立つ。
 天候に恵まれ、心む秋の1日を
 過ごした。

(参加者) 緒方由子 大村俊子
 梶原泰彦 小林 修 井沢重正
 鮫田二郎 松村雅子 伊東弘隆
 筒井克治 福本樹子 山口敏明
 上西久子 ◎岡平くみ子
 ◎田中賢治 (計14名)

海外特別山行
 スイスアルプス・ハイキング
 満喫9日間
 9月11日(日)〜19日(火)

(集合) 関西空港9・45
 (11日)



マッターホルンをバックに(提供 下村啓子)

11・45(バンコク空港15・35)
 16・40(バンコク市内観光) バン
 コク空港20・20〜0・30(機中泊)
 (12日) くもりの晴れ チュー
 リッヒ空港7・10〜8・10(電車)
 ベルン9・30(ベルン市内観光)
 12・00(電車) ツェルマット15・
 25〜16・24(電車) ツェルマッ
 ルグ17・00(山上ホテル) 泊
 (13日) 晴れ ツェルマッベルグ
 8・30(電車) ゴルナーグラード
 展望台9・00〜40(リッフェル湖
 10・40) ローデンボーン12・00
 (昼食) 13・00(リッフェルアル
 プ14・50(電車) ツェルマット15・

20(ホテル) 泊
 (15日) 雨のちくもり ツェルマッ
 ト8・45(ロープウェイ) 9・00
 一シュバルツ湖(北股ハイキング
 ツェルマット村14・30) ツェルマッ
 ト15・20(市内観光) ホテル17・
 00(泊)
 (16日) 晴れ ツェルマット8・
 30(電車) カンデルシュテーク11・
 30(リフト) 駅11・45(リフト) 山
 上駅12・00(エッシェン湖12・25
 (昼食) 12・55(山上駅13・15
 (リフト) リフト駅13・25(カン
 デルシュテーク14・00(電車) グ
 リンデルワルト15・50(電車) グ
 リンデルワルト16・55(ロープウェイ) メ
 ルンディヒェン17・25(山上ホテル
) 泊
 (16日) 晴れ ホテル6・00(マ
 ニベン山頂) ホテル7・00〜30
 一クライネシャイデ10・15(電車)
 ユングフラウヨッホ11・00(スワイ
 ャンクス展望台) ユングフラウヨッ
 ホ12・50(電車) アイガーレック
 チャー駅13・15(山中ハイキング
 一クライネシャイデ15・30(電車)
 グリンデルワルト16・30(ホテル
) 泊
 (17日) くもり一時晴 グリンデ
 ルワルト9・30(ロープウェイ) 駅

10・00(ロープウェイ) フィンゲ
 シュテック10・20(オーバーグレッ
 チャー) 氷河末端のハイキング(登
 山口14・30(バス) グリンデルワ
 ルト19・50(ホテル) 泊
 (18日) くもり グリンデルワ
 ルト7・30(電車) チューリッヒ空
 港11・30〜13・30(バンコク空港
) (機中泊)
 (19日) バンコク空港20・20
 30(関西空港) 00
 スイスの二大山岳景勝地のツェ
 ルマットおよびグリンデルワルト
 では幸い天候に恵まれ、マッター
 ホルンを代表とするヴァリス山群
 とアイガーを始めとするユングフ
 ラウ三山のすばらしい景観に感動
 の連続であった。往路のバンコク
 での飛行機乗り換え時間にバンコ
 ク市内見物、スイス国鉄乗り換え
 時間のベルン市内見物の余録もあ
 り、主観通りの満喫の9日間であっ
 た。

(参加者) 高島伸浩 高島洋子
 杉野茂樹 杉野洋子 澤井俊子
 福岡紀子 高木和則 田邊美洋子
 河内正治 下村啓子 岩本彩子
 金谷 昭 (計12名)

(9・10月の参加 延1056名)

新ハイキング関西ホームページの案内

最近、山の情報をインターネットで見られる方が増えています。新ハイキング関西では、平成16年からホームページを作成し、「山行計画」「会報誌の目次」「入会のご案内」「会員ホームページの紹介」等を行っております。

新ハイキング本社（東京）のホームページにもリンクしており、アクセス数も徐々に増加し、現在は月間1000~1500件の閲覧があります。

新ハイキング関西のホームページをさらに充実するため、会員ホームページのリンクを増やしたいと思います。会員同士の情報交換や入会希望者への参考になります。会員の方でホームページをお持ちの方は担当の西村までアドレスをご連絡ください。

新ハイキング関西ホームページ

URL: <http://www.w5f.biglobe.ne.jp/~hanatabi/shinhai>

（「新ハイキング関西」「ハイキング関西」で検索ください）

担当 西村文男 Mail: hanatabi@kyp.biglobe.ne.jp



新ハイキング関西 山行リーダー紹介（平成19年1月現）

氏名	例名	住所	電話
稲垣逸夫	(三重の山)	鈴鹿市	0593(71)0246
岩野 明	(鈴鹿を歩く)	近江八幡市	0748(33)7215
金谷 昭	(北山ちよっと歩き)	京都市	075(581)7947
狩野東彦	(週末ハイク)	向日市	075(933)1458
木村太郎	(ファミリーハイク)	吹田市	06(6834)5488
古賀慶二	(兵庫・中国地方の山)	加古川市	0794(26)1890
須磨岡崎	(兵庫の山)	姫路市	079(273)3037
鷺見守康	(自然観察山行)	各務原市	0583(83)3978
高島伸浩	(若狭の山)	敦賀市	0770(23)2443
田中 明	(花送り山行)	長岡京市	075(954)5758
田中賢治	(奈良・三重の山)	名張市	0595(65)3749
塚元一彦	(地図読み山行)	大阪市	06(6933)4125
岡井克治	(鈴鹿遊山)	鈴鹿市	0593(83)4058
寺井恒夫	(平日ふれあいハイク)	京都市	075(811)5231
仲谷礼司	(火曜ハイク)	長岡京市	075(952)1577
西上利和	(奈良周辺の山)	河内長野市	0721(63)7196
秦 康夫	(比良を歩く)	京都市	075(491)2373
山田明男	(岐阜百山)	海津市	0584(56)1466
森脇貞義	(湖西の山)	高島市	0740(22)5088
村田智俊	(やぶ漕ぎ山行)	城陽市	0774(53)2754

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で16年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

「新ハイキング関西」の山を毎月お届けします。

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさん入会いただけます。

年会費 5000円(ワッペン共)
入金の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号確実にお手元に届きますので便利です。
切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

〇山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回程度、山行例会を計画・実施していただきます。無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マネージャー「リーダー必携」をご参考に送ります。

〇新入会員(定期購読者)紹介

- 【滋賀】 田島雅昭 芳沢俊夫
- 【京都】 田中敦雄 田中みさ子 御領育子 楠田美佐子 今泉 勲 淡谷ヨシエ
- 【奈良】 内田昭彦 大久保通隆 吉田雄三
- 【大阪】 加藤美紀 佐々木幸子 NPO法人歩歩会
- 【兵庫】 下郡正年 山口充代
- 【高知】 城戸照彦 (18名)

訂正とお詫び

91号(晩秋)17ページ付近略図の権現山の標高「1174.3m」は「996m」が正しい。
91号(晩秋)20ページ上段6行目「田村川」は「三箇川」が正しい。同ページ写真の説明「ヤマアジサイ」は「コアジサイ」が正しい。
91号(晩秋)37ページ上段後ろから2行目「吾輩して」は「吾心して」「吾生して」が正しい。

91号(晩秋)46ページ下段18行目「今はもう秋、何も無い秋」は「今はもう秋、誰もいない海」が正しいが、それを文脈に合わせてこのように表現したとご理解ください。
91号(晩秋)71ページ付近略図の「亀岡市」は「亀山市」が正しい。
91号(晩秋)79ページ四段後ろから5行目「松戸岳」は「坂戸岳」が正しい。
91号(晩秋)96ページ三段9行目「太山寺登山口」は「大山寺登山口」が正しい。
91号(晩秋)107ページ二段後ろから11行目「無道寺」は「無道寺」が正しい。

(編集委員)

書店でお求めになりたい方へ
前もって番号ほしいと「購読予約」をされますと、この書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は毎月20日頃(隔月刊)の発売日。